#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1066 号 2025-1-2



あけましておめでとうございます。旧年には大変お世話になりました。 新年も相変わらずご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

新年 2025 年は「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」のスローガンの もとに活動を始めて 29 年になり 30 周年記念前年となります。立派に記念日 (2026 年 5 月 17 日)を迎えられるように躍進が見通せるように共に頑張りま しょう。皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします

2025年 元旦

特定非営利活動法人 理事長 大村幸正













#### ●雨天の中での七草摘み20名の参加で開催

天気予報の通り、弱い小雨が降り続 く天気でした。しかしスタッフの皆さ んは集合時間9時には勢揃いをされ、 舞台飾りや床の水濡れ場所のふき取 り、昨日作り上げたお椀への祝い札の 貼り付けなどの雰囲気づくりを進めて いただきました。あいにくの空模様で したので飛び入り参加者がなく、開会 挨拶に続いて昨日用意いておいた七草 を刻んでお粥に投入し、炊き上がった アツアツのお粥をいただきました。40 人程度の参加があると予想していまし たので出来上がった七草粥、いも粥、 黒米粥の3種類をしつかり食べていた だくことが出来ました。一通り片付い たところで余興に移り深山木亭谷野介 さんの手品に続いて腹話術の披露、二 人目は八幡亭黄金亭さんの紙皿まわし の芸を披露し参加者の皆さんにも皿回 しをやっていただきました。伊藤さ んや竹門先生が熱心に取り組んでお られました。例年に比べて少人数で

の取り組みになりましたが、みんなが参加出来て楽しい初 顔負わせの会となりました。事前準備として前日5日の 9:30から「子ども書初め会」が実施。26人が参加されそれ ぞれみなさんが達筆を披露されました。









七草摘みの前日準備作業 書初め

















東北・青森は12年ぶりの豪雪 低気圧と寒気の襲来です 太平洋側は雨でした



七草がゆで
一息ついて
京田辺
京田辺市の里山農園で6日、七草がゆを食べる会が
あった。NPO法人やまし
入があつまり、正月のごち
そう疲れに一般いれた。中
次洋斗さん(4)は「天の・
しさから逃れて、あったま
るな、もうすぐ着がくるな
という感じです」とは
た。 (下地殿)

朝日新聞に掲載 1月8日朝刊

#### ●木津川ワンドの視察調査を実施 1月7日(火)

京都府自然環境課から 3 名の皆さんと里山の会から 3 名が参加しました。玉水浜の三つのワンド(下流から  $A \cdot B \cdot C$ 、)があり、A ワンドではトラ罠がしかけられてキツネが捕らえられているのを発見しました。年末に駐車場やワンドへの通路の除草をしていただいたので調査が進めやすく行われました。B ワンドにはトンガリササノハガイの貝殻がたくさん見つかりました。また上流の C ワンドには水がほとんど消えていました。木津川本流の水位は平均 -2.6 m ですので、当日の水位は -2.9 m で、これから 30 cmの低下が考えられます。タナゴ類の産卵は二枚貝にうみ付けるので、水位の低下する冬は貝の中で卵が生き延びるので、Cのワンドでもいる可能性があります。

#### ●新年第1回事務局会議 1月8日(水) 参加者の皆さんの正月の話を聞きました。

大晦日に息子が帰宅したので夕食で歓迎会の食事をしました。6日に七草の参加をして、7日には農園の作業日に出席をしました。

正月には昭和の万歳農園の撮影場所探しをしました。棚倉彦神社や甘南備寺付近ではないだろうかと気づきました。 孫(3歳と1歳)たちが元気にしゃべりだす相手をしました。

便秘で悩んでいるとか正月に睡眠 できず体重が 5 kg減量になったと か体調不備の連絡があった。自身 も下痢が続いている。 全が日は孫とバレーなどをした。年を重ねたので自分ペースの動きになってしまいます。5日にはお椀つくりで親指を負傷してしまいました。七草は少雨でゆっくり楽しみました。

寝正月として過ごし7日の 初出勤で木幡池の水位調節 に苦労しました。

年末に大変寒い中、朝まで和歌山で磯 釣りを楽しみましたがカサゴなどを釣 りました。帰ってきた息子などに新鮮 な刺身を御馳走しました。

…などの近況報告がありました。

#### ●年末12月24日の「ちゃるむ」さんからしめ縄つくりのお礼の手紙が届きました。

放課後デイサービス ちゃるむの大垣です。昨日は貴重な体験をさせて頂いて、子どもたちにとっても、職員にとっても素敵な時間となりました。ありがとうございました。子どもたちに合わせて、簡単なデザインもだしてもらい、おかげで短時間ではありましたが、集中して取り組み素敵なしめなわができたと思います。失敗してもやり直していたり、講師の方と一緒に取り組んで



いる姿を見てとてもいい経験をさせてもらっているなと感じました。大村さんのしめ縄の説明など細かく教えもらえたので、私たちも勉強になりました。色々、準備をしてくださりお気遣いありがとうございました。そして自己紹介では、初めての方へ小声ながらも声を出して言えていたことに驚きました。しめ縄作成後の自然遊びや、道具を使った遊びなどでは、講師の方から誘ってもらって自然と遊べていたように感じ、竹切りやハンマーは手応えになっていたようでした。帰ったあとに感想を聞くと「楽しかった」と皆満足そうでした。こちらとしてはまた参加したい気持ちでいっぱいです。今回の子たちは、今年度で卒業の子たちですが、また他のイベントでも、参加できそうなタイミングがあれば参加させていただけると嬉しいです。

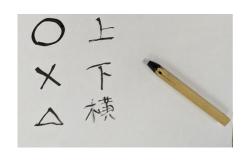


京都新聞に掲載 1月5日 朝刊

#### ●年の暮れに竹ペンを作っているのならこうしたものを作れないかと注文が寄せられました。

さっそく素材の矢竹を捜しましたが思うように見つけることが出来ませんでした。それならこれまでの材料で希望されているものが試作できないかと絞り込んで試作しましたら、このような品

物が出来上がり、来所中の墨画の先生に使って見てもらいいました。筆のような書き味や趣は難しいけれどかなり使い手の心が表現できる面白い道具になるのではないでしょうかと感想をいただきました。7日に注文先が来訪してくださったので、正式に契約となれば嬉しいですね。



#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1068 号 2025-1-16

#### ●若手のための生物多様性保全研修会 2月2日(日)、2月8日(土)

河川保全を知ると題して「竹蛇籠と河川保全」…河川工法の将棋頭型竹蛇籠水制として9時40分から13:00まで木津川(玉水橋広場)で開催をいたします。現在参加希望者は14名の方々が応募されています。私たち里山の会は青年たちにとって良い経験となるので京都府自然環境課の主催を支援して協力いたします。まだまだ参加に余裕がありますのでご参加ください。雨天でのプログラムも用意し愉快で有意義な取り組みにしようと張り切っています。

そのために竹蛇籠を 6mの長さに作り直す作業を 1月8日に行いました。この日は冷たい北風がカルバートを吹き抜けましたが、スタッフの皆さんは元気を奮い起こして頑張っていただきました。3時間ほどの作業で完了させることが出来ました。これで予定日(2月8日)には設置することが可能になりました。必要な流れ止め杭や、重しの栗石などについては河川内のもので用意できるようにと手配をしています。寒さ厳しい河川敷の作業ですが防寒対策をしっかり行って多くの方がご参加くださることをお願いいたします。設置されれば魚たちが安心して住むことのできる場所が作り出されることになります。

若手のための生物多様性保全研修会 案内 HP

https://www.pref.kyoto.jp/biodic/news/20241214\_wakatekensyu.html

#### ●京都府環境フェスティバルが京都市伏見区竹田のパルスプラザで開催されます。2月1日(土)

里山の会は毎年参加してきましたが、今年 2025 年は親子工作として松かさツリー作りと竹鉛筆つくりを参加者に提供する段取りをしています。そして活動内容の説明には A-1 のポスター8~10枚を掲示する予定です。そして初めて中学生二人の観察活動ポスター(キタキチョウ等)での説明発表準備をお願いしていますのでご期待ください。

京都府環境フェスティバル HP

https://kyoto-kankyofes.com/

#### ●炭焼き体験教室

炭焼き体験教室は里山の会として結成以来実施してきましたが、今年は原木から切り出す作業から開始いたします。これまでだと生木は窯詰めして着火(2月22日を予定)するには少なくとも30日は乾燥させる期間が必要だとされていますので、1月22~24日の三日間に原木を切り出し、太いものは割っておきたいものです。山には大木がたくさん生えていますが、運び出すには力が必要ですので、今後このような取り組みはかなり難しくなるのではないかと思います。貴重な体験が出来るチャンスでもありますので積極的にご参加ください。

#### ●年が変わりまして 2024 年度年間事業の実施報告書を作成に取り掛かっています。

年間活動ではイベントの参加者は 1884 人、里山農園作業参加者は 491 人(10 月分を含まず)で、 木津川希少種植生調査管理業務参加者の実働時間 533 時間の作業でした(多少の変化はあります)。このような実績を参考にして次年度はどのような活動を展開すればいいのか、また新しい活動と開催時期の提案を皆さんからお寄せください。新年度の活動やイベントについてご意見を里山の会にお寄せくださると大変ありがたいです。

#### ●訃報 初代やましろ里山の会 会長 山本雅晃さん(93歳)が逝去されました。

葬儀は1月15日で大村理事長、播川前理事長、森島副理事長、山村常務、伊藤喜明夫妻がお見送りをいたしました。里山の会が発足してカネもないモノもない会員も少ないというナイナイづくし時代に理事長職を引き受けていただきました。そして10周年記念事業をやり遂げ里山の会の事務所実現に力を発揮され、事務所体制を整備されてきました。豊富な人間関係を活かして多くの顧問就任に力を発揮され、後任者育成に努力されてきました。会誌発行には懸念の声が大きい中において、必要性を説き里山の会の芯柱を築きあげられました。今事務所で使用している事務机と椅子は定年後勤務されていた会社で更新するにあたって、里山がもらい受けて頂きまして現在も使用させていただいています。木津川の高水敷での家庭菜園づくりに精を出し、植物関係の事業全般のリード役を果たしていただきました。若い時から毛糸編み教室の講師をされておられた奥様を失われた後もピンピンコロリが大事だと木津川堤を歩いて健康に気を使っておられました。しかし93歳の高齢による体力の低下にはいかんとも仕方なく肺炎を発病され93歳の天寿を全うされました。四国から単身京都府職員として就職し、面倒見の良い監督者として部下を数多く育成されてきました。まことに惜しい山本さんを失ったことは残念です。ご冥福をお祈り致します。

ワ人で草木灰作リ·炭窯の整理 農園部会だより

#### ●1月11日(土) 里山農園にて

里山農園の気温は低かったですが、日差しがあり暖かい1日でした。と言っても里山農園は寒かったこともあり、集草した草を利用した草木灰作りをしながら暖をとりました。また、翌日の朝市に向けて残りの大根を収穫しました。さらに、炭焼きでお世話になっている炭窯が里山農園から車で数分のところにありますが、炭づくりに向けて整備作業も併せて実施しました。作業ではありませんが、昨年11月から12月に植えた玉ねぎは、寒さにも負けずじっと耐えて、暖かくなってきたら成長して美味しくなってやろうと準備しているようでした。



作業予定の確認の様子



集草した草で草木灰作り(水の入ったバケツも準備)

#### ●炭焼き体験の原木確保が進む 軽トラック 4 台分の内 2 台分確保できる

日本の歴史で明治時代以後、石炭が使用されるまでは里山の木材が 生活の必需品として長い間燃料として使用されてきました。また戦 後も薪や木炭として貴重な燃料でしたが石炭や石油、プロパンガス 等の化石燃料の普及から需要が無くなることになりました。現在は わずかに伝統産業の技術伝承的に名残を残すことになっています。 里山の会はこの技術伝承としての取組経験のために開催を毎年実施 として開催しています。原木の切り出しからの取り組みを行います ので、お手伝いにお越しください。



写真は強風で倒れたものです

#### ●竹サインペンの制作の傍ら竹の付けペンの注文がありました

竹サインペンの制作を知ってこのようなものを作っていただけないか、と相談がありました。私たちはいろいろ思案と施策を繰り返して、今の道具で注文相談を引き受けることにしました。調べてみますと市販価格は 2,000 円の販売価格で売り出されていて、すごく高価なものではないか思いましたが、竹ペン製作の経験を活かして試作すると出来栄えは十分なものになっていました。一部を納品してみようと思います。個性豊かな面白い墨字が掛けるものです。

#### ●木津川希少種植生調査管理業務の業務報告書 下見点検を受ける

木津川の植物の生育は里山の会の調査では917種(八幡市からと加茂町の範囲で)であると判定判明しています。そのうち京都府が指定している絶滅寸前種は8種で主にその生育地を中心に植生調査と維持管理調査(除草)を35ヶ所16,000m²での作業結果をまとめての報告書が義務付けられているのでその作成が大仕事です。現地での作業前後の写真を添付することなっていますからその整理にひと工夫求められています。これまで刈草の収集作業に時間がかかりましたが、同志社大学のサッカー部ボランティアが支援に駆けつけてくれますので12月中にすべての作業が終了しています。報告書制作のみになり、大助かりです。2024年度分も出来上がりました。

# 4人で草木灰作り

#### ● 1月18日(土)里山農園にて

5号地に集められた草も残り僅かになったこともあり、14日(火)には仮設トイレ付近で草刈りされた草木を5号地に運んでいただきました。また、18日は昨年夏から秋に収穫したオクラやピーマンの株を1号地から5号地に運んで、昨年末からの

主作業となっていた草木灰づくりの最終 日となりました。

ご存知のように草木灰は肥料やジャガイ

モの種イモの切り口に灰を塗ることで腐りにくくする などの効果があります。土壌が元気になってくれて、 今年こそは大きくて美味しい野菜がたくさん収穫でき ることを期待したいものです。作業に関わってくれた 皆さん、ありがとうございました。



写真は 安全に気を遣いながらの草木灰づくりの様子

### 京都環境フェスティバル 2月1日(土)9:45~16:00

場所: 京都市伏見区の京都パルスプラザ 竹田駅下車(シャトルバスあり)

環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型のイベントを開催することにより、地球温暖化防止、循環型社会の形成、自然環境の保全等の環境問題に対する府民の理解を深め、環境保全の意識の高揚や環境行動の実践につなげることを目的として、平成2(1990)年度より京都環境フェスティバルが開催されてきました。里山の会は農産物販売や活動を紹介してきましたが、今年は松かさツリー工作や竹サインペンつくりでの参加型と、アライグマやイノシシなどの獣害と、ヤマトサンショウウオの維持活動のポスター展示と中学生の昆虫観察のポスターでの参加を予定しています。どうぞ多くの皆さんのご参加をお願いいたします。





#### ●国交省近畿地方整備局主催による協力団体の交流会の通達が来ました。

近畿地方の一級河川を中心にして河川活動を展開されている団体 25 組織が一堂に会しての活動 交流会を開催してお互いに学び合う機会を 2 月 25 日に実現されることとなった、と連絡が来まし た。参加団体はお馴染みの素晴らしい活動を展開されている立派な実績を持った団体ばかりなの で、随分と参考になる活動が発表されると大きな期待をしています。

#### ●大阪工業大学の教授方が淀川学の現地視察に中聖牛などを視察に来訪 1月21日(火)

大学の淀川学の教育充実のために現地視察として、木津川で土砂流動を研究されている本会の小川芳也さんが現地を案内されました。先生方は地学や法学、生物学、河川工学の皆さん方で中聖牛が果たしてきた現場視察から多くの事を学び取られた様子でした。私たち里山の会の取り組みを風の便りに耳にされての行動だとお聞きいたしました。ささやかな取り組みのうわさをお聞きになって現場を見学されるということは大変驚く出来事です。この取り組みが自然災害発生の規模がますます大きくどこででも起きている今日何か学問研究の一助に役立ち若い研究者の皆さんに役立つとは思いもよらない出来事です。大変良かった出来事でした。

#### ●炭焼き体験の原木を運び込んでいただきました。1月25日(土)

台風で倒れた古木を寸切りにして、炭焼き窯に運び込んでいただきました。炭焼き窯にはもう少し原木が不足しているようです。 もうすこし用意しないと炭窯一杯にならないようです。ご協力をお願いいたします。なお着火予定日は2月22日頃を予定していま



す。生木は少なくとも1ヶ月は乾燥させなくてはなりません。これまで数回雑木を利用してきましたが今回はコナラなどで生産したいと思っていますので炭窯に適用した利用になるのではないでしょうか。基礎的な学びをたくさんできると期待をしています。また、1月28日には農園の山のコナラも1本伐採しましたが、炭焼きに適する太さの木は軽トラ半分ほどでした。

#### ●亀岡植物誌研究会から亀岡市植物誌の贈呈をいただきました。 1月26日(日)

413 頁もある大変分厚い書物で津軽先生の業績を受け継いでおられる記録書です。私たち里山の会が大変お世話になっている光田重幸先生が大役を果たしておられます。事務所に備えておりますのでご利用ください。



●里山の会が桜谷先生のご指導の下でカスミサンショウウオ (現在はヤマトサンショウウオと呼び名が変わっています)の卵嚢を見つけて以来、第二の生息地を探し求めて 2024 年春に念願の第二番目の生育池を発見できることが出来ました。

その間に京都水族館が開設され、生物多様性センターが誕生するなど 大きく情勢、条件、環境が変化しました。この度、水族館から現状視 察にお越しになっていただけるとの連絡を受けてうれしく思っていま す。うまく事が進めば京都の水族館で京都府下の貴重な生き物が飼育 されることが実現されればすごい第一歩になると期待をしています。



昨年発見した卵嚢





水がなくなった溜まり

これから解決していかなければならない課題が大きいと思いますが現状をお知らせいたしました。

●ヤマトサンショウウオの産卵が間も無く実施される時期を迎えています。

これまで最も早いのは2月9日が記録されています。今年は1月 24日には発見されませんでした。予定されている池の水面には花 粉が全面的に降り注ぎ水中がのぞき込む事が出来ませんでした が、風に流されると水中の観察できました。またここしばらくまとまった雨が降らず染み出る水が無く毎年観察してきたところは干し上がっていました。1月の後半は雪などの天候は全国的に冬らしいことが伝えられていますが、京田辺市はまとまった降雨が見られなくて、生き物にとっては大変厳しいことになっています。産卵の時期に池の水が溜まってくれるのを期待していますが、・・・・。里山の会では担当を決めて観察行動を3日ごとに行って注意深く注目しています。



# ●京都環境フェスティバルが伏見の竹田のパルスプラザで開催され 73 の団体や企業が出展します。2月1日(土)

里山の会も松かさツリー作りや竹サインペンつくりで親子で楽しんでいただく工作で参加いたします。また会場には20枚近くのポスターで活動紹介の展示をいたしますので、家族そろってお越し頂けると嬉しいです。特に今回初めて2人の中学生がポスター発表展示を用意してくれていますので非常に嬉しいです。大いに期待をしています。9:45分開会で16:00が閉会の1日の取り組みですのでご注意ください。近鉄竹田駅から会場までの無料のシャトルバスが運行されているのでご利用ください。



#### ●若手のための生物多様性保全研究会が2月2日井手町木津川玉水橋東詰め堤 防広場で開催されます。

雨天でもカルバートがありますので実行します。現在 15 名の参加希望者があります。まだ余裕がありますので飛び入り参加大歓迎です。参加費無料ですから気楽にお越しください。講師は前京都大学准教授の竹門康弘先生です。伝統的河川工法「将棋頭型竹蛇籠水制」についてのお話をしていただきます。

#### ●第27回 自然と環境講演会 3月1日(土)

小学校の時代に亀岡市から里山の会の昆虫 観察会にお母さんが自動車で京田辺まで送 迎されて参加を続けていただいた浅野聡史 さんが講師です。その時の指導者が桜谷先 生で直接昆虫について解説されて、それで 京都大学への進学を決めて現在京都大学権 教授として世界の昆虫学を学ぶ後輩を育成 されています。里山の会への過去の参加者 には、環境庁や農林省に進んでおる方が沢山いらっしゃいます。今回浅野さんに ご無理をお願いして、小さい時の自然とふれあう学びの大切さについてお話をいただ くことにいたしました。多くの保護者とお 子さんがご参加いただき学びあいたいと思 います。



#### ●京都環境フェスティバル 2月1日(土)

京都市伏見区のパルスプラザで開催されました。里山の会では前日に大型の丸机や椅子などと必要な準備物を宵積みをして備えました。1日の天気は優れず雨が心配でブルーシートで慎重に覆いました。当日は8時には軽トラックとそれぞれの自家用車で出発しました。今回初めての展示を発表してくれる中学生二人は8時過ぎに会場前に到着してくれて、荷物待ちの体制で、手際よく運び込んでくれてました。ブースが予定していたものとは大きく違っていたので会場つくりに



少し時間がかかりましたが、臨機応変に知恵を働かして良いブースに出来ました。

#### ●松かさツリー製作体験

松かさツリー作りは持ち込んだ大きな丸机が楽しい工作場所の雰囲気となって、通行者が進んで机を囲み、子どもたちが松かさを手に取ってピンセットで色付きの玉(ナンキンハゼの実)を綺麗に並べ付けていました。これまではかなり呼び込みをしなければなりませんでしたが、今回は自主的な参加で途絶えることが無くにぎやかな一日となりました。子ども達だけでなく年長者たち



にも人気があり、有料で100円という手ごろな値段だったのもよかったのでしょう。とても忙しい時間帯もありましたが適当な賑わいで楽しい取組でしたとスタッフの方から感想をいただきました。事前に松かさに柱や台付けの準備作業を寒い野原の真ん中で行った苦労が報われたと歓びを語っておられました。

#### ●竹サインペン製作体験

この日に間に合わせるために木下さんは不自由な親指で苦労しながら 50 本の作品を製作していただきました。それまでに竹の浸けペン先の 100 本の受注が飛び込んできて思っていたよりは製作に時間がかかり大奮闘をしなければいけませんでした。準備した 100 円の普及品は午前中に完売

となってしまい、午後からは胸ポケットに引っ掛ける装置付きの150円のものになってしまいました。昨年は随分呼びかけをして協力を訴えまなければなりませんでしたが、今回は静かに集まって下さっての取り組みになりました。もう少し派手な宣伝を行えば効果が出ていたのではないかと意見がありました。



#### ●初めて中学生が参加

昆虫観察のポスター展示では多くに関係者に紹介いたしましたが、それぞれ皆さんの反応は、若者たちが自主的に参加してくれる門戸を開いている取組に高い評価がされていました。そして各

種のトンボや蝶々の標本現物には現地に出かけなければ採取できない行動には感心されていましたし、一つ一つの標本にかけた本気度に驚いておられました。2人の中学生が参加していたことが多くの人々に大きな影響を与えたのではないでしょうか。素晴らしい出来事でした。11月9日に開催される「近畿の子どもの水辺」での活動発表をしてほしいと中辻実行委員長から呼びかけがあり、快く良くお二



人共承諾されました。会員の皆様、里山農園などで観察調査活度中のお二人を見かけられましたら激励の声掛けをお願いいたします。

#### ●若手のための生物多様性保全研究会が2月2日(日)玉水浜の木津川広場で開催されました。



この日は1日に続いて雨が降るとの天 気予報でしたので大変心配しておりま したが朝方には雨がやんで集合時間の9 時半には太陽も顔を出してくれまし た。前日に環境フェスティバルで使用 した椅子と会議机を玉水橋東詰めの会 場に椅子を並べて、勉強会場を設置し

ました。開会挨拶に続いて参加者の自己紹介をいたしました。大学生の皆さんは京都大学、龍谷大学、京都工芸繊維大学、京都薬科大学から19人の皆さんがご参加されました。また社会人の皆さんは京田辺市、京都市北区、中京区、右京区からもご参加いただきました。竹門康弘先生の

「伝統的河川工法を用いた河川環境の保全」の講義を約1時間30分していただきました。寒い屋

外の木津川の堤防の際で参加の皆さんはメモを取るなど目を輝かせて凄い集中力で学習をされました。続いての鋭い質問も沢山され非常に充実した勉強会になりました。そして話題になった竹蛇籠の現物を視察し、設置されている玉水浜に移動して5年前から順次設置した中聖牛を見学し、昨年の将棋頭竹蛇籠水制とそのプールで生き物の調査を実施しました。



#### ●ヤマトサンショウウオ卵嚢発見のための調査観察活動

大池上下堰の3ヵ所と池の一か所での産卵調査を1月26日から開始いたしました。今年の冬は寒の入りから大寒になっても本降りの雨が全くなく調査地の水たまりはどんどん水位が下がり2月に入っても雨の気配がなく水のないタマリ状態となっています。4日には導水路の樋に枯葉が落ちてその影響で水が流れなくなってしまうという状態になっています。一日も早く雨がたっぷりと降ってくれることを待っているのです。これまでの観察の結果からみて一番早く



卵嚢が見つかったのは2月6日で、9日、16日、16日、18日、24日でした。池の周囲にはオスが集結してきているに違いないと思われます。産卵準備が出来たメスが集結して来る時期ですので少し心配になります。

#### ●炭焼き体験の原木を伐採 一窯分の原木が用意できる 2月4日(火)

太田さん、森島さん、大村さん、吉村さんが伐採し、軽トラック2台分を運び出していただき原 木の準備ができたと報告をいただきました。生木の乾燥に1ヶ月は必要だとの事ですので間に合 うぎりぎりの所でしょうか。これまでは雑種の原木を使っての体験でしたが、今年なクヌギやコ ナラなどの木炭生産の原木が用意出来ましたのでしっかり生産過程を学べると期待をしていま

す。多くの皆さん方のご参加を期待しています。

着火予定は2月22日(土)に窯詰めをして着火となります のでよろしくお願いいたします。そして翌日に空気遮断と なればいいのですが、……。ご指導を昨年と同様、植西干 宇さんにお願いしています。



#### 今後の予定

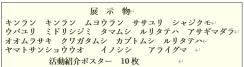
## 普賢寺は自然の宝の山

<u>普賢寺の皆さんへ</u> 里山の会からの呼びかけです。↩ 地域説明会を開催いたします。 ご参加ください。↩

NPO やましろ里山の会は結成以来 29 年を迎える事が出来ました。 里山農園(水取)で野菜栽培や自然観察調査など、普賢寺の皆さん のご協力とご理解をいただいて活動を続けられて来ました。大変感

このたび私たちの得られた<mark>成果発表展示会</mark>を開催させていただきま すので、公私ご多忙のところでしょうが一足ご足労をいただければ と、ご案内をさせて頂きました。↩

#### 2025 年 2 月 15 日(±)10 時から 16 時←



シュタイナー 中学校生の観察記録発表

普賢寺での実績↩

尾根筋ハイキングコース オオムラサキの発見↩ 京田辺の最高峰 千鉾山 311m ヤマトサンショウウオの発見。 白土山周遊歩道↩

木津川でイタセンパラ(特別天然記念物)の復活を取組中( 木津川で中聖牛や竹蛇篭で魚の棲み処づくり 4 軍 16 基の設置↩

主催 NPO やましろ里山の会↩

打田で木炭 (炭焼き作業) の技術展生の取り組← 事務所 京田辺市田辺深田 15 ←

0774-64<sup>-</sup>4183 fddbw257@yahoo.co.jp ←

この取り組みの連絡先 普賢寺多々羅区住建寺 森島保さんへお願いしますや

# 第27回 自然と環境講演会 子どもは自然の中でそだつ

3月1日(土) 13:00~16:30

講師 京都大学准教授 淺野 悟史さん4 会場 京田辺中央公民館2階 研修室

京田辺市田辺丸山 2144

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加←

「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します↩

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください↔

プログラム

参加曹 無料⊲

Ⅰ部→ やましろ里山の会から学んだこと

2部→ 今研究していること 環境ものさし

3部⇒ 子どもの発表会

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど

申込は IP から

後援 京田辺市教育委員会

**多々羅公民館**での開催です。

是非お越しください。

#### ●大雪の日 木津川で 2024 年度の将棋頭型竹蛇籠水制の設置完成 2月8日(土)

この週はこの冬一番の寒気が来襲すると報道されて いました。そして節分・立春と過ぎて心配していた 寒さが押し寄せてきました。7日夜から8日朝に京 都南部に積雪があって、一面が銀世界になり交通事 故の報道がされました。かねてから竹蛇籠の栗石の 投入作業は中止なしで実行を決めていましたが、若 者相手の取り組みでしたので随分な気遣いをしまし た。8時には栗石の個別配分をお願いしていた業者 の松美建設さんから作業者の出動に手間取ってお り、指定の時間には作業が終わらない見通しも予想 されるとの連絡でした。しかし集合の10時にはほと んどの皆さんが集まっていただき竹門先生から「伝 統的河川工法」についてのお話がされ意義目的を理 解して11時ごろから栗石投入を始めました。松美建 設さんによる石の配分もしっかり行っていただいて いましたので短時間で投入作業が完成できました。 参加者は34名が若さの馬力で寒さをものともしない で栗石入れを行って見事に出来上がり集合写真を撮 りました。午後からは木津川の生き物を竹門先生の ご指導を得て採取にチャレンジしました。淀んでい たところには氷が張っていましたがその下に沢山の 生き物が活動していました。捕獲した獲物の名前を 即座に同定された竹門先生の実力に感嘆の声が上が りました。









#### ●前日の下準備

将棋型水制の設置位置は2月2日(日)の製作 講習研修会の夕方、竹門先生と太田さんが位 置出しをしていただき、一挙にことが進み始 めました。2月7日(金)に将棋型に蛇籠を据 え付け流れ止めの杭を29本打ち込んで8日 の栗石投入準備が整いました。

#### ●木津川市でのサンショウウオ学習会に太田さんが招かれました。

里山の会が2010年12月当地のカスミサンショウウオを発見して以後木津川市で鹿背山地区の住宅化工事が開始され竹やぶで生息していたらしいカスミサンショウウオが山の下部からの工事開始で山頂に押し上げられたかのようになって、山頂にある小さな水の溜まり池(何も生き物がいなかった)で里山の会が柿の芽摘みを行っていた時、ここでカスミサンショウウオの幼生を発見しました。そして下部からドンドン藪が開発されてきたので開発会社と交渉したところ以前生息をしていたところへ移住させることになりました。その場所は大変優れた条件を持っていまし

た。きっと多数が生き延びてくれたと予想しています。鹿背山クラブが高齢化となり保全が不可能となってきたので今回の学習会が開催されました。里山の会から太田さんが招かれて里山の会の保全活動を報告されました。

#### ●2024 年度の地域説明会(京田辺市·多々羅区公民館)のプログラムが決定されました

この地域で里山の会が調査観察活動の結果を公表するのは初めてで、普賢寺地域の住人の森島さんの地元・多々な民館で開催できることになりました。スタッフの皆さんは9時にご集からしまっ。午前中は展示もよろします。年前中は展示もよろします。A-2のポストー20枚と中学生が昆虫採取してきまず。されていると思います。午後からはと思います。年後からはまず。されていると思います。午後からは、まないると思います。午後からは、まなの皆さんが調査観察されます。どうぞご期待下さい。どうぞご期待下さい。

#### 13:00 より開始

- ①アライグマについて…森島保さん
- ②イノシシについて …有田勉さん
- ③オオオムラサキと昆虫について
  - …金田徹さん
- ④ヤマトサンショウウオについて…太田敏之さん
- ⑤植物について …山村武正さん
- ⑥炭焼き体験について…大村幸正さん

上記の予定でプレゼンテーションを進

自然を大切にする仲間の輪を大きくする (発足以来掲げてきた活動スローガン)

# 普賢寺は自然の宝の山

普賢寺の皆さんへ

里山の会からの呼びかけです。↩

**多々羅区公民館**で地域説明会を開催いたします。ご参加ください。↔ NPO やましろ里山の会は結成以来 29 年を迎える事が出来ました。 里山農園(水取)で野菜栽培や自然観察調査など、普賢寺の皆さん のご協力とご理解をいただいて活動を続けられて来ました。大変感謝しています。↔

このたび<u>私たちの</u>得られた<mark>成果発表展示会</mark>を開催させていただきますので、公私ご多忙のところでしょうが一足ご足労をいただければと、ご案内をさせて頂きました。←

#### 2025 年 2 月 15 日(±)10 時から 16 時

展 示 物

キンラン キンラン ムヨウラン ササユリ シャジクモ↔ ウバユリ ミドリシジミ タマムシ ルリタテハ アサギマダラ↔ オオムラサキ クワガタムシ カブトムシ ルリタテハ↔ ヤマトサンショウウオ イノシシ アライグマ ↔

活動紹介ポスター 10 枚

シュタイナー 中学校生の観察記録発表

普賢寺での実績↩

尾根筋ハイキングコース オオムラサキの発見↔

京田辺の最高峰 千鉾山 311m ヤマトサンショウウオの発見

白土山周遊歩道

木津川でイタセンバラ (特別天然記念物) の復活を取組中↔ 木津川で中聖牛や竹蛇篭で魚の<u>棲み処づくり</u> 4軍 16 基の設置↔ 打田で木炭 (炭焼き作業) の技術展生の取り組↔

主催 NPO やましろ里山の会↔

事務所 京田辺市田辺深田 15 ↔

0774-64<sup>-</sup>4183 fddbw257@yahoo.co.jp ←

\_ \_ \_

この取り組みの連絡先 ←

普賢寺多々羅区住建寺 森島保さんへお願いします 0774-62-6780

行致します。ここで小休憩を設け 14:30 からシュタイナー学校の二人の中学生による調査観察の 記録発表というプログラムで実行いたします。ご都合をつけていただき、一人でも多くの方々が ご参加して下さるようお願いいたします。

#### ●第27回 自然と環境講演会にお越しください 3月1日(土) 13:00~

今回の講演会は発足して間もないころ里山の会主催の昆虫観察会に小学3年の寝起き顔の浅野君を自動車に載せて亀岡から京田辺の会場へ運んで参加させて下さいましたお母さんの苦労は大変だったと思います。そこで近畿大学教授であった桜谷保之先生(京都大学卒業)からマンツーマンで教えて頂き、自分の進むべき道を自覚されたのでしょう。中学・高校で京都大学への進学を目指して頑張り続けて、今その道の学者となり学生を導く立場に到達されています。本人の努力

もさることながら、里山の会での昆虫観察会の果たしてきた小さな成果が大きく育ったきっかけ になりました。大変うれしいことです。未来に計り知れない可能性を持っている教育活動への小 さなヒントを学びとる場にしていただければ有難いです。

この日、中学生二人が里山農園での調査観察活動についての発表を予定しています。

# 第27回 自然と環境講演会 子どもは自然の中でそだつ~

3月1日(土) 13:00~16:30

講師 京都大学准教授 淺野 悟史さん 会場 京田辺中央公民館2階 研修室。

京田辺市田辺丸山 214←

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加←

「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します↩

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください←

#### プログラム

参加費 無料

Ⅰ部> やましろ里山の会から学んだこと

2部→ 今研究していること 環境ものさし4

3部→ 子どもの発表会←

申込は 冊 から↩

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど



後援 京田辺市教育委員会←

#### ●炭焼き体験 2月22日(土) 13時30分~

原木の窯入れをして、翌日23日(日)の朝8時30分から火入れを行う予定です。 皆様のご協力をお願いします。

#### ●地域説明会 京田辺市多々羅公民館 来場者 22 名 2 月 15 日 (土)



今年の地域説明会は計画は早く立てることは出来ましたが、肝心の会場確保に取り組む事が出来なくて、ようやく京田辺市の普賢寺地域の多々羅公民館を借用する事ができ、2月15日に開催が可能となりました。

今回の地域説明会では中学生の生徒さんが里山農園を中心にした調査 観察結果を発表していただきました。中沢君は「里山農園やポレポレ

ランドで生き物に出会ったものを写真やノートへの記録」を発表してくれました。続く吉村君は

ナガサキアゲハの北上に興味を持ち、他のチョウの北上にも観察を広げ、北上の原因は地球温暖化と食草などが大きい原因と思われると発表されました。お2人とも里山農園での観察や調査に懸命です。「観察力」が培われ「なぜ?」と知りたいと思う好奇心が育てられたのでしょうか。森島保さんは、アライグマの取組報告として生



まれた子供が1年で妊娠する。それに雑食性で何でも食べる。捕獲で根絶できるのかと発表された。イノシシの取組を発表された播川司さんは、現状の説明と人とのすみ分けの必要性、干渉帯実現への協力を訴えられました。オオムラサキと昆虫の取組報告の金田徹さんは、昆虫の生育環境(クヌギとエノキがあり)が里山農園は整っていることと、樹液と食樹の豊かな森を目指しての保全への発表でした。ヤマトサンショウウオの取組報告の太田敏之さんからは経過報告と今後の課題について模索中だと報告された。農園付近の植物について報告された山村武正さんからは、普賢寺地域の環境の再認識と誇りを持ってほしいと強調され





た。最後に炭焼きについて大村幸正さん から炭焼き窯などの説明と燃料問題と現 在の生活、施設と技術伝承の大切さが報 告された。参加者からは多くの方が優れ た環境が再認識できたが地域住民の生活 向上への提起を求めるとの要望がされま した。



#### ●木津川クリーン大作戦が成功 協力者 22 名 2 月 16 日(日)



里山の会の活動は打田地域の植物や炭焼き体験が一段落して木津川に関心が広がって自転車道や高水敷を歩くと、木津川は綺麗な水が流れている美しい川だと誰もが感じていました。しかし増水後の茶畑にはペットボトルなどが大変多く残され、草内運動公園では400本を拾い集めることもしばしばでした。茶農

家さんはビニールや飲料水の缶などの後片づけに相当労力を払っておられました。綺麗だと思っていた木津川は大変な川になっていたのでした。里





山の会は植物の調査観察に藪の中に入ってみて大量のゴミに驚きました。また自転車道でも一旦停車場などではたばこの吸い殻などが散乱していました。遠くから見ているのと歩いてみるのでは大違いでした。そこで、ゴミが目立つ場所に手ごろな太さの竹を切ってきて、ごみ拾いの呼びかけのポスターを木津川市から八幡市までに50本50ヶ所に「掛けや」で



打ち付けて回りました。その呼びかけに応えていただいたのがイヌハギを管理してくれている山下茂さんでした。また久御山町の流れ橋に来られたのが芳川艶子さんでした。その後この取り組みをチャンスに里山の会の幹部として大仕事を進めていただきました。森島保さんや大村幸正さんに加えて福井波恵さん達は、木津川の両岸を走り回って集められたごみの収集に力を発揮していただきました。木津川のクリーン大作戦の実行委員長をされている山田信人さんは、現役の河川レンジャーの時代から清掃活動を提案され、5年間で800人25団体が集合する運動へ発展させるためにご苦労をしていただいています。

#### ●竹サインペン新しい注文が来る 200本 3月2日に納品を 竹割のお手伝いを

竹サインペンは山村常務理事が3年前に病気治療で入院していた時に思い付き、城陽の竹島修さんに手作りで第1号を試作いただき、改良に改良を重ねて、宇治市にお住いの金型職員であった木下勉さんの協力が得られてさらに改善し、製作道具類を考え出し、今日僅かながら評価される形に到達出来ました。2023年の京都植物園でのいきものフェスで講演された湯本貴和先生から紹介され称賛されました。それ以後竹エンピツや竹を素材に使用した作品の注文が続きました。作品をご覧になった皆さんから手触りが良いと、どなたからも評価をいただいています。竹で作れている事にも驚き、障がい者の手仕事を狙いにしていることにも頑張ってとの声が届けられています。まだまだ改良が必要ですが、何よりも竹の切断や太さを揃えられる竹割機の製作が強く求めているところです。ここが出来ると大量生産体制の第一歩になると思われます。とにかく誰でもできる手仕事の竹割ですので少しの時間でも助かります。ご協力をお願いいたします。

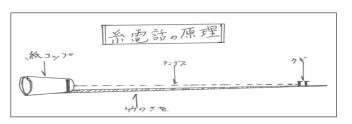
#### ●さんさんグリーンさん(就労支援作業所)を訪問 2月17日(月)

障がい者支援として数々の表彰を受け全国各地から農福連携のモデルとして大変多くの参加者があった「さんさん山城」をあとに、行き場所を模索されていましたが、枚方市の医療法人のみどり会からレストランと事務所の提案があり、多くの聴覚障がい者の方がこれまで通り作業をされているとお聞きしていましたので訪ねました。レストランは本格的で、食事の場所も一流のホテル並みの部屋、田辺では一味も二味もランクが上と見れる雰囲気のお店でした。調理室や事務所、そして作業場所も空調が完備されていて行き届いた広さで皆さんが思い思いの作業を一生懸命にされていました。かなり広いスペースでした。部屋の外には駐車場もゆとりがあり、玄関もしっかりした構えがされていました。ロビーやトイレもきちんと整備されていていました。これならさらに充実した活動を展開されてゆくのではないでしょうか。ここ以外にも京田辺市で農作業の休憩所や農機具の置き場所も確保されていると伺いました。多くの皆さんがご協力をされているのが見て取れました。多少の困難はあるでしょうが、力一杯張り切っておられました。

#### ●ひらかた環境ネットワーク会議を訪問 2月17日(月)

枚方に天野川という川があり、その近くに村野小学校が廃校となり、校舎や運動場が地域に広く 利用されていて、「ひらかた環境ネットワーク会議」の事務所が校舎の一角にあり、竹サインペン の話を事務局長の丸井昌子さんと環境教育部会の藤原秀昭さんに説明いたしました。お二人とも

すごく興味を持っていただき、来年大きなイベントが予定されているので紹介するから出展していただきたいとおっしゃっていただきました。また話のなかで紙コップを利用した糸電話の原理を利用した竹竿の三味線を見せていただきました。



# 第27回 自然と環境講演会 子どもは自然の中でそだつ

3月1日(土) 13:00~16:30

講師 京都大学准教授 淺野 悟史さん 会場 京田辺中央公民館 2 階 研修室

京田辺市田辺丸山 2144

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加← 「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します←

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください↔

プログラム

参加費 無料←

Ⅰ部〉 やましろ里山の会から学んだこと

2部→ 今研究していること 環境ものさし

3部→ 子どもの発表会←

申込は HP から←

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど

後援 京田辺市教育委員会↩

## 原木から切り出す 炭焼き体験。

# 参加者募集しています↩

# しばらく炭焼の原木の切り出しは行っていませんでした↩ これから先、何回も計画できない取組ですのでお越しください。

2月22日 (土) 13:30 ~15:30←

場所 里山農園 現場に移動←

所持品 帽子 軍手 手ぬぐい しっかりした靴 飲み物 多少のおやつ

参加費 無料

参加者募集 10 人

参加申し込み 氏名 住所 年齢 電話 fddbiw257@yahoo.co.jp↩

### 釜詰めの手順について↩

 ①原木精製 長さ 1m 太さ 15cm 割ったり切ったりして整える↩

生木は1か月間乾燥させる

②窒詰め 原木 1t500 kgを用意する↩

窯詰めした時上部に燃えやすい小枝を詰めておく↩

窯詰め前に下水床の残灰を綺麗に除去しておくこと大切である↩

しっかりした焚口から燃やし込む 煙の色で判断する↩ ③ 着火

第1回目は炭窯の湿気が抜けきれず調整が難しい (失敗が多い)~

黒い煙から白い煙に変ってくる頃を見計らって↩

焚口の空気調整を行う(一晩位)

太い管に そして細い管にして 煙の調子から空気補給を遮断する↓ ④空気の調整

同時に煙突部分を遮断する↩

着火初期は排煙突だけであるが ← ⑤木酢液

排煙の勢いが激しくなってくると横煙突を取り付け↔ 煙を冷却することになり、液が戻ってくる これが木酢液である ↔

一窯で約 80 リットルが最低採取できる ↩

(酸性の非常に強い液体で焼ける匂いがあって防虫作用に最適) ←

空気遮断時から冬で7日目で窯の温度が低下して製品の窯出しを行う↩ ⑥窯出し 完全にしていない炭化部分(下部)の切り離しを行って製品に精製する。↩ (7)詰めの切り

長さ 15 cm程度に切り揃えて、見栄えの製品にしてゆく ↔

段ボールに 5 kgの重さにする↩

⑧製品の管理 床の台の上に載せて 地面からの湿気対策を完全にして保存する。↩

通風に配慮する↩

指導 京田辺市打田薪炭組合 会計責任者 植西干宇さん 88 歳↓









主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会 京田辺市田辺深田 15 fddbw257@yahoo.co .jp 0774-64-4183@

#### ●炭焼き体験 窯詰め、着火 2月22日(土)・23日(日)

今年度の炭焼き体験はこれまで伐採して溜めてきたコナラ等の基本的な材料で窯詰めを 2 月 22 日の午後に行いました。集合いただきました皆さんはこれまでに幾度も経験されている森島さんや太田さん、播川さんに有田さん、大村さんで打合せもそこそこに窯への詰込みを進め、少し原木の量が少なめでしたが原木の上部に小枝をしっかり載せるなどの工夫を凝らしました。約 2 時間の作業で詰め込み口を密閉できました。これで翌日の着火準備が出来上がりました。これまでは原木が残っていましたが綺麗に窯に入り切りましたので炭小屋周囲の片付けも進み、すっきりと整理が付きました。翌日 23 日の朝 8:30 頃には皆さんが集合されて着火が出来ました。かなり寒さの厳しい雪の舞う天気でしたが、昼過ぎに焚口からの空気を調整するために 10 cm余のパイプにして耐火煉瓦を積み上げました。翌日 24 日 19 時に 270℃になったのを確認して窯を全閉して消火にかかりました。これで窯の中の温度が下がってくれると製品の窯出しが可能になるのです。

約6日から7日かかるといわれています。木炭の需要があった一昔前にはアツアツの木炭の窯出しが行われていたといわれています。

#### 窯出し作業 3月8日(土)の13:30~

木炭の窯出し作業を実行します。炭焼き窯に屋根が設置されていますので雨天実施で行ないますのでどなたも気楽にお越しください。参加費は無料です。 作業時間は約1時間半の予定です。



昨年の炭開き

#### ●竹サインペン製作 京都府から竹ペンの受注 200 本

2月24日木下様が終日の作業で8割がた製作出来ました。雪の降る大変寒さ厳しい中、黙々と作業をこなしていただきました。親指の痛さをこらえての作業を進めてくださって本当にご苦労様

でした。一人の作業から複数人での作業になれば、さらに効率良くなるのでお手伝いがあればとおっしゃっていました。



#### ●連日事務所に中沢・吉村君が来所 3月1日の第27回講演会で発表準備に全力を傾注

15日に行った地域説明会(多々羅公民館)での活動発表で奮闘いただきまして参加者から高い評価をいただきましたが、その一方で大きい声でもう少しはっきり口を開けて話せば更にすばらしい発表になるでしょうとの声をいただきました。2月になって2回目の寒波が来た20日からの連休に雪の降る中、事務所に足を運び、懸命に原稿を練り直す作業を繰り返されました。前回の発表で自らが多くの事を学び取り、改善する努力を重ねる事は本当に素晴らしいと思います。雪が舞い散る悪天候の中、里山農園や木津川の現場に出かけて観察を繰り返えす彼らの行動力は立派だと思います。

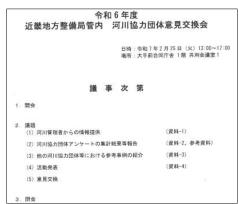




#### ●河川協力団体意見交換会 2月25日(火) 近畿地方整備局(谷町4丁目)

近畿地方で河川協力団体として登録されている 25 団体の内 13 団体の意見交流会が 2月 25 日の 1 時から開催されました。里山の会から播川理事と山村常務理事が出席。優れた活動としてインターンの受け入れ活動やボランティア参加賞の発行、地域通貨の発行等をしている協力団体活動が紹介されました。里山の会からはこれまで通りの川にトイレの設置の要求と交流会の開催効果や意義について評価述べました。近畿の河川協力団体のなかで芥川クラブは高槻市職員が事務局を担当されていること、また三重県の団体は沢山の成果物を造り出して活動資金を作り出している苦労話をされました。出席団体の課題として、活動資金問題や高齢化と後継者問題・労働力の不足問題が共通していました。里山の会の活動紹介では 1996 年の任意団体として発足、以来事務局会議を毎週実施、会誌の発行や週刊ニュース、ホームページの更新などが活動発展の推進力だと紹介し、竹鉛筆制作とイタセンパラの復元を目指す活動や竹蛇籠・





中聖牛等の伝統河川工法の紹介をしまして、共感の拍手をいただきました。

#### ●ヤマトサンショウウオ池に水が溜まらず

京都府が指定する「絶滅の恐れのある生き物」のヤマトサンショウウオが生育してきた水溜まりの観察活動を里山の会は1月20日頃から行ってきていますが、今年の冬は厳しい寒さが続きますが、産卵の時期なのに雨がほとんど降らず生育池の水が無く少しの湿り気が感じられる程度になっています。サンショウウオのこれまでの産卵時期では最低5cmの深さの水が必要で、流れるのではなくわずかに流れがあるというところに卵嚢が産み付けられてきました。今年はこうした状況では無く、産卵には大変厳しい環境になっています。近頃の天気が続くなら、今年は産卵の期待ができないのではないかという声を聞くほど厳しいものとなっています。



タリック期付クザ、マータースメ゙ックーヒルムムドルサーニ ジ゙プฅを聞くはこ園 レン゙もツクとなつ ヒン゙まり。

#### ●木津川希少種植生調査管理業務の完了報告 3月6日(木)13:00~ 淀川河川事務所で実施

木津川の希少植物(絶滅寸前種)は8種類でタコノアシ レンリソウ マキエハギ アサザ フナバラソウ オオバクサフジ ツルフジバカマ イヌハギです。レッドデータブックに掲載されているものは82種でした (2007年の調査)。少なくともこの8種類の生育地(35ヶ所)の維持保全を目指す取り組みとして業務が発注され河川協力団体と承認されているNPO法人やましろ里山の会が受注し、業務にあたっています。生育調査(35ヶ所)と生育種保全のための除草集草(35ヶ所16,000m²)を行っています。その業務報告を年度末に行うことになっているのです。それが3月6日の午後から淀川河川事務所で受ける事になりました。

#### ●馬坂川河口の清掃作業実施 3月30日(日) 9:30~10:30まで

これまで15年ほど馬坂川の河口で親子花見乗船体験を実施するにあたってゴミの収集や草刈り清掃を自主的に行っていました。数年前に京都府北土木事務所の「故郷の川作り」に登録しました。2025年度も3月30日(日)の9:30から10:30までの1時間程度ゴミ拾いを例年通り実行いた

します。私たちがこのゴミ拾いを実施するに伴って川への不法投棄は目に見えて少なくなりました。自動車タイヤ、バイク、冷蔵庫、テレビなどといった大型ごみは皆目無くなりました。相変わらずビニール袋やペットボトル、ジュースの空き缶、煙草の吸い殻などが目立っています。みんなで故郷の川「桜並木の散歩道」を美しくしましょう。少しの時間でもお手伝いにご参加ください。



#### ●第27回 自然と環境講演会 3月1日(土) 13:00 京田辺市中央公民館

結成間もない 28 年前頃、里山の会の「昆虫観察会」にお母さんの運転で亀岡市から参加されていの が今回講師を務めて下さる浅野悟史さんです。そこで京都大学を卒業され近畿大学教授の桜谷保 之先生の教えを受け学習に励み京都大学へ進学して、今では京都大学准教授にとなって研究の傍 ら後輩を育成されています。里山の会で大きく成長されました。この浅野悟史さんを迎えて「子 どもは自然の中で育つ」とのテーマでお話をいただきます。きっとスマホ漬けの子どもたちにと って学ぶことが沢山得られるではないでしょうか。多くのご父兄に参加していただきたいと思い ます。参加費無料ですので気楽にお越しください。

# 第27回 自然と環境講演会 子どもは自然の中でそだつ

3月1日(土) 13:00~16:30

講師 京都大学准教授 淺野 悟史さん 会場 京田辺中央公民館 2 階 研修室。

京田辺市田辺丸山 214~

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加↔

「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します↩

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください↩

プログラム

参加費 無料

Ⅰ部》 やましろ里山の会から学んだこと

2部〉 今研究していること 環境ものさし↔

3部→子どもの発表会←

由込け HD から

後援 京田辺市教育委員会↩

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど

#### ●竹サインペンの注文 200 本が出来上がる ミニ・イーゼルを思いつきました。

京都府から竹サインペンの注文があり、納付期限が短く製作できるかが大きな課題でした。木下様は注文があればそれにお応えしましょうとの積極的なご意見だったので、素材(竹割)つくりを開始しました。短期間で木下さんが集中して作業をすすめていただいたので、3月2日に無事200本が完成できました。そしてまさに忙中閑ありで竹サインペンの活用方法を模索する中で二本の竹サインペンで「ミニ・イーゼル」を作り上げました。





新創作「ミニ・イーゼル」を是非ご利用ください。

# 暖かい一日でした

#### ●3月1日(土)里山農園にて

晴れていて気温も暖かく、8人が集合してくれました。

雨が降らない日が続いているせいで、農園の作物もかなり我慢しています。美味しく育ってくれるかとても心配です。そこで、少しの降雨でも桶に水が溜まるようにと願って、2月25日(火)は2号地近くの洗い場補修をしました。(後日たっぷり

と雨が降ってくれました)

3月1日(土)は2号地の北西

端部にある桝の泥だし作業を実施しました。かなりの肉体労働でしたが、和気あいあいと頑張りました。また、七草を植えるための準備・種蒔き、草刈りや炭を畑に蒔いたり、炭窯を確認したりと手分けして多くの作業を実施しました。





2号地近くの洗い場補修 と 2号地にある桝の泥出し作業

#### ●2024 年度の活動報告概略

ロシアとウクライナの戦争が終わらず3年目となり、我が国ではコメなどの物価値上げが止まらず苦しい生活となっています。それに伴って公共施設等の利用料金が新設される動きがあるなど、生活への影響が大きくなっています。ヤマトサンショウウオの第2の生育池の発見と維持保全活動としてのアライグマの昼間6匹のアライグマの写真は大きな関心を呼びました。また通路確保の除草作業などのイタセンパラの復元を目指す取り組みと第2回親子魚釣り、将棋型竹蛇籠設置など、川活動をさらに発展させる事が出来ました。そして初めてのミツバチとメダカの観察会の実施は新しい活動分野の拡張に進められました。年度当初から9月までの前半期はサークル・ワークショップ会議を10種18回開催して事業推進を図り、生き生きとした活動展開になりました。しかし後半は従来型に戻ってしまいました。

夏の昆虫観察を通じて中学生が参加され、その後の発表で活躍ぶりと内容の充実が目を引き、高齢化問題に光明を与え、若さ溢れる元気を振りまいてくれています。年度末に実施した第27回自然と環境講演会の内容充実に結実しました。

2024 年度の主なイベント数は 55 回 総参加人数は 1880 人

里山農園定期作業日参加者数 491 人

木津川希少種植生調査管理業務作業参加者数は 調査活動 196 時間 除草作業 181 時間 集草作業 156 時間

#### ●2025 年度活動方針の概略

新年度の新しいイベントなどの取り組みついては現在(3月6日)提案が無く、24年度事業と同様の内容で継続しつつ、さらに充実発展させる方向での活動展開となる見込みです。いずれにしても高齢化よる体力の低下は否めず二年続きの異常な高温のため、野外での夏季事業は無理と考えられるので一考が必要でしょう。通常総会開催日までまだまだ余裕がありますので会員の皆様からのご提案をお待ちしています。

方針原案を水曜日の事務局会議は、会員ならだれでもご参加いただいて意見を述べる事が出来ま すのでよろしくお願いいたします。9時30分から12時には終了することにしています。

#### ●ヤマトサンショウウオの取組

大船渡の山林火災は大変気になります。長い間まとまった雨が無く強風が吹き、手が付けられなかったのでしょう。私たち里山の会はヤマトサンショウウオの産卵時期がきていましたのに、雨が少なく、例年産卵していた水溜まりが干し上がって、これでは産卵が無理ではないかと非常に心配しています。昨夜からの雨で少し水溜まりが回復しているようですが、ヤマトサンショウウの卵嚢が発見されていません。ニホンアカガエルの卵塊は発見されていて、里山農園の水溜まりでも発見されてもおかしくないと思います。いよいよこれからが本番だと思いますので、少なくとも農園作業日には確実な調査観察とその報告を里山の会にご連絡をお願いいたします。

#### ●里山展示会 京田辺市中央図書館「甘南備ギャラリー」 3月11日(火)~16日(日)

これまで京田辺市中央図書館の展示室での里山展を毎年実施してきました。今年は年間の取組イベントの紹介と中学生の調査観察記録を展示する計画で、これまで以上に身近なところの発表となります。また幼児や子どもたちに大変人気の松かさツリーや苦心の作「竹サインペン」の展示もできればと考えています。ぜひたくさんの皆さんのご来場をお待ちしています。

#### ●炭焼き体験木炭の窯出し作業 3月8日(土)

これまでになく原木をコナラやエノキなど本来の木炭生産に使われていた原木を中心にした取り組みを行いました。まったくの素人が5回ほどの取組をしての結果です。出来栄えが大変気になっています。良い炭ができあがっていれば炭焼きという大変難しい経験技術を伝承が出来たと胸を張る事が出来るでしょうか?興味津々です。ご関心のある方のご参加をお願いいたします。木炭必要なお方には出来立てのものをご購入いただけます。木酢液も原液のままでご購入いただくことができます。

#### ●松かさツリーで参加タナクロ・オープンイベント 3月23日(日) 10時からオープン

里山の会としては京田辺市の市の木であるナンキンハゼの実を利用して同志社大学や普賢寺小学校の大王松の松ぼっくりを使ってツリーを製作してきましたので、これらを披露いたします。またここ数年苦労して製作している竹サインペンの展示販売もできればと検討しています。

#### ●2025 年度役員(理事) 立候補受付開始 2025 年度 3 月 6 日 (木) 締め切り 3 月 11 日 (火)

2025 年度と 2026 年度のやましろ里山の会の理事の立候補者の受付を 3 月 6 日から開始いたします。受け付け締め切委入りは 3 月 11 日です。我れこそはと思われるお方が名乗り出て下さるのをお待ちしています。理事長は理事の互選で決定です。

#### ●会誌 58 号原稿募集 原稿締め切り日 3 月 30 日 (日) fddbw257@yahoo.com まで送付ください。

定款で会誌発行は位置付けられた取組で、会員同士の連絡をしあう大切な最も重要な事業です。 今年は結成29年目で30年を目前にしての会誌発行です。全ての会員様のご登場を「仲間の広 場」部門に実現できないものかと企画を検討しています。積極的に毎情をお願いいたします。孫 の事、子どもの事、自分の健康、気になる出来事、若かったころの心に残るエピソード、気の付 くまま思いつく事なんでも一言お寄せください、あなたのご協力をお願いいたします。

#### ●2025 年度会費の納入を 通常総会(4月23日=予定)出席の必須条件

2024 年度の会費が未納のお方がおられましたら積極的に納入をお願いいたします。世の中は大変 な物価高が続きまして、会誌の郵送料に製作費をオーバーしているのが現状となっています。苦 しい所をお察しいただきご協力を切にお願いいたします。

#### ●第27回自然と環境講演会 3月1日(土)

今回の取組は特別の手立て(はがき案内や新聞各所への広報案内)などを全く行わず、HPと週刊 ニュースでの呼びかけでの開催でした。そして理事を中心にした案内で実行したことになりま す。いろいろ教訓を学び取れればいいのですが…。今回の主題は幼少の浅野悟史さんが大学准教 授に歩んだ所を学びとっていただければとしていました。一部の声でしたが内容が濃く、良い企 画であったとの感想を頂きましたが皆さんのご期待にお答えできる内容でしたでしょうか?

## 第27回 自然と環境講演会 子どもは自然の中でそだつ

3月1日(土) 13:00~16:30 講師 京都大学准教授 淺野 悟史さん~

会場 京田辺中央公民館2階 研修室

京田辺市田辺丸山 214~

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加↔

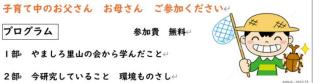
「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します↩

Ⅰ部 やましろ里山の会から学んだこと

2部 今研究していること 環境ものさし↩

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど



#### 第27回 自然と環境講演会 参考資料

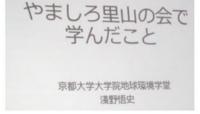
会誌 [里山の自然 | 12号 浅野悟史 氏 洛南高校在学時のレポート

当時オオムラサキの成虫(準絶滅危惧種=京都府 指定)を普賢寺谷で捕獲し、新聞各社に公表したと ころ、絶滅が危惧されているものを捕獲するとはと してマスコミが疑問を鋭く投げつけてきた。これに 反論するレポートを洛南高校在学中の浅野悟史さ んに依頼しました。このレポートを送付して以来落 ち着きを取り戻し、里山の会の採取等にかかわって の攻撃はなくなりました。

### 第27回 自然と環境講演会

















母は丹後半島出身で小さい頃は裏山で虫取りをして遊んでいることがいい子であったとされる中で大きくなった。この母の影響で多くの事を学んだ。私はニュータウンで大きくなった。母が新聞記事で里山の会の昆虫観察会のことを知り、これに参加して、桜谷先生などから色々なことを教えられた。大学教授とは雲の上の人と考えていたが、直接教えて頂く事が出来て考え方が変わった。中学生になり受験勉強に全力傾注となり、里山の会とは遠く離れ、大学に入学して学習方法や海外へ研究に出かけ生物と環境などを学習した。自分の進む道は思い通りにならないことも経験させられた。卒業後は研究者としての方向に回り道をした。恩師の先生が研究で海外出張のため空いた席に呼び戻され今日の立場にある。子どもが出来て、幼児期の経験が大切と思う。そこで大学生と一緒に活動し学べる場(ラボ的な)を設けれればと考えている。今日発表した研究成果は世界中どこでも活用できます。

2人の中学生の発表は素晴らしい内容(オオムラサキの観察・キタキチョウの観察)で、浅野先生や桜谷先生から高い評価がされました。



桜谷先生が中学生の時に作成した チョウの分布図を持参して説明し ていただきました。

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1076 号 2025 年 03 月 13 日

●木津川希少種植生調査管理業務の完了検査(3月6日13:00)の結果、合格と認定されました

当日は 大村理事長 森島副理事長 有田・播川・太田理事と植物担当の伊藤千恵子氏、山村常務理事の7名が出席しました。検査官は淀川河川事務所副所長の中山様で、担当官の朴文恵様には大変お世話をいただきました。

この業務作業は6月19日から11月20日まで続きました。そして12月になって刈り取った草の集草、運び出しの大作業を同志社大学サッカー部にお手伝いをいただいて実施しました。総面積は16,000㎡、35ヶ所というもので、これは各種イベントを開催しつつ、現職を退いた高齢者が力を振り絞って木津川の堤防の傾斜地で悪戦苦闘しました。それは絶滅寸前種とされているレンリソウやフナバラソウ、オオバクサフジ、イヌハギやマキエハギ等の生息地を維持しようとする取組です。困難な除草作業をすすめる一方、35ヶ所の生息地で確実に保存されているかとの調査確認も毎月顔なじみの皆さんで35ヶ所を巡回し、確実に写真記録を取って報告書にまとめております。このような現地での作業と共に資料つくりも非常に大切な作業となっており、合格と認定されました。

里山の会が20年前の任意団体の時代に確認してきた植物は82ヶ所がレッドデーターブック掲載されていました。それがその後どのように変化しているのかの現地調査が必要は時期に来ていますが、スタッフの多くが高齢化と体力の衰えがあって気は焦るが動けないのが現実です。

●総会に向けて役員の立候補者を受け付けましたが名乗り出ていただけませんでした。それで推薦者の受付を開始いたしますので、この方を理事に推薦すると届け出ていただけないでしょうか。届け出の締め切り日は 18日の火曜日とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。理事になってほしい人(推薦者氏名)を届け出てください。理事長は理事の互選で決定されます。

#### ●農園部会だより 3月1日(土)里山農園

ジャガイモやその他予定されている作物を植える前の作業として、1号地と3号地では肥料を混ぜて畑を耕しました。3月20日(祝)に植え付けを予定していますので、皆さんのご参加をお願いします。

数日続いた雨と、日中が暖かくなってきたからでしょうか?4号地の湿地部では、ニホンアカガエルの卵を確認することができました。また、補修作業を頑張ったかいがあり、水路や桝にもしっかりと水を確認することができました。



ニホンアカガエルの卵のう

#### ●会誌「里山の自然」58号の原稿を募集しています

身近な出来事や気なる出来事を手書きで結構ですのでお寄せください。仲間の広場に掲載させていただきます。よろしくご協力ください。原稿を早くいただけると編集がスムースに進められますが、ぎりぎりまでお待ちいたします。原稿は B-5 用紙で上下左右の空白は 25 mmになっています。

●自力で炭焼きを実行してから 6回目にして 200 kgの素晴らしい木炭が出来上がりました。これまで繰り返して炭焼きを経験してきましたが、今回はコナラ等の原木を中心に炭焼きを行いましたところ、今までになく上

等の木炭が出来上がりました。かかわっていただいた皆さんはかなり自信を持っていたのではないでしょうか。

里山の会では手持ちの木炭は 5 kg入りの段ボール箱 100 個分 (0.5 トン)程を保有しています。物価高のおり輸入品も値上っていますが、同等価格 (5 kg入りで 500 円)で販売させていただくので、ご希望の方はお申し出ください。20 kg以上の場合はご近辺でしたら持参させていただきます。



●2024 年度の最後のイベント「里山展」が始まる 京田辺市立中央図書館で恒例の里山展を開催し ています。今年の目玉は夏から活動に参加してくれ 2025年3月8日 原木から切り出す炭焼き体験 窯出し作業」。

1月24日に原木の切り出し 運び込みの結果、弁朴は最低1カ月の乾燥が必要です。↔ 2月22日に窯詰、23日に着火、24日に空気遮断密閉の日程でした。3月8日窯出しでした。これまで空気遮断が遅れ完全位牌になってしまう等の経験失敗を繰り返してきましたが植西さんの指導を受けて、今回はやっと木炭が計画通り生産できました↔





出来上がったのは 5 ka箱 40 個分 200 kgです。一回の生産で 8 万円程 度経費が必要ですのでひと箱 2000 円で販売しないと赤字となる計算 なります。+







た中学生二年生2人の調査観察記録の展示です。是非ご覧になってください。2人が里山の会事務所で、5日間 ほどかけて展示ポスターを作成した成果品です。素晴らしいものにできていると思います。

●いよいよ桜の季節も間近に迫ってきています 今年は4月5日に馬坂川河口(府営団地16棟西 側)で花見乗船体験を開きます。これまでは摂南大学 エコシビル部の学生さんがEボートの船頭役をやって いただいていましたが、ボランティアの学生が集まら ず、今年は一人乗りカヌーを中心に桜の花の下を楽し



んでいただくことになります。川の深さも浅くて安全な所での開催です。参加資格は小学 4 年生以上とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。また保護者もご一緒に付き添ってくれることを必須としていますのでご協力ください。子ども一人でのご参加はできません。参加申し込みは fddbw257@yahoo.co.jp まで連絡ください。氏名、年齢、保護者名、住所、電話番号をご記入ください。受付開始は 3 月 20 日から開始いたします。

#### ●春の野草を食する会

早くも三月も中ごろになって気分も天気も暖かくなってきました。里山の会では春一番の里山農園での「春の野草を食する会」を4月12日ごろに計画しています。毎年30種類ちかくの新芽を和え物や汁物、てんぷらにして腹いっぱいいただきます。参加受付開始はこの週刊ニュースでお知らせいたしますので注目ください。先日の第27回自然と環境講演会は「自然の中で子どもは育つ」として開きましたが、それのきっかけとして最適なものとなるのではないでしょうか。みなさんのご参加を里山農園でお待ちしています。

#### ●オオムラサキの幼虫を発見 すごい快挙

オオムラサキの調査観察を 1998 年に開始して、20021 年まで連続して幼虫を発見してきました。2017 年 12 月の 28 匹の幼虫確認がピークでした。そして 2021 年 12 月に 2 匹が確認されて以来、里山農園での確認がされませんでした。ところが今年の 3 月 13 日に中学 2 年生が、これまでここにはいないだろうと考えていたエノキ 30 番の根元を観察して見つけてくれたのです。画期的なできごとで正に再発見です。厳しい環境条件となっても自然の生き物は生き残って生命をつないで、生き物としてのしたたかさを持っているんだということを学ばされました。里山の会にすごい元気と展望を与えていただきました。京田辺市の宝物が生き続けてくれていたのです。再発見有難う。これからもしっかり調査観察を続けて環境を守ってください。若い力の活動を期待しています。

#### ●ヤマトサンショウウオの卵嚢をやっと発見される

ヤマトサンショウウオの生存について、行政機関などから里山の会が観察している卵嚢を譲ってもらえないだろうかとの相談が寄せられ、連日産卵調査を行うことにして観察行動を強化してきました。しかし昨秋からまとまった降雨がなく、これまで発見してきた水溜まりが干上がってしまいました。もう今年はダメとなるのではないかとの気分が続きましたが、3月の上旬から中旬にまとまった降雨があり、3月13日の調査で一対の卵嚢が発見され、続いて翌々日に二つ目の卵嚢が産み落とされていました。ここでも非常に厳しい自然現象のなかで懸命に生きようとするものが頑張ってその日の来るのを待ち続けていたということが分かりました。両生

類たちはこの地球環境の変化で 100 年後には地球上から姿を消すのでは ないかといわれている生き物です。それが京田辺市に今現在生息できる 条件があるのです。大切に見守ってゆきたいと思っています。これまで 最初に卵嚢の発見がされた最も遅い時の記録は 2007 年 3 月 18 日に 6 個 でした。今年はこれからも産卵が続いていくのではないでしょうか?



●里山展 京田辺市中央図書館ギャラリーで6日間開催 中学2年生のチョウやトンボの標本に感嘆の声里山の会は6年前から、活動の紹介と里山の会の調査観察の結果を多くの市民の皆様にお知らせしようと、山城地域の市町村で展示会を行ってきました。この取り組みを展開するにあたって、京田辺市中央図書館「ギャラリーかんなび」で、結成した絵画サークルなどと展示会を行ってきました。2月、3月のこの時期の取り組みでは1年間の取組を総まとめの時期として絶好の機会として取り組んできました。この取り組みでは、足りないところや、反省点がたくさんありましたが今日まで続けてきた重要な発表会です。今回はこれまでになく中学二年生の昆虫観察記録や現地で採取した標本が展示されて、ご覧になっていただいた皆さんの心を温めてくれたのではないでしょうか

#### ●農園部会だより 3月15日(土)里山農園他

上の池や農園の池での生き物観察や、昨年 10 月に仲間入りしたトラクターでの耕運、中沢親子による昆虫観察、ジャガイモの作付けに向けた準備など、参加者がそれぞれできることを実施しました。ひとつ残念なことがありました。トラクターの故障です。以前に太田さん、有田さんが補修してくれた冷却水の水漏れが再度発

生してしまいオーバーヒートしてしまいました。機械は故障がつきものですが、故障の大小や検討がつけられるように引き継いでいきたいな~とも思った次第です。

また、1号地には動物の足跡を発見しました。先週の土曜日(8日)から今朝までに動物が出入りしたようです。周囲に柵は張り巡らせているので、柵の穴をくぐり抜けることができる小動物? 柵を飛び越えることができる動物? どちらにせよ、作物が荒らされないように考えないといけません。



1号地に出現した動物の足跡

- ●国交省淀川河川事務所から木津川希少種植生調査管理業務の公示がされ、2025 年度も里山の会として受注申請書を提出いたしました。この提出には河川協力団体の資格が応募条件とされていて、5 年間の実績を表記することが求められています。また各方面から表彰された経過も記載することになっていて、河川管理者との共同企画や活動についても問われるものです。そして年間のスケジュールについても記載しなければなりません。申請書の作成を取り組んでみると、実績だけでなく事務処理をいかに正確に着実に行われているかどうかが問われています。
- ●京都市京阪三条駅前 檀王寺 「京童の集い5回目の連続出店」竹サインペン3月15日8時

思うように販売が進みませんが、連続4回出展をさせて頂きました。5回目の取組の計画の案内状を送付いただきました。ありがたいことです。あまり大きな期待をせずに開催されるときにあきらめず出店を続けられることが大切だと取り組みを始めました。それが5回目にして初めて開催案内を送っていただけたことは大変ありがたい出来事です。あきらめず大きな期待をせず、ボチボチ、少しずつ、粘り強く進めていくことでしょうね。

●2025 年度里山の会の役員(理事候補の推薦者がありませんでした)役員の任期が満了

名乗りや推薦者が無く、役員の増員や入れ替えがされず、現職役員の継続提案となる見通しです。課題は更に 重大な事態に向っています。理事の平均年齢は81歳です。これからみんな弱音に負けず若手の育ちまで頑張り ましょう。

●新年度の大きな課題が見えてきました

これまで里山農園の開拓した頃はイノシシの被害は見られませんでしたが、里山農園にも被害が出てサツマイモが全滅させられるなど被害が大きくなりました。それで私たちも 500m のフエンスを張り巡りました。その後、幾度も侵入させられ修理を行ってきましたが、イノシシの完全な侵入を防止できませんでした。それで今年は修理するという小手先の取組ではなく、抜本的な対策を行わない限り里山農園での栽培は不可能となりますので、みなさんの一層のご協力を願いいたします。

- ●会誌原稿(58号)の寄稿をお願いします。大至急お寄せください。お待ちしています
- ●新年度の初イベント 「親子花見乗船体験」はカヌーで実行します。

これまで応援支援をいただいてきた摂南大学エコシビル部の体制が思うように進まず E ボートの運行できません。そこで小学 4 年生以上の参加を条件に、カヌーの無料乗船を取り組みます。4 月 5 日(土)10:00 から14:00 までの開催です。念のため着替えなどもご用意ください。そして保護者同伴を必須としていますのでよろしくお願いします。先立って会場の馬坂川河口の清掃を行いますので、ご協力をお願いします。3 月 30 日(10 時~11:00)。続いて午後は乗船足場の組み立ても行います。

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1078 号 2025-3-27

#### ●タナクロオープニングに松かさツリー、竹エンピツ作りで参加 81 人が参加 3月23日

今度新しく、京田辺クロスパーク(タナクロ)が田辺中学校や田辺警察署の南側に田辺公園の新工リアとしてオープンしました。農業体験ができるという公園で農福連携をテーマにしているそうです。3月23日には文化協会が主催で京田辺市民文化フェスティバルが開かれ、本会では松かさツリーと竹エンピツを体験してもらい、81人の参加があり盛り上がりました。









かエンピッ

# じゃがいもの値付け農園部会だより

#### ●3月20日(木)・22日(土) 里山農園にて

春分の日だった20日(祝木)の午後は3号地にジャガイモの植付け(男爵132株、メークイン24株)を行いました。参加者は10名で幅広い世代の方が参加してくれました。天候不順や獣害などにあわずにたくさんの実りが地面下にできることを願っています。

② 22日(土)は8名が集まり、小屋周辺の草刈りや作物への水やり、ヤマトサンショウウオの確認、ジャガイモ、大根、ニンジンなどの植付けなど参加者それぞれが幅広い活動を行いました。1号地の足跡については、柵の穴をくぐり抜けることができるような小動物だろうということでした。かぼちゃやジャガイモ、サツマイモなどの獣害が昨年までに発生しています。作物が育ってきたらネットをかけたり、超音波やライトなどで寄せ付けないようにしたりするなど、大きな作業負担なく動物と共存できるような対策をしなければなりません。



ジャガイモの植付け(20日)



小屋周辺の草刈り(22日)

#### ●里山農園で3月13日中学2年生の吉村開君が発見したオオムラサキの幼虫の写真

里山の会が発足して間もないころコメつくり体験や木炭生産のお手 伝いを行っていた時、国蝶のオオムラサキがこの谷に生息してるら しいとの話から探索が始まり、冬の昆虫観察としてオオムラサキの 幼虫調査を開始して数回発見しました。しかし、ここ数年発見でき ず絶滅してしまったのだろうかと心配していましたところ、今回吉 村君によって2匹発見されました。画期的な快挙として評価されます。



#### ▶京都水族館からヤマトサンショウウオの卵嚢受取に副館長が来所 3 月 24 日(月)



里山の会がカスミサンショウウオの卵嚢を発見したのは 2007年でした。そして昨年3月に第二の生息池を発見しま した。その間アライグマやイノシシなどの害獣被害対策と 水問題に頭を悩ましながら維持のための活動を継続してき ました。このたび京都水族館で飼育している個体だけでは 近親交尾の問題があるのでと相談があり、新しく発見され

た場合お譲りすることを決定しました。ところが昨秋からの雨が少なく池が干し上がってしまい 産卵が確認できませんでしたが、ようやく水が溜まり産卵があって1対お譲りできました。

#### ●ユキワリイチゲ 300 本が生育 木津川希少種植生調査で確認

ここではこれまで、これほど多くの開花に出会う機会に恵まれませんでしたが植物部会の皆さん の執念でこれだけのものが見事に開花し、その環境が維持されていることを証明してくださいま した。画期的なチャンスです。植物部会のみなさん遠方まで出かけていただきご苦労様でした。







#### ●4月12日(土)に開催する春の野草を食する会の準備を開始

4月になって暖かさが本格的になると野草の多くが芽吹き始めるこの時新芽を摘み取り元気をい ただきませんか。里山の会は「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」のスローガンを掲げた 頃から延々と開催を続けてこられた楽しい取組です。多くの皆様ワイワイとたくさん集まってひ と時を過ごしませんか。少雨決行で教育棟の大屋根の下で行います。準備の関係で参加者は申し 込んでいただくと有難いです。準備は50人程度でお断りさせていただいてきましたのでご注意く ださい。和え物や天ぷらなどに加工いたします。

#### ●親子乗船花見体験を実行します。 4月5日(土) 10:00~14:30まで

3月26日の気温は京田辺市で23度になりました。この調子が続くと桜のつぼみも芽を開けてく れるのではないでしょうか、大変待ち遠しいですね。さて新年度最初の取組は馬坂川での親子乗 船花見体験を開催いたします。昨年に引き続いて10人乗りのEボートの参加がありませんのでカ ヌー5 艇を準備いたします。もちろん馬坂川には 1m 程度の深さで 200m のプールを西部土地改良 区の協力実行します。4人乗りのゴムボートも2艇用意します。桜の花は横から眺めるだけでな



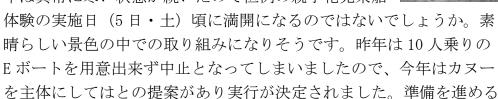


ですよ。ご参加をお待ちして います。混雑が予想されるの で事前申し込みをお願いいた します。

#### ●親子花見乗船体験 4月5日 (土) 10:00~14:30

今年はカヌーと4人乗りボートで実施 参加は小学生 以上で保護者同伴が必須です。

ここ数年は3月下旬には桜の満開になっていました。 入学式の時にはほとんどが見られませんでしたが、今 年は異常に寒い状態が続いたので恒例の親子花見乗船





中で4人乗りのボート2隻を里山の会がもらい受けていることが分かり、これらを使用することになりました。少し規模は小さくなりますが楽しい船遊びが実行できそうです。参加申し込みも届けられていますので賑やかな







花見乗船体験が予想されます。当日の飛び込み参加も受付いたします。 田辺高校の西側北に進んでください。田辺府営団地16棟付近です。

#### ●馬坂川河口清掃に10人参加 ごみ袋10杯分拾い 広大な芦原の草刈り実施 見通しが良くなる

里山の会は京田辺市を代表する見事な桜並木の馬坂川に水を貯留して川面から桜を眺めようと取



り組みを始めて 15 回目 15 年を向かえました。舟やカヌーを 運行するので川の中に捨てられているゴミを綺麗に片付けて 支障のないようにとごみ拾いを行って来ました。コロナの時 代はやむなく中止いたしましたが、それまでにバイクや自転 車、自動車のタイヤなどが捨てられていましたが、徐々に大 型のゴミや手に負えないものは見られなくなりました。しか



しペットボトルやジュース缶、買い物袋などが相変わらず目につきます。今年は3月30日の日曜日の10時から12時までの約2時間に10人の皆さんゴミ拾い清掃活動の参加してくださって45kg用の袋10杯分が収集されました。良い天気

だったので助かりました。また川の中に大きな砂州が出来ていて葦がひどく繁茂していたので、 刈り払い機で刈取り、刈草をトラックで里山農園へ運び焼却しました。ご参加下さった皆様大変 ご苦労様でした。この取り組みには京都府土木事務所から、軍手やハサミそして刈取り用のチッ プなどの提供がありました。

#### ●乗船足場つくりに力を合わす

綺麗になった馬坂川の堤防に二箇所の乗船用の階段 を組み立て設置しました。4mの単管を主力にして 階段や手すりを取り付けました。しばらくこうした ものを組み立てることはしなかったので、要領が思





い出せず苦心苦労が重なり途惑いましたが、少しずつ思い出しながら形を作り上げることができました。例年通り安全に乗降が可能にできるものを組立ましたが、この日は足場のベニヤ板の取付けが残ってしまいました。

出来上がった階段

#### ●カヌーやパドル、ライフジャケットの借りだし準備に奮闘 4月2日(水)

水曜日の9:30から定例の事務局会議が開かれ、続いてこの日は乗降階段の 足場のベニヤ板の取付けを13:30から実施して完成させました。そして

15:00 から笠置へカヌーの借りだし運搬を行い、夕方 17:00 には馬坂川の貯留の確認をするなど準備に大わらわでした。また 4 人乗りボートのパドルの予備の借上げ(摂南大学)が作業として残ってしまいました。社会福祉センターへの保険加入と料金支払いなどの手続きも行いました。事務局会議にご参加の皆様本当にご苦労様です。イベント要員は最低 20 人は必要です。できれば40 人のご協力が得られればと協力を多くの人々にお願いしています。ここは自動車の通行がかなり激しく舟などの乗り降りへの安全確保が第一です。そしてボートやカヌーの操船時の安全確保が最も注意しなければならないポイントです。ボランティアで少しの時間でも応援協力頂けるお方がおられましたら、駆け付けていただけると大助かりです。よろしくお願いいたします。

#### ●中学生2人が里山農園での昆虫観察調査について発表 府営田辺団地の第3集会所にて13時頃から

今年のツクシは大きく顔を出してくれているのでしょうか。昨年これまで毎年採れていたタラノ

乗船イベントと同時に中学生の2人に昨年から里山農園での昆虫観察調査についての結果発表をお願いしています。オオムラサキやキチョウ等のチョウチョウについてのお話をまとめて頂いてきました。一度お聞きください。お話を聞けば生き物についての興味がわいてきますよ。天気の加減もありますが開始は13時ころから始める予定です。



三年ぶりに見つけたオオムラサキの幼虫

#### ●春の野草を食する会 4月12日(土) 参加者募集 始まる

メが採取できませんでした。今年はどうでしょうか。今年の3月24日にヤマトサンショウウオの卵嚢が発見され京都水族館に一対の譲り渡しが実現しました。そしてオオムラサキの幼虫が3年ぶりに確認されたりと、里山農園の豊かさが確認されています。アライグマも3匹捕獲した後、6匹も一度に撮影されるなどの衝撃的な写真も撮影されました。ここで春の訪れを実感する楽しいイベントにご参加ください。そしてわずかでも野菜の栽培を手伝ってくださるよう多くの皆さんのご参加をおまちしています。参加費1人400円(会員)、非会員500円としています。準備の都合もありますので30人で受付を打ち切りとしますのでご注意下さい。





#### ●24 年度第3回理事会が開かれる 4月3日(木)

年度内に第3回の理事会の開催を予定していましたが、諸般の事情で4月3日にずれ込んでしましました。今回は役員(理事)の任期満了となって立候補や推薦を受け付けてきましたが名乗りが無く、旧来の理事が定款16条4項の規定の通り継続することになります。こうした流れの通常総会となりますのでご了解ください。また年度末に新しく社員に名乗り出ていただいた方がありましたのでお知らせしておきます。

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1080 号 2025-4-10

#### ●親子花見乗船体験 始まって以来の花見天気で大成功 4月5日(土)





3月の気温がかなり低かったので、桜の開花が遅れ取組の当日には満開となりました。こんなに良い状態の日に実行できたのはこれまでで初めてです。ボートを楽しまれた皆さんは川の中ほどに伸びた桜の枝に接していかがでしたでしょうか。この日は遠方からの来客やタイから日本に来られて10年ほど経過して参加したという親子もご参加いただきました。また車いす生活をされている方も来て下さり、ボートで花見を堪能されたとのことでした。この日は寒くも

なく暑くもなく良い天気でした。4人乗りのボート2艘とカヌー5

艇を準備しました。そしてライフジャケットを 25 人分が用意でき

ました。ところがスタッフとして 皆さんのお世話の方にもライフジャケットが必要なので2艘と5艇

がフル稼働すると次の番になっている方にライフジャケットが不 足となってしまいました。そのために待ち時間が発生するという

ことになり、次年度への課題がありました。

カヌーの操船は初心者ではなかなか難しく大きなボートの運行に支障に成るということもしばしばありました。思うように進めることができずに離合に時間がかかりました。こういったことは初心者の間では絶えず起こることで、皆さんがトラブルにならないように仲良く舟遊びを楽しんでください。お待ちしています。





高く、増水の時は木津川から逆流してくるため、農地では苦労が続いていました。(内排水問題)

この日のために多くの皆さんのご理解とご協力を頂いて実行できたことをお伝えします。ここは以前天井川で屋根より高いところに水路(防賀川・馬坂川・天津神川)があって、川の切り下げが行われて現在の川に作り替えられました。その工事の時に桜が植えられました。天井川は西の山に降った雨が低いところに溜まってしまうので、木津川に排水するために徐々に人工的に高くされたといわれています。木津川の河床は開いています。木津川の河床は開いています。木津川の河床は

天井川は大きな役割を果たしていました。しかし大雨が降った時には危険でした。切り下げが行われ木津川の河口には神谷桶門や名松桶門に溜まってくる水をポンプアップして木津川へ排水す

る施設が作られています。この施設のおかげで近年水没する事故がかなり減少しています。みなさんが何気なくポイと捨てたごみは排水機場に流れ着き、ここで排水機の能力が落ちてしまいます。それを知って皆さんはどう思われますか。

私たち里山の会は馬坂川の河口付近で親子花見乗船体験を実行するためにごみ拾いを行っていますが、排水機の能力が維持されるためにも、そしてきれいな川でこそ気持ちのいい景色が楽しめるなどと考えて乗船体験を実行しています。楽しんでいただいた皆さんも少しの時間だけでも深く考えて日頃の暮らしの中でご協力くださると取り組んでいる効果があったと思えます。

#### ●京都水族館から嬉しい連絡がありました。

先日(3月24日) 里山の会が見つけた「絶滅の恐れのある生き物とされている」ヤマトサンショウウオの卵嚢2ペアうち一対を京都水族館にお譲りしました。水族館では大切に飼育されて、無事に132個体が孵化しましたと連絡が届きました。是非大きく成長させていただきたいと思っています。

里山の会では最初に卵嚢を見つけた時から成体を見つけるまで10年かかりました。そして二番目の生



息地を昨年の春に見つけられました。万が一の事態が発生した時のために大変大きな喜びでした。昨年の秋ごろからの雨量は非常に厳しい状況が続いて、それぞれ二か所の生息地には1月から2月にかけて水が干しあがってしまい産卵することができない状態が続いてきました。大変心配して連日観察調査を行ってきましたが、今年は産卵されないのではないだろうかと懸念していました。ところが3月13日前の降雨があって一対の卵嚢が見つけられ18日にも二対目の卵嚢が見つかりました。早速京都水族館に連絡して24日にお譲りしました。その後観察調査を行なっていますが、新しい卵嚢は見つけることは4月8日にはできておらず、また水が干し上がりました。これまで48対が最高の発見がありましたが今年は厳しい条件となっています。

#### ●春の野草を食する会 4月12日(土)10時~13時ごろまでで開催します。

暖かくなって過ごしやすくなってきました。厳しい冬を絶えた野草たちも元気に新芽を出し始めました。近頃野菜が大変値上がりしています。この頃旬の野菜が無くなり冬にキュウリが食べられる時代になりました。しかし春と

いえば土筆と筍ではないでしょうか?生命あふれる野草をいただき元気を盛り上げましょう。

参加人数に少し余裕がありますので至急お申し込 みください。

一般 500 円(会員 400 円)、小学生以下は無料。

右の写真の植物の名前は ご存じですか?(答えは右下)









#### ●春の野草を食する会4月12日(土)43人の参加がありました。

事前の打ち合わせ会ではお天気の不安もあり、昨年通りのお米の量で用意しましたが、予想以上に多くの家族、多くの子供たちの参加があって、特にお米が美味しく、炊き立てだったので少しご飯が不足することになってしまいました。難しいものですね。この日採取した新芽はヨモギ、セリ、カラスノエンドウ、加えてスイバやタンポポ、ノイバラ、ギボウシ(ウルイ)、それにレンゲが集められました。そして持ち寄っていただいたものにはタケノコやタカノツメ、タラノメ、ドグダミ、イタドリ(スカンボ)などが提供されました。それぞれ洗って水を切り、準備が出来たところから天ぷらにいたしました。出来上がるのが待ちきれずに皮をむいたイタドリを口にしてしまう等が見られました。普段は全く見向きもしないものですが、食べられると知るとどんどん手に取って見ておられました。







また食事がすんだ頃に行われた理事の有田勉さんの出番としての「有田劇場」が開演されて、手品や参加者たちの参加型クイズに凄い集中がありました。特に初参加された皆さんと子どもたちにとって目の前で行われる動作に釘付けになっていました。そして最後に有田さんの最も得意な腹話術には全参加者がひきつけられて楽しく盛

り上がり食する会の幕を閉じました。そ

れぞれ参加者たちは初めての顔合わせをしたばかりでしたが、すっかり仲良しになっておられて、別れて帰宅するのが名残り惜しい雰囲気が漂っていました。スタッフの皆さんの心からのおもてなしの心が伝わったのではと思います。

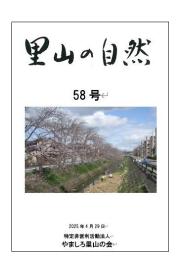
自然を大切にして仲間の輪を大きくするのスローガンが生かされていることを実感させられました。多くの皆さんがこの素晴らしい里山農園に足を運んで実感されることを強く望んでいます。スタッフとしてお世話いただいた皆さん本当にご苦労様でした。





#### ●会誌 58 号の準備が進む 発行は 4 月 30 日を予定

原稿を早くから募集いたしてきましたのでかなり充実した内容に組みあがってきまして 170 頁近くに出来上がってきました。会誌の主たる狙いは 3 月 1 日に実施した講演会の報告で「子どもは自然の中で育つ」として京都大学准教授になっておられる浅野悟史先生と桜谷先生の対談はぜひともご覧になっていただきたいものです。里山の会が発足した頃に亀岡から普賢寺で開催した昆虫観察会に参加して以後今の立場に到達されての実体験を語っていただきました。子育て最中の皆様に学んで頂きたい内容となっています。よろしくお願いいたします。



#### ●第31回通常総会が4月29日(火)祭日に開催決定

2024年度を振り返り 2025年度の活動方針を決定する第 31 回通常総会日程が上記の通り決まりました。社員の皆様は万障繰り合わせの上ご出席をお願いいたします。議事内容は ①2024年度の活動報告の承認 ②2024年度決算報告の承認 ③2025年度活動方針の決定 ④2025年度予算案の決定 ⑤2025年度から 2026年度の役員体制の決定 が主な議題であります。特に新役員体制の確立が大問題でありますので慎重審議をよろしくお願いいたします。

#### ●京田辺市文化協会から講師依頼がありました。7月26日

田辺中央公民館で開かれる「京田辺を学ぶ講座」で昨年は甘南備園で活動されている米田先生から京田辺のゴミについての学習会で現状の説明とごみの扱いについてのお話があり、新聞紙を使ってかばんを製作されたとのことです。年間4回ほどの開催で30回になるそうです。お茶と農業についてとか、隼人舞の伝承の大切さや所作の意味の説明をされてきたとのことでした。今回、里山の会にご依頼されたのは希少植物や動物の存在とその意義、例えばレンリソウ、ヤマトサンショウウオ、オオムラサキの生態などについての話を期待されているようです。もちろん里山の会の活動についての紹介もさせて頂けると思いますし、中学生の調査研究結果の発表の場にして頂きたいものです。

#### ●第31回通常総会開催いたします。 4月29日(火)13時~17時 中央公民館

ようやく開催の諸準備としての資料が整えられました。残るは会計監査を残すところまで到達出来ました。各社員の皆さま方にはご心配をいただいてきましたが、いよいよ結成30周年を目前にした2025年第31回通常総会を迎えられました。いま世界はトランプ大統領によって経済の行方が混とんとなり、我が国ではコメの値上がりや物価高となって大きな変革変化の時期を迎えています。そして春の期間は本当に短くなって夏日が4月に発生するなどこれまでの常識が覆っていく気候変化です。この夏はどのような夏になってゆくのでしょうか心配ですね。今回の総会は役員の任期満了で新体制の確定という課題に対処致さなければならないので、これまでにない大切な会議になりますので社員各位におかれては万障繰り合わせの上ご出席をお願いいたします。また会員の皆様におかれましてはオブザーバーとしての参加は大歓迎ですのでご参加いただければ有難いです。

●第29回 京田辺市生け花協会展に参加してきました。 4月19日(土) 市役所前コミュニティホール 7時過ぎに新田辺駅前のコーヒー店で休憩していると、見ず知らずのご婦人から案内はがきを頂き、せっかくなのでと思い昼前に出かけました。そこには打田の榊孝二さんがおられて説明をいただきました。市職員を定年になった中村和男さんが市民文化祭に生け花出展者で一堂に取り組んではと呼びかけられて今回で29回目である事や、惜しくも中村さんが亡くなって5年程経過したが、苦労しながら継続開催をおこなっているなどをお聞きしました。それぞれの流派があって難しいことが予想されます。それを乗り越えての展示会ですので、すばらしいものだと思います。力作揃いの展示でしたが、感想として京田辺市の野山に咲いている花を使っての展示会とされ、京田辺市の自然の豊かさを強調していただければ有難いなぁと思いました。

## **農園部会だよ!**

#### ●4月19日(土)大人6人と中学生2人が参加してくれました。

暑い1日でした。身体が慣れていないので、体調を崩さないか心配です。中学生2人は昆虫観察のために里山農園を縦横無尽に活用し、気になったことがあれば質問することを通して大人と交流するという良い循環がありました。また、1号地・3

号地を舞台としてジャガイモの芽かき、 草引き、水やり、差

し入れされた野菜を植えたり、トラクターのメンテナンスなど情報 交換しながら楽しく作業を展開しました。





3号地の手入れ風景(芽かき・草引き)

#### ●里山農園の教育棟 屋根の傾き修繕を実施 4月22日(火)

ご利用されている皆さんから雨もりがきついのではとの気付き報告に基づき調べると、固定番線が緩んで30cm程ずれていました。長年の風雪の影響でしょう。ずれていた屋根を引き上げて取付金物(クランプ)を使って固定しました。これで雨の吹き降りに対処できるのではないかと思われます。

#### ●里山の会では 次のような作業を無償のボランティア活動を行っていただいています

木津川希少種維持作業除草作業200 時間木津川希少種生育調査生育調査148 時間木津川希少種維持作業刈草運び出し 176 時間各種イベントスタッフ463 人竹エンピツ制作竹割 研磨45 日

里山農園 野菜栽培 毎週火・土(5~7人)

週刊ニュース発行 編集 毎週木曜日(ホームページ更新)

会誌/[里山の自然発行」 募集と編集、印刷 年間2回発行(4月・10月200頁)

朝市出店 農園の生産物 第2・第4日曜日

#### ●群馬県のある大学からやましろ里山の会の活動について学びたいのでと挨拶の電話が来ました。

ホームページをご覧になってのことと思います。電話では5月の連休中にできれば伺いたいのでということでした。日時が決定いたしましたら週刊ニュースでお知らせいたしますのでご協力をお願いいたします

#### ●会員の山岡治作さんが特許を得られました。

昨年ミツバチとメダカの観察会でミツバチの生態を説明いただいた山岡さんが、「日本ミツバチの人工分割分蜂重箱式巣箱」についての特許を取得されました。 日本ミツバチの養蜂家で宇治田原にて養蜂活動を長年行われ、非常に難しいとされている取り組みの中から経験を得られ、技術を確立させ、申請へ到達されたのです。

日本ミツバチはミツバチ箱が気に入らなければ住み着いてくれない性質で、一般に普及しているセイョウミツバチとは格段に難しいものだそうです。素晴しい成功だと言えます。おめでとうございます。この技術を生かして養蜂家の苦労を少しでも軽減させてくださることを願います。

山岡さんは昨年入会され、里山の会のパソコン教室に参加し、パソコンの操作を学習されました。そして申請書を自力で書き上げて提出されたのです。今年79歳男性です。正に「為せば成る 為さねば成らぬ、何事も、成さぬは人の為さぬなりけり。」の言葉通り頑



張りつづけられました。きゅうり農家でもありまして、城陽市寺田から宇治田原町の大字南の畑 に行き、朝の2時ごろから懐中電灯を頭につけて作業されてこられたとお聞きしています。

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1083 号 2025-5-1

# 農園部会だより

#### ●4月26日(土) 11人が参加してくれました。

先週に引き続き、中学生1人が昆虫観察のために里山農園に来てくれました。丸山に居たな~と思っていたら9号地で昆虫を探していたりと、熱中している姿にとても歓心を得ました。1号地では、ある程度成長したダイコンの間引きや夏野菜の植え付けに向けて3畝ほどマルチを掛けたり、支柱として竹を切って運んだりと準備を中心に行いました。また10号地・11号地ではハンマーモアの運転講習を行いました。免許皆伝に向けて頑張っておられました。

5月6日(祝火)に夏野菜の植え付けを実施するにあたって、昨年はチャレンジしなかったトマトやスイカも植えたらどうだろうかと大変盛り上がっています。GW 最終日や終盤でお疲れの方も多いと思いますが、里山農園にて自然の元気をいただきましょう!



ダイコンの間引き



夏野菜植付に向けたマルチ掛け



ハンマーモアの運転練習

### 無農薬で安心、安全な夏野菜を皆で育てよう!



連休 最終日 5月6日(火) 10:00~12:00 集合ください。 夏野菜の植え付けを行います。

> トマト(3種類)、ナス、ピーマン、万願寺トウガラシ、 里いも等々 トウモロコシ、枝豆は種まきします。

植え付け後1か月半で美味しい夏野菜が収穫できます。虫さんや 病気も発生しますが、炭焼きで出来た木酢液で予防します!







2006年に里山農園の開拓の草刈りがされましたが手作業ではとても無理な作業と判断して音を上げました。2009年の春には市販の小型の草刈り機の購入があって第2回目の開拓がはじまりました2号地まで歩行できる小道の開通は2010年の春にできました。その秋には初物のすごく立派な大根が生育しました。2015年ごろには農園収入が30万円にもなり40万円を目指そうとした2016年にササユリ事件で計画がしぼみました。その頃からイノシシ被害が目立ち、鉄柵を張りめぐらせて防御を行いましたが、イノシシの侵入は完全に防ぎきれずに今日に至っています。設置して6年が経過していますのでこの辺りで抜本的な対策が必要な時期を迎えています。昨年からアライグマも加わっての被害も出てきていますし、カメムシの大量発生もあり、作物の種類や土壌改良などにも知恵を発揮しなければならないのではないでしょうか?

### ●2025 年度は30 周年記念の前年にあたりますので、記念の取組について週刊ニュース1030 号掲載(4月25日)で読者の皆様にご提案をお願いいたしました。

具体的な提案は頂けていませんので、ベテランと若手の代表で日時・場所・内容について相談の機会とメンバーを次回事務局会議で決定させていただくことになりましたので、ご協力をお願いいたします。

●ヤマトサンショウウオの産卵は3月13日と15日の2日にそれぞれ1対で合計2対が見つけられましたが、その後は雨が溜まらず干し上がった状態が今も続いていまして、産卵されないとの見通しです。非常に厳しいですね。見つけられた1対は京都水族館にお譲りしてうまく育って(132匹)くれているようですので、不幸中の幸いです。里山の会では調査観察を続けてきましたが、卵嚢から孵化したとの結果も確認できていませんし、その後は全く水が溜まっておりませんので孵化できなかったのではないでしょうか。

#### ●第 31 回通常総会 4 月 29 日(火)

社員 34 名 出席者 16 名 委任状提出 15 名 欠席 2 名 会員参加: 吉村國男 中沢洋斗 吉村開 福本佳之



晴天の29日に31回目の里山の会通 常総会が開催されて2024年度の活動 方針と決算・監査報告が承認されま した。続いて2025年度活動方針と予 算案が決定されました。そして新理 事を選出する第一回理事会が開催さ れ、新理事の互選で理事長に岩佐英 夫さん(弁護士)が全員一致で選出さ



新理事長の岩佐英夫さん



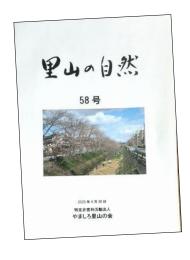
退任の大村幸正さん

れました。総会では社会問題にされ始めている PFASについて京田辺市の現状説明や里山農園に隣接する祝園弾薬庫がミサイル基地に建設される発言がありました。続いて貴重植物や生き物の保全作業への京都府からの助成は?里山農園の飲料水やトイレの必要性の強調、HPのセキュリティ問題、ボランティア保険内容の保証内容説明の徹底を図るべきとの発言がありました。そして余剰金の使い道への質問が続き熱心な審議がありました。今回の総会ではオブザーバーとして中学生2



名が参加されたのは初めての出来事で、これまでなったことです。体調不調にもかかわらず、これまで理事長としてご奮闘されてきた大村幸正氏が皆様の大きな支えに感謝する解任挨拶に満場の拍手が送られました。ご苦労様でした。経験を活かしてご活躍をお願いいたします。

#### ●会誌 58 号の会誌作成に朝から一日の大作業を実行 4月30日(水)



事務局会議の後、会誌 58 号の印刷の開始に取り掛かりました。準備に取り掛かると見落としているところがつぎつぎと見つかり、印刷機を運転開始は正午になりました。そして印刷機は何回も何回もストップしその都度ミスの印刷紙を一枚も残さず(多い時には9枚、9カ所)取り出さないと、印刷を開始してくれないので本当に大変でした。この故障ストップの改修を繰り返すことで印刷機のポイントを徐々に学び取り、これまで無造作に補給していた紙の追加も丁寧に気を使って行えるように学びとることが出来るようになりました。苦労することで学ぶことがあり、無駄ではない事が多くあります。この日だけで発送ま

での準備が到達できなかったので、

昨年と同様に二日目も必要になりました。頑張っていただいた皆様ご苦労様でした。 5月1日(木)に発送を完了しました。

> 会誌 58 号の印刷製本風景 印刷機のストップで時間がかかりました。



#### ●京田辺市の子どもの食堂を 10 年継続してこられた新井達夫さん(チームせせらぎスマイルダイニングの 代表)が里山の会にお越しになってくださいました。(4 月 30 日来所)

山城地域で子ども食堂を経営されているのは約10カ所、京田辺市では新井さんのチームが唯一で、初めの頃は貧困対策でしたが、近ごろは居場所を求めてきているらしいことに変化がみられるようです。現在同志社大学生15人位の若者が相手をして日頃の些細な相談がされているようです。問題や課題で無理なところはスタッフの大人が受け止めて対応されているとのことで、里山農園で子ども食堂への提供物は品種関係なくいただけるものはいくらでも受け取らせていただきますのでよろしくお願いいたします、とのことでした。また活動内容も人間関係が里山へ深められるにしたがって参加させてもらいたいとのことでした。お話を伺ってしっかり活動を通して交流すれば協力できる面がさらに広がっていくだろうと感じました。里山農園で頑張っていただいている皆さんに良いお話でした。

#### ●国交省との業務契約が出来上がりました。

5月2日に里山の会から実施契約書を提出いたしましたので、国交省との間で業務を行ってもよ いことになりました。3月下旬にユキワリイチゲの生育確認や4月から5月初めに植物調査など 実質的な行動を始めてきていますが、書類的には位置付けられていない状態でした。今年から生 育調査については毎月定期的な調査から、必要な開花時期での調査の報告書になり、除草もこれ までの春夏秋の3ブロックに分けての作業指示でしたが年2回の除草作業の指示に変更されまし たので、真夏の除草作業は回避できることで夏の厳しい中での作業が少し減少したかのように見 られます。しかしその分冬の作業時には大きく成長したものを刈り取らなければならないので刈 取り回数が少なくなった分だけ大きく太くなり、刈草の分量も多く重くなってしまいますので、 苦労は増えたものになりますので喜ぶわけにはいかないのではないでしょうか。冬の草刈りの大 変さが今から心配です。しかし夏の最中の作業が回避できたことは少しは良かったのではないか と思われます。これまで少数の方々の尽力での作業だったのですがハンマーモアが3台とも順調 に稼働すれば除草作業の重労働が改善されると思われます。少し運転を見習う事が出来れば案外 簡単にできるものですので是非お手伝いをお願いいたします。この作業によって木津川に生育し ている8種類の絶滅寸前種の植物の保存ができているのです。そして木津川で誇れる美しい花た ちの保存にも役立っているのです。ぜひ多くの皆さのご協力をお願いいたします。作業日はこの 週刊ニュースでも予定日時をお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

#### ●令和7年度の京都府の地域交響プロジェクト交付金の申請書を製作しています。

これまで京都府の交付金を申請してきましたが交付決定をいただきまして、各事業の実行の大きな力支えになってきています。事務局会議では申請書つくりや事業報告書つくりという事務サイドが面倒で苦手なので厳しい論議が常に繰り返されてきました。またこうした交付金を当てにした事業展開にも疑問があるという意見が続出する中での申請になっております。事務方の作業は簡単なものではなく、申請にあたっての事業計画とその内容の検討、そして予算書など手間暇がかかります。そしてイベントが終われば記録などの整理や支払業務など後始末も大変時間がかかります。事業を実施しながらの事務作業ですから手落ちも発生いたします。それでも財政面からの援助は断り切れないものがあります。私たち里山の会は国交省の業務委託を受けて負担金 1/3を比較的に負担できているので大変ありがたく、申請できています。今年も6月末が締め切なので申請書作成に全力を集中いたします。次のような項目が提起されています。

- ①事業名:自然を生かした子育ての地域を目指そう。
- ②解決したい地域課題及びその現状の記載。
- ③解決したい地域課題の背景。
- 4)交付申請事業の内容を具体的に記載。
- ⑤どのような地域協力者がいるのか?協力への工夫を記載。
- ⑥申請事業が地域課題の解決にどのようにつながるのか具体的に記載。
- ⑦継続的に事業をすすめるための財源確保についての記載を。
- ⑧地域住民に開かれた事業のための工夫を記載。
- ⑨これまでの取組がどのように発展するのか取組と工夫を。

皆さんの良いお考えがあればご教授くださると大変ありがたいです。 ▼fddbw257@yahoo.co.jp までご意見や提案を送ってください。

## 農園部会だより

#### ●5月3日(土)11人が参加してくれました。

昨日の雨のおかげで、里山農園内の桝にはたっぷりと水が入っていました。桝の修理や溝の補修をしてくださった方々に大感謝です。今週も中学生が昆虫観察に来てくれました。生き物に詳しい金田さんに気になったことなどを質問されていました。嬉しい光景です。

1号地・2号地では、米ぬかを加えたりマルチを張ったり支柱を立てたりと夏野菜の植え付けに向けて引き続き準備作業を行いました。また、暖かくて日差しが良

く当たるからか農園内の至る所で草が急成長してきています。ハンマーモアで2号地・3号地・17号地の間の通路を、草刈り機で16号地やトイレ周辺の草刈りを行いました。

来週は水溜まりに棲息する生き物の観察も行う予定です。



トラクター補修箇所の確認



夏野菜植付け準備

里山農園では5月6日(火)に夏野菜の植付けを計画していましたが、この日は前日から降雨の天気予報でしたので中止を皆さんにお知らせをいたしました。そのため5月10日(土)13時に実施いたします。あいにくこの日も雨天の予報ですが、これ以上植付けを伸ばすと苗の限界を超えてしまいます。何としてもこの日に植え切ってしまいたいと思っていますので、ぜひ多くの皆さんの協力をお願いいたします。植え付ける苗は①ナス ②キュウリ ③トマト ④万願寺トウガラシ ⑤マクワ ⑥スイカ ⑦サトイモ ⑧青ネギ ⑨ピーマン ⑩トウモロコシ(種) ⑪枝豆(種)等を準備いたしました。

先日植え付けていただいたジャガイモは元気に若葉を広げています。芽欠きをしていただいたので大きく育ってきました。きっとこれまでにない大玉の実りが期待できると思います。ホタルの夕べには掘りたてのジャガイモを食べられるのではないでしょうか。芋ほりとホタルの集いが楽しみです。玉ねぎも雨が降って元気を取り戻してきました。マルチをしましたので雑草があまり目立たないようです。もうすぐ実りの時期になります。時間があればお手伝いにお越しください。日時は週刊ニュースでお知らせいたします。

#### ●会誌 58 号の編集について



今までは100数十ページをWordで一括して編集してきていましたので、中に入れた写真や図がこちらの意図とは違う場所に動いたり、どこかへ行ってしたりしまったりしていました。今回はPDFエレメントというソフトを使って編集しました。このソフトは、それぞれの記事や文書をWordファイルでも、PDFファイルでも、順番に並べるだけで一つのPDFファイルとしてくれますので、これを印刷しました。目次も自動で作成してくれますが、見栄えを良くするためには編集が必要です。ページ番号も自動で振ってくれます。今

回は一部が大きな Word ファイルでしたので、一部写真や図がずれたところがありました。今後、それぞれの文書を1つずつのファイルにしておけば、このようなミスを防ぐことができます。

## 農園部会だより

#### ●5月10日(土)夏野菜の植付けを行いました。

1号地・2号地の畝と畝の間に水たまりができるほど、しっかりと雨が降ってくれました。足元はぬかるんでいて作業を行いづらいなかでしたが、11人が集まり植付け作業を実施することができました。他に2人の中学生が昆虫観察をしていました。植付けた野菜は、①ナス10株 ②キュウリ15株 ③トマト20株 ④万願寺トウガラシ10株 ⑤マクワ 5株 ⑥スイカ5株 ⑦サトイモ30個ほど ⑧青ネギ1束 ⑨ピーマン10株 ⑩トウモロコシ(種) ⑪枝豆(種)と11種類です。

事前調査とこれまでの経験より、水はけの良い1号地と、1号地に比べて水はけの悪い2号地で以下のように分けて植えました。

1号地:トマト、万願寺トウガラシ、ピーマン、マクワ、スイカ、青ネギ

2号地:ナス、キュウリ、サトイモ、トウモロコシ、枝豆

また、3 号地ではアライグマ対策として金網(周囲 50m) に沿わせて網目の細かいネットを張り巡らせました。







アライグマ対策の網目ネット(3号地)

植付け作業(1号地・2号地) ※写真の赤色は苗ポット

農作物は植付け後の管理次第で収穫に大きな差が現れると言われています。トウモロコシや枝豆は芽が出てから植替えを予定しています。雑草対策もしなければなりません。たくさんの作業があり、収穫まで管理が大変ですが実りを見つけるととても嬉しい気持ちになることは確実です。ぜひ里山農園活動にご参加、ご協力よろしくお願いします。

#### ●夏野菜の開花後の収穫時期

キュウリ 開花後1週間

オクラ (角オクラ)7日程度 (丸オクラ)3日程度

ナス 開花後2週間~25日程度

ピーマン 開花後2週間~20日程度

トマト 開花後 60 日程度

スイカ 開花後 35 日~50 日程度



トマトの苗

#### ●里山農園部会の 2025 年度 第1回目を開催いたします。 5月17日(土) 10:00~12:00

この日は土曜日の農園作業日になりますが、朝から降雨の天気予想で屋外での作業は出来ない為、伊藤喜明さんの提案を受けて大村さんや森島さんの賛同を受けて開催いたします。13日(水)の事務局会議でも開催が必要ではないかとの論議も深まっていました。キュウリやトマト、ナスが昨年以上の成果物が予想されます。より幅広い取組が予想されるので、しっかりした対策計画が必要です。ご参加よろしくお願いします。

#### ●2025 年度の竹蛇籠製作講習会について次の日程で取り組む計画です。

2025年 9月27・28日 竹蛇籠製作講習会 京都府植物園

11月8日 竹蛇籠製作講習会 木津川井手町カルバート

2026 年 2 月 8 日 木津川井手町 玉水浜 竹蛇籠設置竣工式 (将棋頭型蛇竹蛇籠水制)

#### ●令和7年度「竹の情報発表会」の案内

今回「竹文化振興協会と京都商工会主催の竹の情報発表会」のコーディネーターとして大役を担うとの連絡が小林 慧人さんからありました。同社大学生時代は里山の会で各



種のイベントを企画しながらご協力をいただき、京都大学院へ進学されて竹の研究に身を置かれています。

パネラーは北九州市立大学教授の岩松文代氏や三木竹材店代表の三木崇司氏、京都伝統工芸大学校校長の新谷由貴代氏、と京都いけばな協会会長の松本司氏が問題提起されるとのことです。 私たち里山の会は小林慧人氏との関りに加えて竹蛇籠や竹サインペンといった取り組みがありますので、竹資源の活用に係る取り組みでもあります。ご拝聴の出来る大変良い機会ですのでご参加をお願いいたします。

場所: ホテル オークラ京都 3階 曲水の間

日時: 6月12日(木)午後2時~4時

参加申込み先: 一般社団法人 竹文化振興協会

電話: 075-761-3600 FAX: 075- 761- 3464 メール: j-bamboo@mbox.kyoto-inet.or.jp NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1086 号 2025-5-22

## 農園部会だより

#### 5月17日(土)2025年度第1回里山農園部会を開催しました。

参加者:伊藤、大村、小川、金田、播川、森島

昨夜からの雨は、17日正午ごろまで降り続きました。足元が悪い中でしたが、事務所に参集してくれた6人で今年度第1回目の農園部会を開催しました。(参加できない旨の連絡ならびにご意見も4人からいただきました)

資料(大村さん、森島さん、播川さんが準備)を参考に、提案者の伊藤喜明さんから趣旨説明があり多くの意見交換を行うことができました。共有できた点を以下に示します。

- ✓ 里山農園を始めた趣旨を改めて確認しました。定款の第3条(目的)、第4条(特定非営利活動の 種類)に記載されていますが、要約すると『きれいな里山を保全していくにあたり、伐木や除草だ けではなく野菜作りなどの農林業の手段を活用して楽しみながら実践していこう』です。
- ✓ 里山農園を維持管理していくにあたり、優先すべき活動はやましろ里山の会の主催事業である旨を 確認しました。
- ✓ 昨年の冬から5月までに植えた野菜と先週の土曜日に植えた夏野菜の活用について、優先順位順に ①会員への販売、②無人販売コーナーの活用(100円~300円程度で販売)、③朝市(第2・4日曜日)、④子ども食堂への提供(京田辺は第4水曜日)を実施していくことを確認しました。
  - ※必要経費である野菜の苗、肥料、消毒、燃料、草刈り機や鍬などの費用を捻出するためです。
  - ※2024 年度は、野菜の売り上げが支出を若干上回ったと嬉しい報告もありました。(2023 年度は 大赤字でした。)
  - ※社会福祉協議会と調整確認は引き続き必要ですが、行先の無い野菜(上記①~④の日程に合わない)は引き取ってもらえそうですとのことでした。
- ✓ 無人販売コーナーの場所については、事務所周辺が良い(以前にも実績あり)と意見があり、調整していくこととなりました。それ以外の場所(自宅の庭先など)についても検討していくこととなりました。販売しても良いよ!という方がおられましたら、教えてください。(対象は、会員)
- ✓ 無人販売の頻度は週3回程度、それに伴う収穫は朝6時くらいから開始、販売開始は7時30分くらいと目安を確認しました。
- ✓ これまで以上に「農家の人になったつもりで野菜と触れ合おう」とモチベーションを確認しました。
- ✓ 草刈り機に関する安全講習は、1年に1回は必ず実施することを確認しました。
- ✓ イノシシ・アライグマ対策として3号地に張り巡らせた網を1号地・2号地にも拡大することを確認しました。(超音波や光を利用した対策も併せて実施)
- ✓ 里山農園のPRとして、ひまわりを植えたり、京田辺市内の小学生または園児を対象とした朝顔活動をしてはどうかとの意見がありました。
- ✓ 里山農園部会として後継者育成も引き続き考えていかねばならないと意見がありました。

また、農園部会で話題に出ませんでしたがこの紙面を通じて里山農園に関わる皆様に考えていただきたいことがあります。それは、「水の確保」についてです。現状は、6 か所(①1 号地と 2 号地の間、②2 号地、③小屋付近、④5 号地、⑤6 号地、⑥教育棟)に桝が設置してあります。例年のことですが、雨の降らない日が続くと水枯れが発生しています。井戸や桝を設置するのか、活動日に水を持参してもらうのか、今年の夏を豊かな野菜で埋め尽くすためにはどうしたらよいのか、皆さまのお知恵を是非とも宜しくお願いいたします。

農園部会の熱心な話し合いの結果、さっそく販売(これまでは無人販売の 100 円コーナー)施設のためののぼりを発注していこうとなって添付のような案が提示していただきました。これまでお願いしてきた滋賀県



の上西産業さんに手ごろな値段で作成をしていただけると事務局会議で決定されました。 夏野菜 の実りが楽しみです。

#### ●5月24日(土)の9時30分に玉ねぎの収穫作業を行います。



天候が心配な模様ですが少雨決行でと意気込んでおられます。収穫したその場で希望者には入手していただける手はずで準備をしております。今年の植付けは300本でしたのです

じゃがいもの花が咲いた様子

ぐに完売が予想されます。協力金のほどよろしくお願いいたします。ご希望の方は時間に遅れず里山農園にお願いいたします。近日物価高の折りですので人気が集中するのではないかと思われます。なお、お持ち帰りの袋は準備しております。



### ●5 月 24 日 (土) 玉ねぎの収穫を行った後、午後 1 時 30 時から木津川希少種生管理業務の除草作業を行います。

また 6 月 1 日には川ガキ団 (田中美知世河川レンジャーたち 30 人) が玉水浜で魚採りをされるとの連絡があり通路の除草を希望されていますので、これにもこたえようと皆さん一致されています。カラシナなどの生育が激しく日にちが遅れると作業が厳しくなってきます。ご協力をお願いいたします。先ずは玉水浜での通路をハンマーモアでの作業です。

#### ●京都水族館からうれしい便りが届きました。

2025年の1月からの冬に時期はヤマトサンショウウオが産卵してくれていた溜りは3月半ばまで雨が大変少なく水がうまく入らず干し上がってしまいました。これまで里山の会が観察してきた中で最も厳しい気候でした。3月18日前後に水溜りが出来て二つの卵嚢がありました。さっそく京都水族館に連絡して24日にそのうち1つの卵嚢をお譲りしました。そして無事に孵化が行われ135匹が誕生して、それがほとんど生存しているとの連絡がありました。今年は大変厳しい環境になって想像できない事態となりました。幸い京都水族館が預かっていただいたものが上手く息をつないだので非常に良かったです。時機を見て水族館の幼生を放流してみましょうかとの連絡をいただきました。不幸中の出来事なので事務局会議で願ったりかなったりの申し出なので喜んで受け入れることになりました。

#### ●ホタルのタベ、里山音楽会を開催します。6月14日(土)

早くも5月も20日を過ぎ、6月の梅雨もそこに来ています。九州が沖縄よりも梅雨入りが早くなるなどの変化が聞かれました。そして里山の会としてはホタルの季節であり里山音楽会のイベントです。2年続けて出演いただいたキジムーバンドも出演に工夫をこらしていただいているようです。里山の会の華やかなひと時を一緒に過ごしませんか。後日ホームページにて申込みを開始します。参加人数に限りがありますのでお早めにお願い致します。

#### ●玉水浜への通路の除草作業完成 5月24日(土)

森島、播川、太田の3人で木津川の玉水浜の草刈りをしました。 駐車場までの道を確保できました。池の方へは、駐車場から30~40mのところまで水があったので、そこから先の草刈りはできていません。水が増えていて、2つの将棋頭も水没していました。写真を添付します。作業中に冷たい雨が木津川川ガキ団の田中さんから早速お礼の便りが届きました。気温差が大きく昼間は真夏日?と感じるくらいに暑い日があったりと体調を崩しやすい時期です。参加してくれた皆さまが風邪などをひかれないことを祈念しております。



#### ●木津川川ガキ団の田中さんから 早速お礼の便りが届きました。

お世話になります。草刈り誠にありがとうございました!次の 日曜に活動で入らせていただきます。6月1日には公私に渡り 竹門康弘先生にお世話になって玉水浜で魚調べをおこなわれる ことになっているそうです。写真でもわかるように通路は雑草 が大人の背丈を超える高さにまで成長していて、子ども達がと ても入れる状況ではありませんので、里山の会の皆さんが写真 のように草刈りを行って通路を確保していただきました。これ で玉水浜には自動車でも歩いてでも行けるようになりました。 湿度が高く蒸し暑い中、草ぼうぼうの中での草刈りは大変でし たけど自動走行の除草機ハンマーモアの威力は素晴く綺麗に通 路が出来上がりました。頑張っていただいた皆さんありがとう ございました。6月は植物にとって最も適した成長期になりあ っという間に復元されてしまいますがよろしくお願いいたしま す。みなさんのご協力もお願いします。





#### ●竹エンピツ制作に24日の午後からは雨が降ると予報されていたとおりの天候になりました。

木下さんは時間が出来たのでと事務所に来られて午後5時まで作業をして竹エンピツをひとりで100本を完成さていただきました。手持ち在庫が出来ていますので各方面で啓発宣伝をお願いいたします。

#### ●京都府の前自然環境課の課長であった後藤さんが来所されました。

現在はデジタル課長として先頭に立っておられるとのことでした。環境課長の時代に木津川で天然記念物の「イタセンパラの復元を目指す」取り組みで京都水族館との連携を深めて行ける施策を講じていただき、また大阪府の多様物センターを訪ねて課題の整理を行っていただき暗中模索の活動に筋道を明らかにしていただきました。生成 AI の使い方を指導していただきました。私のわかる範囲で木曜日のパソコン教室で説明させていただきます。誰でもどなたでも簡単に使う事が出来る非常に便利なもののようです。

# 農園部会だより

●5月24日(土) 10:00~11:30 玉ねぎの収穫をしました。

参加者:伊藤、太田、大村、金田、坂田、寺村(親子)、播川、森島昨日までと違って気温の低い寒い午前中でした。雨が降り出しそうでしたが、玉ねぎの収穫他を9:00~12:00頃まで9人で実施しました。立派な玉ねぎが収穫できることを期待して昨年11月16日(土)に苗300本を植付けました。冬場は雨が少なく、積雪は若干でしたが数年ぶりに京田辺の町が雪化粧になるほど気温が低い日が続

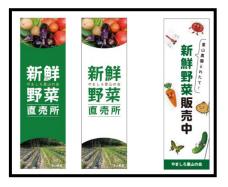
き、作物にとっては厳しい環境下でしたが会員の思いが届いたのか 昨年よりも大きく育ってくれました。収穫できた数は265個でし た。収穫後の玉ねぎは、会員が協力金を支払い引き取ってくれまし た。残り約70個は5玉を一括りにして保管してあります。多くで はありませんが、会員には協力金をお支払いいただくことでお譲り することが可能です。お入り用であれば、大村さん・森島さん・伊藤さんへ連絡をお願いいたします。農園部会として振り返りをしな いといけませんが、ソフトボールぐらいの大きさの玉ねぎを食料品 店で見かけることがありますがそれに比べるとやや小ぶりだったよ うに感じます。

夏野菜の種まきや苗の植付をたくさん行ったので、順調に成長すれば成果物が連日採取されて、手に余るだろうと思われます。できればその備えとして無人販売店の実施を考えており、実施場所の目印となる「のぼり」のデザインを応募いたしましたところ、3つの提案が寄せられました。それぞれに会員の河貝さんがその道のベテランでしたのでより良いものに手を加えて頂いて最終決定といたします。河貝様多忙な中ご提案ありがとうございました。









#### ●5月24日に収穫した玉ねぎを副理事長森島保様から京田辺市社会福祉協議会へ20個を届けました。

協議会の藤林さんが受け取ってくださいました。里山農園では夏野菜を先日たくさん植付ましたのは、収穫できる作物がこれまで以上に収穫が見込まれますし、協力金販売も進まない場合子ども食堂への寄贈や独居老人への弁当配布事業にご利用していただけるとお聞きしましたので、収穫できた「玉葱」をまず小手調べ的に寄贈させてもらいました。5月24日の玉ねぎ収穫にご参加いただいた皆様全員から賛同を得ての取組になりました。厳しい天候の下で生育にお世話をいただいた多くの方々に感謝いたします。28日現在手元にある物は70個程度となっていますので、希望される場合は農園担当の副理事長・森島保さんまで電話をお願いします。

●ホタルの夕べは例年通り開催します。 6月14日(土) 16:00 開会 20:30 現地解散 場所:里山農園 人の手が加わっていない自然のホタルの出現を体験すると同時に里山農園の自然の豊かさを体験 する場として昆虫観察を行い、夕暮れ時には音楽会を楽しみ、蛍の生態を学習します。木下勉キジムーバンドが出演予定です。

参加無料 募集人数 50 人で打ち切り 各自夕食弁当持参 小学生・幼児=保護者同伴(必須) 昆虫観察:講師:桜谷保之先生 京都府地域交響プロジェクト交付金事業です。

## 農園部会だより

#### ●5月31日(土)害獣予防対策をしました。

参加者:伊藤、太田、大村、播川、吉村、中学生2人(中学生は昆虫観察) アライグマ対策として、網目ネットを1号地・2号地にも設置しました。ただ し、準備していたネットだけではすべてを覆うことが出来ませんでしたので、残りの 作業は後日に持ち越しとなりました。また、以前に実施した3号地と異なり、1号地 と2号地の間は1m程度の高低差と水路があるため、ネットをしっかりと固定するた めの対策も併せて実施しなければいけないことも分かりました。他の作業としては、

1号地・2号地に植えたナス・トマト・スイカの支柱の管理と5号地に植えているカボチャ畑の除草を実施しました。昨年度は2号地に植えていたカボチャは、たくさんの実りがありそろそろ収

穫!というときに、獣害で全滅という苦い経験があります。今年度は5号地に植えていますが、現在は周囲にフェンスなどが無く1号地~3号地と比べて獣害に合いやすい状況であるため、対策を考え実施していかねばなりません。皆様のお知恵を宜しくお願いいたします。

本日実施した網目ネットを張り巡らせる作業は、高低差や 水路という障害があり怪我が発生しやすい状況でしたが、 安全に気をつけながら作業をしてくださいましたので、無 事故で終えることができました。有難うございました。



網目ネットを周囲に張り巡らせています。

里山農園での栽培農業では必要経費への協力金を得るためにより良い作物の収穫を期待したいところです。獣害被害防止のために鉄網補強の網目ネット長さ50mもの2本を張り付けましたが1号地は完成、2号地には50m分が不十分で5号地については検討中で手持ちのネット(50m:1本を保有)では獣害防御は未完成の見通しです。鉄網と鉄筋杭も補充する必要性が生じます。夏野菜植付けが出来上がり、間もなく収穫期が目前に来ていますので今年は被害を覚悟のうえでの取組にならざるを得ないと予想するべきでしょうか。今年は具体的にどこまでどのように実施するかの見通しの必要性が感じられます。

#### ●6月4日(水)の事務局会議に京田辺市文化協会の保日部聡実 さんが出席されて「ふるさと京田辺を学ぶ講座」について説明 にお越しいただきました。

今回の講演会は『京田辺周辺の自然を学ぼう&自然素材で 工作を作ろう」として計画されました。里山の会副理事長 の森島保さんがこの提案を受けとめて講師役を引き受けて こられました。さっそく講演の筋書きとなるのですが、

"自然を学ぶ"という大変大きく広いもので、これまでの筋書きとは違ってすごく悩みました。はじめに「自然は子供を育てる」として京田辺市の一番は何かに続いて、地形は天井川として内排水と町つくり、養蚕と地域産業、お茶と蚕と古事記、茶色から緑茶、地域の産業。農業では大根と米、続いて木津川では山城大水害とアユ、イタセンパラと中聖牛。植物では普賢寺は京田辺の宝物、木津川に残し

#### ふるさと京田辺を学ぶ講座 2025

### 「京田辺周辺の自然を学ぼう&自然の素材で工作を作ろう」開催要項

主に小学生の子供を対象とし、山城地域の自然について講義を通じて学ぶことで地域の生き物、植生などに興味関心を寄せ、ふるさと京田辺の魅力を知る事を目的とする。

2 主催 一般社団法人京田辺市文化協会

3 後援 京田辺市・京田辺市教育委員会 (予定)

4 開催日時・内容・場所

日時 令和7年7月26日(土)10:00~11:30 内容 NPO法人やましろ里山の会から講師を招き、山城地域の 自然について錯姦を受け、保護活動や実情を知ることを通じて自分 たちの住む山城地域についての理解を深める。(30分)また夕近な 自然の材料を使った工作で自然に触れる機会を削出する。(30分) 質疑応答(30分)

場所 京田辺市立中央公民館 第1研修室

5 講師 やましろ里山の会

6 会費 300円(工作材料費)

7 対象者 主に小学生以上の市内在住、通学、通勤の方

7月1日より 申し込みフォーム、または TEL にて受付

9 締切日:7月20日(金)正午

10 受付人数 20名(多数の場合増枠)

11 問い合わせ先 一般社団法人京田辺市文化協会 住所 〒610-0331 京田辺市田辺丸山 214 乗地 電話 29-9118 FAX 29-9119 メール kyotanabe-bunka@outlook.jp ホームページ https://kyotanabe-bunka.jp/



たい植物。動物ではイノシシとアライグマや国蝶オオムラサキ、やまどりとタマムシ、絶滅寸前種のヤマトサンショウウオやレンリソウなどの木津川の8種の植物、そして最後に京田辺小学校の校歌紹介と描かれている自然を知るとのプランを着想しました。会員の皆様には補充すべき点があればご教授をお願いいたします。

#### ●京田辺市中央図書館に会誌を寄贈

先日、これまで中央図書館に寄贈してきた会誌が17号近くからされていない事が判明して不足分を届けましたが、58号の内4冊ほどが発見できませんでした。これを知った副理事長の森島保さんが自宅で揃えていたものの中から、足りなかった4冊を抜き出して、提供していただいたので中央図書館に寄贈しました。これで里山の会の会誌「里山の自然」58巻が勢ぞろいできることになりました。貴重なセットから提供されたことに心からお礼申し上げます。これで市民の皆さんに、会活動への理解を正確に深めていただくことが可能になりました。

#### ●木津川希少種植生調査管理業務の第1回打合せ会議が5月29日(木)10:00から開かれました。

里山の会からは播川、森島、太田が参加し、国交省側から は松本環境課長 正樹水質調査係長 重定毛馬出張所係長 西田木津川出張所所長に出席していただきました。

出席者の自己紹介や草刈り業者 2 社の作業範囲の確認と里山の会の次回作業打合せ会日程調整を行いました。また里山の会から希少生物の発見や保全について話題の他、前年同様報告書作成について重定係長の協力をお願いしておきました。



### ●総会決定の 2025 年度主なイベント開催計画の 6 月 7 日 (土) のイタセンパラ調査及び昆虫観察会は諸都合のために中止といたしましたので、ご了解ください。

期待されている皆様には6月14日(土)集合16:00里山 農園で行います「ホタルの集いと里山音楽会」におい て里山農園付近で昆虫観察会も準備していますのでよ ろしくお願いします。また翌15日には、桜谷先生と一 緒にミドリシジミの調査が計画されていますので、興 味のある方は同行していただいて結構です。参加され る方はやましろ里山の会にご連絡下さい。日程などが 決定されると週刊ニュースでお知らせいたします。よ ろしくお願いいたします。お問い合わせは事務所まで (0774-64-4183)



ミドリシジミ蝶の発見を期待



#### ●京都水族館からヤマトサンショウウオの幼生 95 匹が放されました。

3月24日に卵嚢を受け取っていただいて水族館で孵化させて大多数がエラがなくなっていましたので山に帰っていくでしょう。さらに厳しい環境を乗り越えて立派な成体になることを期待しています。放流予定の中にも成長が遅れてえら呼吸する3匹はワンドの池に放流いたしました。これも成長して間もなく山に帰っていくことでしょう。里山の会としてこうした野生復帰させた折には、できる限り調査観察を力の限り継続して見守っていく責任が伴うものとして、さらに力を注がなければならない



と思います。このワンドには夜間撮影が可能なカメラを設置して撮影を行ってきましたので、再度その装置で見守りたいと思います。京田辺市では里山の会の手の届くところでの観察ですので、また里山の会が自力で保全観察を行うと決意いたしましたので会員の皆様のご協力を切にお願いいたします。お手伝いが可能な皆様ひとりでも多くご参加くださることをお願いいたします。ご連絡をください。



(やましろ里山の会事務所 Tm:0774-64-4183 E-mail:fddbw257@yahoo.co.jp)

### ●6月8日琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の定期総会が「さくらであい館」で開催され20人の出席でした。

2024年度事業報告では年間33回の取組が行われ世話役の理事会が毎月回されて総参加者450人だったと報告されました。また理事などの出身団体の会員総数は830人で多くの人びとに影響を及ぼしていることも明らかにされました。新年度2025年度の活動計画ではリレー見学会は大阪と滋賀県で3回の計画で、「さくらであい館」での情報交換会は第2日





曜日の開催、他団体との連携は3回の開催などが決定されました。滋賀・大阪・奈良・京都と上流下流の市民が淀川の水の恩恵を享受し、それぞれの活動を理解し連携を深められる場としての役割を再認識できました。また淀川河川事務所から大阪万博成功へ水路の整備工事が80%したとして講演が行われ、万一の災害時での対応策として淀川整備状況報告がされました。こうした広範囲に及ぶ数々の取組の要の役割を果たしていただいている丸井昌子さまの奮闘に対して出席者全員が感謝のお礼に強く大きな拍手を送りました。総会では京都産業大学教授鈴木康久氏から「八幡の水探訪」が紹介されました。ここには昔から交通の要衝とされた八幡の文化が根付いてきたところを水にかかわって詳しく解説されています。また交流会からはリレー見学会の「近畿における干拓地と湧水池」の冊子が配布され巨椋池の変遷と今日的な課題が提起されています。里山の会としては一度は読破しておいてほしい冊子です。事務所に備えています。希望者には進呈も可能です。

#### ●京田辺市中央図書館から資料図書として「里山の自然」41 冊の寄贈へのお礼が届きました。

これで NPO やましろ里山の会の 29 年間の活動が市民の皆様にご理解をいただくことが可能な体制が完成したことになりました。

# 農園部会だより

#### ●6月6日(土)害獣予防対策をしました。

参加者:伊藤、太田、大村、小川、金田、播川、吉村 1号地・2号地には多くの夏野菜を植えていて、今 のところ気温や太陽、雨などの条件に恵まれている こと、それ以上に農園活動に参加してくださってい る方々の手入れや思いといった肥料が効いて、元気 に育ってくれています。それだけに、アライグマや イノシシなどの獣害は避けたいので、5月31日に続 いて網目ネットを張り巡らせる作業を中心に実施し



ました。網目ネットは金網沿いに設置していますが、水路があり 急に 急に かられる 急に う配な斜面上で、踏ん張りながらの作業は見た目以上に疲れました。ただ、怪我も無く終えることができました。それ以上に 1 号地・2 号地を囲むことができたことに気持ち良い達成感を感じることができました。 農園部会として、5・6・7 号地にも網目ネットを広げることを決めました。 準備ができ次第作業に掛かることになります。皆様の力を貸してください。

その他の作業としては、16 号地では七草の手入れや草刈りを丁寧にしてくださいました。また、ハンマーモアとトラクターの調子が悪いということで、原因を探ってくださいました。今週の土曜日(14 日)に開催予定している「蛍の夕べと里山音楽会」のために9 号地に上がる斜面の草刈りも参加者のことを思いながら実施してくださいました。



ところで、「ナヨクサフジ」という植物をご存知でしょうか?ヨーロッパ原産で紫色の小さい花を咲かせる外来種です。飼料として日本に輸入されたものが各地に広がってしまったようで、繁殖力は強いとされています。この植物が里山農園でも至る所で目にすることができるような状況になっています。やましろ里山の会としては、繁茂させまい!と出来る限りの対応をしていきたいと考えています。発見されましたら他の在来植物のために抜いてくださるようご協力お願いいたします。

#### ●玉ねぎ完売 5月24日に掘り起こしを9人の皆さんで掘り起こしをいたしました。

300 個が協力金をもってすべて完売できました。一部を京田辺市社会福祉協議会に小手調べとしてご寄付させていただきました。掘り起こして10日程度ですべて処理が出来ましたので、次年度には作付面積を1割ほど拡張して350本程度の植付け面積を計画してみることも考えなければと思います。うれしい出来事でした。

### ●蛍の夕べと里山音楽会 6月14日(土) 16:00(集合)~20:30(流れ解散) 参加募集50人 募集人数を超えました。

今年の参加募集は早々に定員を超えてしまいました。昨年は 40 人の参加でしたがそれを超えての申込になりました。

一昨年と昨年連続して木下さんをリーダーのキジムーバンドが3年連続の出演となりましたので、出演者の皆さんがより楽しい催しの盛り上げの工夫をこらそうと創作のための準備を取り組んでいただいています。小さいお子さんもお父さんもお母さんも三線のリズムに乗って楽しくひと時を愉快に過ごしましょう。そして人工の手が加わっていない自然の中で飛翔するホタルに出会えればうれしいですね。ホタルは成虫になってわずか5日しか生命が続きませんので、その間に交尾相手を見つけて来年光り輝いてくれるために発光しているのです。人間は自動車のウインカーでホタルをおびき寄せようとする方が多数おられます。悪ふざけは避けねばなりませんね。注意をしましょう。昨年の気候は大変暑かったですね。今年はどのように影響が表れるでしょうか。滋賀県の認定 NPO の琵琶湖豊穣の郷では平均より少し早くなったようだということです。京田辺では14日頃が見ごろだといわれています。

#### ●ホテルオークラで竹文化振興協会の会議で小林慧人さんがコーディネーターを務めました。6月12日

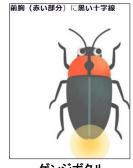
「竹の情報発表会」が開かれ岩松文代(北九州市立大学教授)氏から小倉では竹文化が生かされ小 倉祇園祭には竹が多く取り込まれている。また紫川ではお茶会が取り組まれ竹が生かされていま す。大学では夜の授業を行い実践行動がとりいれている。また三木崇司(三木竹材店代表・京都 市南区)氏は、今の時代は物を買う時代となっている、物は作るものと強調されたことが心に残 りました。続いて新谷由貴代(京都伝統工芸大学校校長)さんからは徒弟制度では後継者を育成 できなかったのでこの学校が創設されました。学校では新人教員の研修を受け持ってきたが、こ こでの箸つくりなどの体験が体に残っていると現地現場での行動の大切さが語られました。最後 に京都いけばな協会会長の松本司氏から竹を使った華道の各種工夫が映像で発表されました。

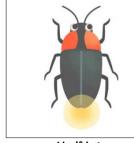
#### ●大変残念でした 蛍のタベと里山音楽会 6月14日が梅雨の雨で中止となりました。

梅雨の季節の大きなイベントとして取り組んできました。これまでは太鼓やハーモニカ、大正 琴、尺八の演奏を楽しんできましたが今回のように前日は良い天気だったのに翌日は激しく降り 続く天気になるとは予想もできない事でした。参加募集は50人でしたが5日もしないうちに50 人を突破してしまいました。水曜日の事務局会議ではスマートフォンを眺めて雨天予想になって いる相当激しい雲行きだから、どの時間で実行判断するのかと喧々諤々の相談になりました。特 に今回は昆虫観察会に桜谷先生が連泊をして森の宝石といわれているミドリシジミの観察を行う と予定して観察地の同志社大学用地のハンノキの群生地での観察使用の許可を取ってきました。 そのほかもう一つの群生地も観察候補地として下見を進めてくるなどを行って昆虫部会の皆さん がしっかり準備をされていました。また16時からのプログラムでも例年以上に趣向を凝らしてい ただきました。特に3年連続の出演を快諾頂いたキジムーバンドの皆さんはどのようにして楽し い時間にしてゆこうかと苦心を重ねていただきました。里山農園クラブの有志数人はイノシシや アライグマなどからの獣害防止のためにネット張り作業の下準備として周囲の通路の草刈りをし ていただき夜の通行の安全対策を整えるなどの準備を行いました。これまでにない充実した準備 ができました。当日を迎えるところまで準備ができましたが雨天となって中止せざるを得ません

でした。多くの皆さんから参加希望をいただきながら本当 に残念なことになってしまいました。

折角現地に来たのだから桜谷先生は雨が土砂降りの中、近 隣のホタルが生息していそうな川沿いを出かけられまし た。同行された方が発見されたのがゲンジボタルでした。 普賢寺地域では多くの所で少し小さいへいけ蛍が殆どでし たが、大きいゲンジホタルが見つかりました。強い光を発 光するのと大型がゲンジホタルです。





ゲンジボタル

ヘイケボタル

#### ●ハンノキの周囲で飛翔する森の宝石と呼ばれる「ミドリシジミ」の撮影に成功

幾度もの「ホタルの夕べと里山音楽会」で挑戦してき ましたが写真撮影が出来ずにいました。昨日は激しい 雨続きだったので今日の晴れ間に植物捜しに出会った のではないでしょか。夕方に飛翔するといわれていま すが13時ごろに撮影できました。





(撮影者=中沢洋斗さん(中学生)が撮影に成功されました。)

#### ●ササユリ開花確認 6月14日 (昨年は6月2日)

昨年の異常な高温が続きましたので今年の確認は大変遅れました。それでも 2 輪開花してくれました。うれしいことです。甲虫については数日前にトラップを仕掛けていただきましたら成果が現れました。トラップにはノコギリクワガタが7匹も入っておりました。昨年はビックリするほど沢山捕獲(週刊ニュース 1041 号に写真掲載)しましたのに、今年は早くも動き出しているのですね。



## 農園部会だより

●6月14日(土)ハンマーモアの修理の対応をしてくださいました。 参加者:太田、森島

14日(土)は早朝から降り続いていた雨のために、農園作業はお休みとなりました。 10日(火)も雨のために作業は中止としましたので、野菜が成長してくれているのか?獣害にはあっていないか??と心配事は増えるばかりでした。しかし、12日 (木)は伊藤さんがトマトの整枝と脇芽搔き、ナスの整枝と追肥をしてくださり、その他の野菜についても成長具合を農園部会メンバーに報告してくれましたので、少し気

持ちを落ち着けることができました。伊藤さん、ありがとうございました。また、7日(土)にハンマーモアがいつもと違う振動や異音がしているのは「草刈り部分」と原因を突き止めてくれていたので、太田さんが交換部品を取り寄せて対応をしてくださり、14日に森島さんと試運転をして元気な状態に戻してくれました。太田さん、ありがとうございました。今回は2名のお名前を







刈り取り部分の対応作業(14日)

記載させていただきましたが、火曜 日・土曜日の活動日以外に農園のこと を気に掛けて行ってくださっている 方々がいるとも聞いています。皆さま のおかげで農園環境が保たれていま す。本当にありがとうございます。

●里山農園では4月に植えたニンニク40株を収穫しました。黒ニンニクを作りたいので、不要な炊飯器がございましたら提供いただけないでしょうか。2台ほど用意できればと考えております。連絡いただければ受取りに伺いますのでよろしくお願いいたします。

#### ●光田重幸先生がカラグワを普賢寺川で再発見をされました。

里山の会が発足して間もないころ、故村田源先生が木津川で養蚕の飼料として使用されていたカラグワを発見されたと発表されました。続いて普賢寺でも見つけられたとお話を伺いました。その当時の標本写真が見つからなくなったと光田重幸先生にお話をすると早速普賢寺川沿いで「カラグワ」を採取していただきました。私は古事記での奴理能美(ヌリノミ)の記述や村田先生の養蚕に用いられたと推察するカラグワの発見、そして多々羅という地名などから山城





#### ■皇后さまが繭の収穫

皇后雅子さまは13日、皇居の紅葉山御養蚕所で、蚕の繭を収穫する「初繭掻(はつまゆか)き」に臨まれた一写真・宮内庁提供。純国産種の蚕、小石丸が作った繭を「蔟(まぶし)」と呼ばれる器具から丁寧に摘み取った。白い繭を手に雅子さまは「今年も良い繭ができましたね」と担当職員に話したという。皇室の養蚕は明治以降、歴代皇后が受け継いでいる。

のロマンとして高松塚古墳の壁画に描かれている美人画の人物が付けている衣服の布は京田辺市 多々羅で生産されたものではないかと考えられています。現在の皇室の皇后様が皇居で養蚕をさ れているとお聞きしました。もし発見された古代のカラグワを使って繭から絹糸を造り出して布 を織り揚げられる事が出来れば長年のロマンが実現できるかもしれません。できあがれば史実に 基づいたものができるのではないでしょうか。

古事記には、仁徳天皇の磐之媛命(イワノヒメノミコト)が多々羅の奴理能美(ヌリノミ)を訪れ、「一度は這う虫になり、一度は繭になり、一度は飛ぶ鳥になり、三色に変化する不思議な虫がいます。皇后は、この虫を御覧になりにお越しになったのに相違ありません。決して他意あってのことではありません」と申し述べた。このように奏上すると、天皇は、「それでは、私も不思議だと思うから、見に行こうと思う」と言って、皇居から川をさかのぼって奴理能美の家に入った。そのとき、奴理能美は自分が飼っている三色に変わる虫を、皇后に献上していた。」とういう話があります。

#### ●この植物の標本は故 村田源先生(京大)が木津川の堤で 発見されたカラグワで大きく新聞で報道されました。

それを光田重幸先生が普賢寺川で6月6日に見つけて提供いただきました。カラグワは江戸時代にすべて伐採されたもので葉は薄く現在の養蚕業では葉が厚くなっているようです。広い地域を捜していただきましてありがとうございました。古事記の記述が証明される大切な資料です。





右が当時のカラグワ(発見村田源先生) 写真は光田重幸先生再確認

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1091 号 2025-6-26

#### ●中澤君や吉村君が里山農園での昆虫観察を6月22日(日)の昼前から出かけました。

当日も33度を超えようかという暑さです。若者の元気さは暑さをものともしないで自転車で普賢寺へ駆け上がってゆきました。この日の観察ではチョウ類10種類を目視確認できたと吉村君から報告がありました。また10号地のクヌギの胸高さにはクワガタが数匹確認でき、写真撮影が出来たこと、そしてナガサキアゲハと思われる蝶が今年初めて確認したと報告がありました。暑い暑い中、丁寧に確認していただきました。本当にご苦労様でした。ナガサキアゲハは南の地域の蝶々とされていましたが、近年温暖化の影響で北上が進み、京田辺でも見かけられるようになり、里山の会の里山農園では昨年に続いて2年連続して発見しています。着実に温暖化が進んでいる証拠ではないでしょうか。

#### **▲** 熱中症に気を付けましょう。

激しい気温の変化と梅雨のため仕方がないのでしょうが、高湿度の連続などで予想され熱中症対策が 強調されて、聞き流すことが普通になって緊張感が希薄に思えます。この気候のもとでの高齢者の単 独行動は極力避けなければなりません。農機具を使うのだから体力の消耗は避けられているのだと案 外簡単にうけとめているのではないでしょうか。万一の事故が起きたときにこの暑い時期には田や畑 には人が出かけておられませんので、助けてくれる人は無いのです。十分注意してくださいね。少な くとも携帯電話は手の届くとこで体から離さないようにしましょう。

里山の会はこの時期、春先に花を咲かせ種を作り上げた希少植物の刈取り・除草作業の時期を迎えています。木津川堤防の希少植物(絶滅寸前種)10カ所が作業予定と控えています。実行していただく皆さんは体力に自信のある方ばかりですが、できるだけ太陽が上がり切らない早朝や、夕方など涼しい時間帯を考えて取り組んでください。また作業時間帯も長時間での連続にならないよう配慮してお願いいたします。

#### ●夏の昆虫観察会の実施について

昨年のこの時期(7月5日)にはノコギリクワガタが里山農園の樹木から沢山採取出来ましした。

いずれも完全な自然のなかで誕生したものです。一方長年調査観察してきた国蝶オオムラサキの成虫が2020年以後確認できていません。そしてその年以来冬の幼虫も未発見が2021年以来続きました。それでこの近辺にはオオムラサキがいなくなったのでないかと危惧をしてきましたら、2025年3月13日に中学生の吉村君が幼虫2匹の発見をしましたので、間違いなく生息してくれていると確信いたしました。少なくとも昨年は成虫が卵を産んでくれていたのです。今回の昆虫観察会で、成虫の確認ができれば幸いと思います。

7月5日(土)集合10:00 里山農園付近 12:00頃まで 午後は自由時間 参加申し込み20人 小学生は保護者同 伴 帽子 水筒 長袖 長ズボン 筆記具 参加費無料 (氏名住所年齢 電話メール番号)

## 夏の昆虫観察会フ月5日(土)

里山県園村近ではできるだけ自然東境のままの状態を保っていますから、様々な生き物が電影でき、カヤネズミ バッタ カエ ト トカケなども保わたでうこかいています。 学品はノコギリクリアダタを中心にたくさんた思しています。 18のキャラルを考えれているナメラムサキのおり着部を、単いのから 200年には 連続レイオミナル・チャルトカル・ 音様 撃に

国のウェウと指定されているオエムラサキウ生育機を使、生日の方式の一切と離板してさました。そのような下、成株、株に とまったオオムラサキの幼虫の家を傾対できる最新権(高さ 3m)を登改し複変をしてきました。8年前には教育権として4m× 10mの無理を設定し、冬のオエムラサを結条効束器がご指用しています。

講査を初めて20年間が混査しましたが、オオムラテキの成体(機関)を解認できたのは4回でした。 今年中学生がオオムラサキの幼虫を呈血機関で発見しましたから、この生山周辺で成立が機関していることは事実でしょう。こ の底、国表オオムラテキが確認できることを崇拝しつつ、思山に生きる野生生物の報准開発会を開催いたします。

集合 9時40分 普賢寺小学校 または 現地、里山農園教育棟

場所 里山農園 里山農園 京田辺市水取菰谷 普賢寺小学校から南 800m 指導 粋谷ほと 元派憲大学教授

指導スタッフ 野村治(里山の会理事 昆虫担当) 金田徽(里山の会昆虫世話係)

指導スタッフ 野村治(里山の会理事 昆虫担当) 金田徽(里山の会員 持ち物 網 ケース お茶 長靴 帽子 水1L 参加者 無料

参加申し込み 事前の申し込み 住所 氏名 年齢学年 電話番号 = 子どものみの参加はできません 雨天の場合 響能になれば中止 少新関係の方向 連発先問い合わせ 07740-64-4133

プログラム 10:00 開会挨拶 諸注意 自己紹介

10:10 挨拶

10:20 観察開始 農園付近散策

11:40 まとめ・交流 12:00 感想文を書いて解散



 主催
 特定非営利活動法人
 NPO
 やましろ里山の会

 住所
 京田辺市田辺深田 15
 電話
 0774-64-4183 (f 兼)

親子事業として京都交響プロジエクト交付金に申請

#### ●夜の生き物調べについて

昨年は13家族37人の参加がありました。そして確認した45種類の昆虫を桜谷先生に同定していただきました。また中学生たちが4名も来られて大変盛り上がりました。昆虫たちが集中して集まってくる時間帯を過ぎる頃に終了したいと思います。(解散予定8時30分頃)

7月26日(土) 集合は16:00~20:30頃 里山農園・教育棟 駐車場あり 参加申込 50人 小学生は保護者同伴 帽子 水筒 長袖 長ズボン 筆記具 懐中電灯 参加費無料(氏名 住所 年齢 電話 メール番号)

#### ●文化協会から講演の依頼で「京田辺市の自然について」お話します。 7月26日(土)

夏休みの工作のお手伝いとして「松かさツリーつくり」と「竹サインペン」を行います。多数の皆さんのご来場をお待ちしています。7月号の市政便りで参加案内が掲載される予定です。会場は京田辺市中央公民館で行われます。

## 農園部会だより

#### ●6月21日(土)にジャガイモの収穫で草刈りや追肥・芽掻きなどを実施しました。

4月に入って朝晩は冷え込みが続き、雨の無い日が続いたので、心配で仕方がありませんでした。しかし獣害にも遭わずに収穫できた男爵いも約150kg、メークイン約50kgになりました!大きさもこぶしぐらいの立派な物もありました。また、キュウリ・ピーマン・万願寺も順調に育っていて収穫できました。収穫した



農産物の一部は、会員が協力金をもって引き取ってくれました。

携わってくれた皆さま、携わることはできなかったけど温かく応援してくれた皆さま、本当にありがとうございます。(3月20日種芋の植付けたのは:男爵132株、メークイン24株でした。)6月24日(火)の定期作業日は、小雨で蒸し暑い中、熱中症に気をつけて作業をしました。里山農園では農薬を使わないこともあり草が伸び放題の状態なので、少しでもきれいで美しい里山農園をめざして草刈りを行いました。また、キュウリが大きく育っていましたので収穫して、翌日朝一番にこども食堂用にと社会福祉協議会に、ジャガイモとキュウリを届けました。

#### ●夏野菜の収穫期に向けたご協力のお願い



5月10日に植え付けた夏野菜ですが、先週よりキュウリの収穫が始まり、すでに実も大きくなっております。いよいよ本格的な収穫シーズンに突入し、ゆっくり構えてはいられない状況となってまいりました。今後、大量収穫が予想されるため、その対応策を急ぎ検討しなければなりません。一部の方に負担が集中しないよう、皆さまのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

また、約一ヶ月前に皆さまでご相談いただいた協力金販売用の明示、のぼりについては、ようやく上西産業さんに発注することができました。収穫の最盛期には完成している見込みですので、どうぞご期待ください。さらに重要なのが、陳列台の設置場所の確保です。日陰で直射日光の当たらないスペースを探し、野菜の鮮度保持や作業の快適さを確保する必要があります。こちらにつきましても、お力添えをいただけますと大変助かります。いずれも緊急に対応が必要な課題となっておりますので、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### ●1953 年 8 月 14 日の山城大水害 翌日の写真を提供

山城大水害の翌日の写真を井手町の「料亭八百忠」さんの女将さんに見せていただき、複写させていただきました。忘れてはいけない水害ですのでここに載せておきます。(**建物は現存しているらしい**)





## 農園部会だより

#### ●7月1日(火)夏野菜のお世話と草刈りを行いました。

夏野菜を植えている周囲に除草剤を散布すると 作業が楽になりますが、夏野菜の生育にも影響 が出そうだし、健康上もどうなのか分からないた め、やましろ里山の会では使用していません。そ のため、春先から中秋ぐらいまでは草の成長と草 刈の競争で、暑さもあり非常に疲れます。そこ

で、かぼちゃ・スイカ・マクワ・万願寺の周囲に麻ドングロス (麻袋) を敷き詰めました。この麻袋は、購入したもので



スイカやかぼちゃも大きくなってきました。



はなく、廃棄に困っているお店より譲り受けたもので、しっかりとした素材なので防草シートとして里山農園では大変に重宝しています。ごみの減量にも繋がり環境を守ることにも繋がります。また、近畿では昨年より21日早い6月27日に梅雨明けが発表されま



麻ドングロスの敷き詰め作業



ファン付きベスト

した。農作物にとっては恵みの雨について心配しないといけませんが、農作業する人たちにとっては熱中症にも気をつけないといけません!これで大丈夫という訳ではありませんが、ファン付きベストで対策もしています。

#### ●オオムラサキの成虫を確認したとの報告がありました。 6月29日(日)17時30分頃

報告者は中学生の中沢君です。中沢君と吉村君の2人は21日の日曜日に京都市左京区にある大原小中学校でのオオムラサキ放蝶会に参加し体験してきたので、里山農園のエノキの上空での飛翔状況から、オオムラサキと判断してまず間違いないでしょう。里山の会は結成(1996年)以来調査観察を継続してきましたが、成虫の確認は4回程度しか記録に無い大変難しいことです。特に

ここ2年は冬の幼虫観察でも観察できていなかったのです。こうした折に吉村君が3月13日に幼虫を発見して、そして6月29日に中沢君がオオムラサキの成虫の飛翔を確認されたことは大きな

成果です。里山農園には生息が出来なくなって しまったのだろうかと危惧していましたが、2 人の熱心な観察調査活動で幼虫や成虫の大発見 がされて、オオムラサキの生育地が継続出来て いることが証明されました。中学生2人の行動 は非常に立派な成果です。

#### ●夏の昆虫観察会 7月5日(土)

オオムラサキの幼虫や成虫の確認が続いているなかでの今年の昆虫観察会は大変期待が膨らむ取組になっているのではないでしょうか。当日の集合は10時に里山農園(駐車場あり)で開始します。この日の指導は前近畿大学教授の桜谷保之先生が名古屋からのお越しをお願いしています。スタッフは里山の会昆虫部会が担当させていただきます。ご参加の皆さんは熱中症対策を十分にしてご参加ください。午後は自由参加ですが、生駒山へオオムラサキの飛翔を見に行く予定ですので、関心のある方は参加をお願いいたします。

### 夏の昆虫観察会

#### 7月5日(土)

里山農園付近ではできるだけ自然環境のままの状態を保っていますから、様々な生き物が概察でき、カヤネズミ バッタ カエル トカゲなども草むらでうごめいています。甲虫はノコギリクワガタを中心にたくさん生息しています。

国のチョウと指定されているオオムラサキの生育調査を、里山の会は 20 年以上継続してきました。そのような中、直接、業にとまったオオムラサキの幼虫の姿を観察できる観察棟(高さ 3m)を建設し蕎麦をしてきました。 8 年前には教育棟として  $4m \times 10m$  の屋根を建設し、冬のオオムラサキ越冬幼虫調査で活用しています。

調査を初めて20年間が経過しましたが、オオムラサキの成体(飛翔)を確認できたのは4回でした。

今年中学生がオオムラサキの幼虫を里山農園で発見しましたから、この里山周辺で成虫が飛翔していることは事実でしょう。この夏、国機オオムラサキが確認できることを解待しつつ、里山に生きる野生生物の採集襲祭会を開催いたします

集合 9時40分 善賢寺小学校 または 現地、里山農園教育棟

場所 里山農園 里山農園 京田辺市水取菰谷 普賢寺小学校から南 800m

指導 桜谷保之 元近畿大学教授

指導スタッフ 野村治(里山の会理事 昆虫担当) 金田徽(里山の会昆虫世話係)

持ち物 網 ケース お茶 長靴 帽子 水1L

参加書 無料

参加申し込み 事前の申し込み 住所 氏名 年齢学年 電話番号 ➡ 子どものみの参加はできません

雨天の場合 警報になれば中止 少雨開催の方向 連絡先問い合わせ 07740-64-4183

プログラム 10:00 開会挨拶 諸注意 自己紹介

10:10 挨拶

10:20 観察開始 農園付近散策

11:40 まとめ・交流

12:00 感想文を書いて解散

または fddbw257@yahoo.co. j



 主催
 特定非営利活動法人
 NPO
 やましろ里山の会

 住所
 京田辺市田辺深田 15
 電話
 0774-64-4183 (f 兼)

親子事業として京都交響プロジエクト交付金に申請

#### ●「田辺の自然を学ぶ」が開かれます。 7月26日(土)10時から

講師は里山の会がつとめます。多数の皆さんのご参加をお願いします、希少植物や国蝶オオムラサキ・カスミサンショウウオやお茶の色は緑なのか、古事記と桑のお話を準備しています。また松かさツリー作りや竹鉛筆つくりの楽しくて美しく誰でも短時間で作る事が出来る工作の時間もあります。参加は京田辺市文化協会に申し込んでください。工作材料代が有料。

#### ●夜の生き物調べ 7月26日(土) 16:00~20:00まで 集合:里山農園 講師:桜谷保之先生

生きものを誘いシートと夜間照明を行ってあつまってくる生き物を調べます。これまでは4万匹や2万匹の生き物が集まってきました。今年はどういったものが集まってくるか楽しみです。 里山農園付近ではノコギリクワガタなどが沢山トラップに集まってきています。カブトムシは今年は少ないようです。夜の行動ですから小学生は保護者同伴でご参加ください。長ズボン、帽子、手ぬぐい、水筒は必要です。夕食の準備も必要かもしれませんね。参加は里山の会 fddbw257@yahoo.co.jp まで氏名・年齢・住所・電話番号・保護者名を記入してください。参加費は無料です。

#### ●竹エンピツ 10 組 (2000 円) の注文を頂き 納品 7 月 1 日

大植さんの知人から注文があり、播川さんが納品されました。使用後はスモールイーゼルとして も使える製品です。木下さんの知恵の力作です。皆さんもぜひご利用下さい。

#### ●昆虫観察会多くのご参加でした。 7月5日(土)

オオムラサキの成虫発見のための2つの取り組み

#### ① 10:00 里山農園付近での昆虫観察会

開会挨拶で桜谷先生から 国蝶オオムラサキの切手が紹介されました

確認できた生き物は 30種類

クワガタムシ。タマムシ。カナブン。ウスバカゲロウ(アリジゴク幼虫)。コクワガタ。

ノコギリクワガタ オスメス。ミヤマクワガタ オスメス。ハグロトンボ。カキバ(幼虫 ねむの木 幹)。オオカマキリ(幼虫)。コカマキリ(幼虫)。シオカラトンボ。チョウトンボ。オオシオカラトンボ。 ハラビロトンボ。ツマグロヒョウモン。コミスジ。ジャノメ。ヤマトシジミ。アオスジアゲハ。 コオニヤンマ。ゴマダラチョウ。イチモンジセセリ。スズメバチ。アメリカザリガニ

- ◎ オオムラサキの成虫の飛翔は未確認でした ◎カブトムシの成虫も出会えませんでした
- ◎ オオムラサキは中学生が 6月29日17:30頃に観察棟上空での飛翔を確認しています

#### ②7 月 5 日 奈良県の生駒山山頂付近で野生のオオムラサキの調査 14:00~16:30

参加者 桜谷保之さん (元近畿大学教授 昆虫学者) 他10名 内子ども5名 (中学生2名)

ひっきりなしに飛び交うオオムラサキが確認できました。飛翔の様子を言語化しま すと、ひらひら、ヒューヒュー、急旋回、鳥や別のチョウが飛んできたら素早く追 うなど、縄張り争い・テリトリー争いで激しく飛びかっています。そして葉や電柱 などにとまって休憩 羽をとじたり 開いたり触覚がピーンと伸びています。

下からもオオムラサキ独特の模様・色(紫色) 羽形が確認できました。

動画撮影 写真撮影もできました2時間 調査・観察は休みなしちょっと休憩した らまたどこかで オオムラサキがヒューーーと滑空、双眼鏡 カメラ撮影 忙しく もありワクワク感満載の2時間でした。参加者も興奮気味で野生の状態のオオムラ サキの飛翔に満喫されたようでした。汗だくだくびしょ濡れ、しかしとっても充 実した時間でした。



樹木の上を飛ぶオオムラサキ

#### 中沢君や吉村君の観察記録報告

桜谷保之先生 中沢洋斗 吉村開			
アゲハ科			
キアゲハ	ナミアゲハ	クロアゲハ	ジャコウアゲハ
シロチョウ科			
モンシロチョウ	モンキチョウ	キタキチョウ	
シジミチョウ科			
ツバメシジミ	ベニシジミ		
タテハチョウ科			
ゴマダラチョウ	キタテハ	ツマグロヒョウモン	ヒメウラナミジャノメ
ジャノメチョウ			
セセリチョウ科			
チャバネセセリ	ダイミョウセセリ		
◉特徴			
エノキの大木100	本以上存在		
<ul><li>生育植物</li></ul>			
アカツメクサ	ヒメジョオン	ウマノスズクサ	



農園にきれいに咲いた ハンゲショウ

#### ●「ふるさと京田辺を学ぶ講座」が開催されます。7月26日 (土)10:00 から

京田辺市文化協会が夏休みの宿題や工作に役立つとした催しを主催されます。参加申し込みは文化協会に申し込んでください。このような取組みに里山の会が招かれたのは初めてで、活動を通じてわかる範囲での報告なら可能として大役をお引き受けしました。また中学3年生の中沢君も里山農園付近での昆虫観察についての報告を準備してくれていますのでご期待ください。

「自然」とテーマが大きく広いものなので、どのように 説明するのか大変悩みました。京田辺市(旧田辺五ヶ村) は稲作中心として茶産業、一部養蚕業、そして金銀糸工場 に移り、交通条件が優れているので同志社大学などの新設 と共に人口が増えて成長が維持できている貴重な地域でし よう。そして農地を残しつつ南西部では豊かな自然をもっ ているままだと思われます。こうした点を踏まえて「自然



を大切にする仲間の輪を大きくする」として活動を展開して学び合ってきたところをお話できればと思います。不十分なところが随分あろうかと思いますが、そこのところはこれからの活動を通じて共に深め合えればと思っています。

#### ●テントウムシ調べ 7月26日(土)

生物多様性センターから案内が来ましたのでお知らせいたします。里山の会でいつもお世話になっている桜谷保之先生はテントウムシの研究家です。府立植物園で探してみましょう。13:30~14:30 までの60分間の短時間の取り組みですが熱中症対策はしっかりお願いいたします。参加費は無料ですが、植物園への入園料が必要です。先生はこの後16時から京田辺市普賢寺での「夜の生き物調べ」に講師としてお願いをしています。こちらの方にも是非ご参加ください。(終了は20時を予定しています)

#### ●夜の生き物調べ 7月26日(土) 16:00~20:00まで

集合:里山農園(京田辺市普賢寺水取)

近鉄京都線:三山木駅下車 車で15分 申し込みがあれば送迎できます。ご連絡ください。

講師には前近畿大学教授の桜谷保之先生が名古屋からのお越しをお願いしています。生き物を誘うシートを張って夜間照明を行って集まってくる生き物を調べます。これまでは4万匹や2万匹の生き物が集まってました。今年はどういったものが集まってくるでしょうかたのしみです。 里山農園付近ではノコギリクワガタなどが沢山トラップに集まってきました。今年はカブトムシが見つけるのが難しいといわれています。調査行動は夜ですから小学生は保護者同伴でご参加ください。長袖・長ズボン そして帽子、手ぬぐいと水筒は必要です。出来れば夕食の準備も必要です。ご参加は里山の会fddbw257@yahoo.co.jp deまで。氏名・年齢・住所・電話・保護者名を記入してください。参加費は無料です。

#### ●使いやすくて持ちやすいと竹エンピツにお褒めの言葉を多くいただいています。

その元々は割った竹をサンドペーパーで丁寧に研磨されているからです。この作業で泣き所は粉末が飛散して空気が汚染されてしまいます。特に夏場ですと飛散防止のために室内を密閉して冷房を働かせなくてはとても作業を続けられないのです。手工業で行うところに意味があるのですが、竹割作業の効率化と研磨作業の改善が前進させ改良出来ていないのが致命傷となっていました。この度、淀川電機製作所が7月14日午前9時30分にモデルを持参してみますのでご検討をくださいとの親切な連絡をいただきました。木下さんも願ったりかなったりの事なので日程調整をされてご参加されますので、都合のつく皆さんもご出席下さると有難いです。

#### ●水辺を楽しむ木津川展【当日自由参加】 8月2日(土)10:00~15:00 場所:木津川流域センター

ミニプールでカヌー体験、ライフジャケット体験、木津川川ガキ団の発表紹介、木津川の生きもの・侵略的外来種ほか 主催:木津川出張所管内河川レンジャー

詳細はこちら https://www.river-ranger.jp/dtl/rc\_0000002557.html



#### ●里山農園の成果物提供の成果品場が2箇所出来上がる

ここ数年変わり映えのしない里山農園の栽培農業でし た。隣接する農業地にご迷惑にならないように成長を続 ける雑草を片付けることにかなりの時間を割いてきまし た。栽培には力を入れては獣害に全滅されることが発生 しましたと、スタッフの若返りもままならない中で、手 のかからない栽培を取り組んできましたが、今年(2025) 年)社会貢献の出来る栽培農業を目指すべきではないかと 提案があり、子ども食堂などへの提供に取り組もうと夏 野菜の種まきや植付けをこれまでになく広く実行しまし た。また悩まされてきた獣害対策としてネットを張り巡 らす対策を行いました。昨年はアライグマに荒らされま したが、今年は効果があってか被害は現在出ておらず、 スイカも大きく育っています。キュウリも順調です。し かしこの暑さでトマトとナスの成長に陰りがみられ気に なっています。当初から懸念していた水対策の不十分さ もありますが、獣害を防止できているのが大変うれしい ところです。これからいよいよ本格的な夏野菜の収穫時 になり、成長にスピードがついてきますので、朝早く涼 しい時間での作業になります。ぜひとも皆様のご協力を 切にお願い致します。



伊藤さんと太田さんが無人成果品場の設置を行っていただきました。大量の成果物を協力金販売で地域貢献ができる体制が完成しました。市役所に出勤される皆さんやご近所の主婦さんのお手伝いが出来ればと考えています。

## 農園部会だより

#### ●7月4日(金)数年ぶりの無人成果品場を設置

収穫したジャガイモ、キュウリ、万願寺、ピ ーマン、ナス、トマトの一部を大住の伊藤さ ん宅の庭先で置いていただきました。完売と はなりませんでしたが、10袋を協力してい ただけました。ご協力していただいた皆様、 本当にありがとうございました。また、定期





無人販売(7/4)

的に開催しますので、ぜひお立ち寄りください。

と油かすをミックスしたものを施肥しました。

#### ●7月5日(土)は夏野菜が暑さでバテバテ

夏野菜が好む気温以上になっているからでしょうか?15時20分には 35.1 度(気象庁京田辺観測所)まで上昇しました。また、雨もふってい ないからか、ナスとキュウリが特に元気がありません。追肥として、ハイポネックスと化成肥料

#### ●7月8日(火)今日もですが、やっぱり夏野菜に元気がありません。

キュウリが暑さに負けているようなので、10本の苗木植付けをしました。また、草刈りも行いま した。更に、鳥除けも設置しました。



鳥除けテープ張り



キュウリは鳥に食べられた

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1094 号 2025-7-17

●竹エンピツ制作における割竹側面研磨の粉塵処理が課題となっていましたが、大阪豊中の製造業者(淀川電機製作所)が持参した集塵機を7月14日に試作運転し、木下さんと山村さんが立会いで性能を確認。推薦機種で十分と判定され、研磨作業の粉塵対策は解決しました。残る竹割作業は、金槌での手割りが素人向きで手作り可能という利点を持つものの、大量生産を見据えた体制整備が必要です。

安価な治具の導入、作業マニュアル策定、研修実施を組み合わせ、品質 と生産性を両立する体制を築くことが急務です。



#### ●京都市檀王寺での京童の定期会場で竹エンピツの提供協力金がありました。7月13日(日)

午前中で2100円もの協力金がありました。子ども達が集ってきて楽しく遊ぶ中でミニイーゼルを隅っこで並べていますとこれまでになく関心を持ってくださっていただきました。今回は一組ずつ紙袋を用意して目を引くように工夫をすると、思いもよらない効果が発揮されました。暑い暑い京都での取り組みでしたがよかったです。木下昌也さんがしっかり店番を務めあげていただきました。



#### ●7月12日(土)夏野菜収穫・草刈りなど

参加者:伊藤、金田、播川、森島、中学生

朝から非常に暑い一日でした。作業をしないで涼しいところで過ごしておきたいな~と思いたくなりますが、農園内の植物はそんなことを気にすることなく成長しています。少数でしたが精鋭が揃ったので、2号地・5号地の草刈りを行いました。ナス、キュウリ、トマトもそろそろ美味しいよ!と言わんばかりに育っていましたので、収穫を行いました。すでに梅雨明け(6月27日ごろ)していますが、梅雨明け

前後を知らせてくれる半夏生を見ることができました。昔から自然にあるものを利用して季節の 移ろいを感じてきましたが、気候変動により難しくなってくるのでしょうか…



園部会だより

草刈り(左:2号地 、



右:5号地)



小ぶりのトマト



美しく咲いている半夏生



●中学生からの報告① (7月12日 10:30)

コムラサキを里山農園のバタフライトラップの中で見つけたと報告が ありました。



コムラサキ(参考写真)

#### ●「京田辺市の自然を学ぶ会」 7月26日(土)

いよいよ夏休みが目前にせまってきました。京田辺市の文化協会が「京田辺市の自然を学ぶ会」を開きます。私たち NPO やましろ里山の会にこのお話を要請されましたので、京田辺市の木とされているナンキンハゼの実を使った松かさツリー作りと竹を使用した竹エンピツの工作を一緒につくることに加えて、自然のお話(スライド20 枚用意して2時間余り)を楽しむことにしました。また京田辺市の昆虫好きの中学生から里山農園などでの観察報告を準備して頂きました。沢山の皆さんのご参加をお待ちしています。市役所前の中央公民館で10時から開始です。

## 

#### ●夜の生き物観察会 7月26日(土) 16:00~21:00 頃まで

「京田辺市の自然を学ぶ会」と同日の 夕方、里山農園(普賢寺小学校から南 800m) で夜の生き物観察会を開きま す。生き物を呼び寄せられる照明灯(ラ イトトラップ)をして調べます。この時 は指導解説者として前近畿大学教授の 桜谷保之教授が名古屋からお越しいた だきます。昆虫好きの皆さんの質問に わかりやすい回答をいただけます。 これまでは多い時には4万匹や2万匹 を数えた事があります。昨年は非常に 暑い夏でした。今年の冬は雨が少な く、梅雨の期間が短くすぐ猛暑が続く という気候になってどんな影響になる でしょうか、現地を観察してみましょ う。みなさんのご参加をお待ちしてい ます。夜の活動になりますのでしっか りした靴や長ズボン、長袖の上着は必 須です。出来れば懐中電灯や筆記具を 持ってきてください。夕食の時間もあ りますので弁当や水筒も忘れずにご用 意ください。小学生のご参加は保護者 の同伴を必須条件としています。参加

### 夜の生き物観察会

#### 7月26日 出

生き物の昆虫は生息場所が水の中、水面、草むら、森、湿地と多彩で、動物界の過半数の種を占めています。それだけ昆虫は環 境に適応し多様に進化したと言えるでしょう。明るさで言えば、昼間に活動するものもあれば 夜間に活動するする昆虫もいま す。なぜ夜に活動するのでしょうか。夜に活動するメリットは何でしょうか。

今回は、夜間、ライトトラップ(ブラックライト=紫外線)に集まる生き物を観察することにします。どんな生き物がやってくるのか楽しみです。

明るいうちに カヤネズミ 樹木にとまっている甲虫観察会も行います。みなさんの参加をお待ちしています

集合 16時30分 普賢寺小学校 または 現地、里山農園教育棟

場所 里山農園 里山農園 京田辺市水取菰谷 普賢寺小学校から南 800m

**計導 桜谷保之 元近畿大学教授 里山の会顧問** 

指導スタッフ 野村治(里山の会理事) 金田徽(里山の会昆虫世話係) 服装 長袖 長ズボン

持ち物 お茶 軽食 ライト 網 ケース等 帽子

参加費 無料

プログラム

参加申し込み 事前の申し込み 住所 氏名 年齢学年 電話番号 ■

子どものみの参加はできません

雨天の場合 警報になれば中止 少雨開催の方向

連絡先問い合わせ 0774-64-4183

17:00 開会挨拶 諸注意 自己紹介

17:10 講師紹介 挨拶

17:20 農園周辺の観察開始 農園付近散第

19:30 ライトトラップ開始

20:15 まとめ 交流

20:30 解散



主催 特定非営利活動法人 NPO やましろ里山の会主所 京田辺市田辺深田 15 電話 0774-64-4183 (f 兼)

親子事業として京都交響プロジエクト交付金に申請

者の名簿を確定しておきたいので事前の申し込みをお願いいたします。参加費は無料で、駐車場 (無料)もあります。気楽にご参加ください。









#### ●「ふるさと京田辺を学ぶ講座」 7月26日(土)10時から

京田辺市文化協会からの講師要請に応えて、里山の会の活動で得られた自然について話をさせて頂きます。一般的に言って京田辺市は全国でも珍しいとされている天井川がある事、そして高級玉露の生産地でしょう。その他有名なのは一休和尚のお墓のある一休寺などが有名です。現代では文化学園都市として同志社大学がよくとりあげられています。わたしは里山の会での活動を始める前にはこの程度のものだとの認識でした。しかし木津川の生育植物や普賢寺地域の植物と生きものを知る機会にめぐまれて、近隣では見られない貴重な生物が豊富に生き残っている姿から京田辺市の環境に誇りを持てるようになりました。その一端を子どもたちに伝えられたらと思い準備を進めています。また楽しみな夏休みなのですが、何か工作のお手伝いが出来ればと里山の会の得意の一つ京田辺市の木に指定されている「ナンキンハゼ」の実を使って松ぼっくりを美しく飾る工作を中心にして、真竹で竹エンピツつくりも準備しています。楽しいひと時を過ごしましょう。いい思い出になればうれしいです。

●日本で一番古いとされている書物が「古事記」とされていますが、蚕についての記述がされていて、その場所が普賢寺ではないとも理解されています。継体天皇が筒木の宮についても述べられています。当時養蚕されていたとされる桑の木を、植物学者の村田源先生が木津川で発見されて大きな話題になりました。先日里山の会の代表代理の光田重幸先生が普賢寺川下流で唐桑(カラグワ)と思われるものを見つけていただきました。これは江戸時代に幕府によってこの桑は伐採されしまったものですが、木津川や普賢寺川に生育していたのです。明治以後養蚕に使われている現在の桑は葉の厚さが厚く魯桑(ロソウ)といわれるものです。副理事長の森島さんは、このカラグワを参加者の皆さんに触ってもらい実感していただきたいと考え、用意してくれる段取りをされています。ご期待ください。5mほどの高さになっているとのことです。

#### ●里山農園野菜販売所 「うれしい報告」

太田さん販売所報告 初めて完売しました! 19 袋出したのですが、お金は 2000 円入っていました! この間の不足分を入れてくれたのかなぁ!」と伊藤様から連絡がありました。

協力金が不足することはこれまでは多くの無人販売では仕方のないことだと諦めていました。今朝の事務局会議(7月23日)では大多数の人びとは正しく払ってくださっているので、一部の心無い行為を全体に広げる扱いはいかがといった意見もありました。









こんな新鮮でおいしそうで減農薬の野菜を並べました

#### ●綾史郎先生が竹蛇籠の編み方を学びにお越しになりました。 7月23日(水)

大阪の芥川では豊かな川づくりを目指して竹蛇籠を編み上げようとお越しになりました。先生が持ってこられた紙テープで作った竹蛇籠の模型作りを2時間かけて先生と太田さんが一緒に編み上げていただきました。現場での竹を使った製作でなく、紙による机上でのなれない取組に頑張っていただきました。竹蛇籠の取組で一番苦労したのは竹の切り出しと製作場所への運搬、そして7mの竹割の素材づくりでしたとお伝えしました。そのうえで骨組みを素人集団、里山の会のメ

ンバーが失敗を幾度も重ねてみんなで学びあいましたとの苦労話をしました。そしてできるなら 9月27・28日京都府立植物園での「生き物フェスタ」で行う竹蛇籠製作講習会へのご参加をすすめました。

●梅雨が終わり夏休みが始まりました。生き物たちが次の世代に引き継ぐ取り組みが一斉に始まりました。昆虫好きの若者たちも活動が広がりました。里山の会で昨年から昆虫観察を進めてきた2人の中学生は7月22日(火)の7時から里山農園で観察を行ったとの報告がありました。自転車で新田辺駅付近からは40分ほどかかるとのことでした。この朝はミヤマクワガタやノコギリクワガタが見つかり、ゴマダラチョウが卵を産み付ける現場に出会ったとの事でした。前日の21日には大変元気なタマムシを柄の長い補虫網で捕らえられたと報告がありました。7月26日の文化協会の発表会まで元気に生きていたら参加者に見てもらいたいといっていました。

#### 中学生の観察行動報告②

今週の日曜日、僕は里山 農園でチョウを観察して いたのですが、16号地 に、生えているねむの木 に、カナブンがついて、 るのを見つけて、もした。 を見上げるのが出ているのが出ているのが出ているのが出ているのがはない。 と思い、上を見上げる とした。



ねむの木から樹液が、出ている様子



数日観察 樹液の出ているねむの木についていた虫は、(樹液に来ていた虫)は、カナブン、 キタテハ(違ったかもしれませんが)だけでした。

カブトムシ、クワガタムシは、来ていませんでしたが、今週の観察会で見ていただくと、カブトムシ、クワガタムシもいるかもしれません。皆さんもぜひねむの木を見てみて下さい。

#### ナガサキアゲハの飛翔を確認できた



2025年7月15日里山農園で金田さんとバタフライトップの確認をしていたときに、ナガサキアゲハの雌が山の方から飛んでくるのが見えました。残念ながら採り逃がしました。ナガサキアゲハは、元々南方系の蝶でモンキアゲハと並び日本で最も大きくなる蝶のひとつで、里山農園であえてとても嬉しかったです。

#### ●里山農園の巣箱に モンスズメバチの巣を発見 吉村君が見つける

モンスズメバチは日中から活動していますが、日が暮れても活動することが知られています。他 のスズメバチの仲間は暗くなってから活動することはほとんどありません。ですから、夜間にカ ブトムシなどを取りに行った際にも気をつけたい昆虫です。ヨーロッパでは「モンスズメバチに 3回刺されると死ぬ」という迷信のようなものもあったようです。その結果、かなり数を減らし た地域もあるようで、今では絶滅危惧種に指定されている地域もあります。モンスズメバチは比 較的攻撃性が高いスズメバチになります。オオスズメバチほど毒性は強くありませんが、危険な ことに変わりありません。見つけてもむやみに近づくなど刺激しないように気をつけましょう。

#### ●中沢君が「カブトムシ・クワガタムシを守る取り組み」 15 枚の画面を使って説明。 7月 26日(土) 少なくなっている原因を①気温上昇②土地開発による生育地の減少③人気で採る人の増加ではな いかと説明されました。また京田辺市の特徴は天井川と言えるのではないか、そして子どもは風

の子といわれるように自然と遊 ぶことで多くのこと学び取り成 長すると強調されました。他の 発表者からは特産品はナス、エ ビ芋、タケノコで生産者の減少 が課題で、玉露生産では日本一

を幾度も得るほど優れた技術の街であり、 茶色のお茶から緑茶へ製法を編み出した永 谷宗円が紹介されました。日本一高い木は ② 土地開発に伴う生育地減少 京都の花脊にあり、木津川には917種の植 3人気で捕る人が増加

#### カブトムシ・クワガタムシを守る取り組み 自然を大切にする仲間の輪を大きくする NPO法人やましろ里山の会 ふるさと京田辺を学ぶ講座 2025年7月26日



#### 考えられる原因

- ① 気温上昇



物が生育できていて絶滅寸前種が8つもあり、山では4億年前の生き物ヤマトサンショウウオが 生息する自然環境を持っている誇れる街だとお話ししました。現地現場に出かけて本物を見たり 触れたりすることが大事と強く語り上杉鷹山の「為せば成る」の言葉で締めくくりました。11時 過ぎから松かさツリー作りや竹エンピツつくりなどに挑戦いただき参加者全員が楽しい工作をし ました。現在の養蚕につかわれている「魯桑(ロソウ)」、古代の鷹山に使われていた「唐桑(カラ グワ)」をこの日の朝から森島副理事長が普賢寺川堤で採取して来て下さり、葉の厚さを実感する

体験も行いました。



#### ●この夜開かれた「夜の生き物調べ」で 20 時ごろに集まってきたのは 2470 匹の虫 たちでした。

7月26日前後の京田辺市の気温は36

度という厳しい暑さが続いていました。前日の準備も大変な暑さの中での作業でしたがスタッフ の皆さんには大奮闘をいただきました。そして 16 時集合開始ですので、午前中の取組で頑張って

第2段階の開始ですから休み間も無く頑張っていただきま した。集まった皆さんは35人の参加者でした。里山農園は 虫の観察が出来るように通路部分以外には除草作業を控え て、集まった虫好きの子ども達は元気に農園の中を駆け回 り、網を振りました。こうして捕まえたものを桜谷先生や



お父さんたちに名前を教えてもらいました。少し陽射しが傾き始めた頃、里山農園で有田さんが 栽培し、普賢寺川の水でひやしておいた大きな西瓜2個を切って参加者にふるまわれました。農 園を駆け回った後での水分があふれる冷たく甘い西瓜の味わいは格別だったのではないでしょう か。何年も農園で栽培を試みましたが、イノシシや鳥に妨害されてうまくゆきませんでした。今 回初めて里山農園の素晴らしい成果を分け合う事ができました。

この日、里山農園で確認できた生き物は中沢洋斗君が記録してくれました。下記のとおり 41 種でした。 アカイエカ アミガサハゴロモ アメドキアリ イラガ ウエスダシャク エダシャクの仲間 オオスジ コガネ カゲロウの仲間 カツオブシムシ カブトムシ カメムシの仲間 クサカゲロウ クロコガネ クロヤマアリ ケラ コアオハナムグリ コオロギの仲間 コガネムシの仲間 コクワガタ コシマゲン ゴロウ コフキコガネ サシガネムシの仲間 トキマダラヒカゲ シオヤアブ スジコガネ センチコガ ネ ダイミョウセセリ ツノトンボ ドロバチの仲間 ニイイニイゼミ ノコギリクワガタ ハエの仲間 ハネカクシの仲間 ヒシバッタの仲間 ヒトスジバカマ ヒメカメテントウムシ マグソコガネ マツモ ムシ ミヤマカミキリ メイガの仲間 モンスズメバチ ヤガの仲間

#### ●結成30周年記念の取組ついて 7月30日(水)の事務局会議から

色々な提案を希望してきましたが、積極的なものがあまり無く、日時や会場、記念講演の演題や講師依頼を行う場合多くの課題が発生いたします。少なくとも最低項目だけは決めておかねばならないと思いますので決定させていただきました。最終確定は次回第2回理事会(8月下旬)での決定確認となりますが、一応下記の通り準備を進めて行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします

開催日時:2026年11月14日(土) 式典:コミニティホール 祝賀会:料亭・大扇(変更有)

#### ●残念な報告

春先から里山農園の有り方等で新しい展開を提案されてきた方が退会表明をされました。まことに残念な事態をお知らせしなければならない事になりました。

#### ●木津川沿線(京田辺市在住)から久し振りに河川レンジャー候補者が生れています。 大いに彼女の活動を支えて次の世代を担っていただけるよう協力をいたしましょう。

淀川発見講座 5月31日、レンジャー養成講座①6月21日、②6月28日、③7月12日の4回の講座を完全に受講されました。今年9月に行われるプレゼンテーション(レンジャーとしてどんな活動をするのか)の準備を進めておられます。まだまだ猛暑が続く天気予報です。気を付けて夏を乗り切りましょう。





# 農園部会だより

#### ●里山農園のモンスズメバチの巣 8月2日(土)に撤去 焼却できました。

土曜日の農園作業日に森島 金田 播川さんと中学生の中沢君が10号地 の巣箱を出入りする蜂を観察して飛 び出していったハチが巣に戻ってき たらしいと判断した頃合いを見計ら って入り口をガムテープでシッカリ





ふさいで焼却処分をいたしました。これで何事もなくなり 安心して草刈りや成果物(ナス・万願寺・トウガラシ等)を採取出来 ました。里山農園には巣箱が3個取り付けられていますが、今のとこ ろ小鳥の入室はなく空箱になっています。これからはハチなどの格好 の巣つくりに利用されるかもしれませんので注意をしながら農園での 作業をしてください。



#### ●里山農園の草刈りを実施 8月5日(火)

8月に入ってさらに暑い夏が続きます。この暑い中ですが斜面や通路、畑の中の雑草は暑さをものともせずに成長を続けています。成長のスピードは驚くほど速く7月10日頃刈取ったものが写真のように丸山を覆いつくしてきています。昆虫観察会も夜の生き物調べも無事に終わり、ここら辺りが刈り時ではないかと3人で草刈りをしました。中学生の中沢君には昨年に植樹をしたクヌギの若木の周囲の除草をお願いしました。













#### ●文化協会から講師料をいただきました。

7月26日の「京田辺市の自然を知ろ う」の取組でささやかではありました がお話をさせて頂きましたところ、協

会から思いもよらない講師料が届けられました。また工作を指導しました材料費も併せていただきました。いずれもこれからの活動費の一部に使用させていただきます。ありがとうございました。ご参加になられた皆さんのご感想をお寄せいただければ大変参考になります。どうぞよろしくお願いします。

#### ●結成30周年記念事業へのご協力のお願い

桜谷先生より、結成30周年を記念する取り組みとして、会誌『里山の自然』第1号から第58号までの総目録の編集を試みてはどうかとのご提案がありました。

この作業は、植物・生き物・里山農園などのテーマごとに分類しながら、50 冊以上の会誌を読み解いて整理するという、非常に膨大な内容になります。だからこそ、多くの方にご参加いただければ、個々の負担も軽減され、より充実した成果が期待できます。皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

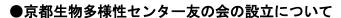
過去の事例として、上島裕さんが現役時代に京都府内の植物愛好家や諸団体が発行してきた植物関連の冊子を収集されました。最も古いものは昭和16年の文献で、積み重ねると高さ1.3mにもなる膨大な資料でした。上島さんはそれらを一人で丁寧に読み取り、資料としてまとめられました。

その後、里山の会では、パソコンの操作を習い始めた方も含めて協力 し、原稿をデータ化する作業を進めました。こうして完成したのが

『京都府植物誌目録ノート』です。これは今も貴重な資料として活用されています。

この経験から、里山の仲間にはパソコンに精通した方も多くおられます。今回の目録編集も、決して難しい作業ではありません。モデルを作成して進めていきますので、ぜひお力添えをお願いいたします。

現在、この目録ノートは10冊ほどが手元に残っており、原本のコピー資料も1組保管されています。ぜひこの機会に一度手に取ってご覧いただき、資料の価値を感じていただければと思います。 皆さまの知恵と力を集めて、30周年にふさわしい記録を残しましょう。



8月6日京都市役所の会議室で14人の出席者で会議が開かれました。議論になったのは2026年5月に発足総会の開催を行うことが確認されました。友の会は保全団体及び個人の親睦を深める事、次世代の担い手育成、自然環境の保全と活用を目的にして設立されています。この日の提案は事業内容や運営体制と会費について等3回の生き物フェスタが果たす役割の重要さが強調されたと感





じました。これまでは曲がりなりにも継続してきた自然環境保全ネットワークの解消ではなく継続すべきとの意見も発言されました。提案では自然誌博物館建設の課題が後に位置付けられていることに強い異論も出されました。友の会の発足に向かったスケジュールの中で1月の七草摘みの会などが取り上げられていました。

出席者は里山の会とは顔見知りの方々が多数おいででした。竹門・宮崎・西野・清水・伴・宇野 さんと京都市役所の職員と生物多様性センターの皆さんでした。



#### NPO やましろ里山の会 週刊ユース 1098 号 2025 年 8 月 14 日

#### ●里山農園で二匹目のマムシを捕獲

8月9日の定例作業日の朝、里山農園の2号地の水受けの桶に再びマムシが落ち込んでいるのが発見されまし た。これは今年二度目の出来事です。これまで一号地と二号地の東角の山裾のところでよく見つけてきました

ので、草刈りを徹底的に行ってきました。近頃この部分での栽培することが少なくな



って人が近づく回数が少なくなってきているようです。ここは湿気があ って日陰でもあり、里山農園ではマムシの生育地には適地を考えられ ています。ところが今回発見されたところまでは距離がありますので 移動するにはかなりの草むらがマムシには必要に成るのではないでし ょうか。ここにはカエルなどの小動物がいるので狙い処になっている のではないかと思われます。大ものだと桶に落ち込んでも立ち上がれ るのですが、マムシの大きさでは逃れられずにいた様子です。これらか ら推察すると行動力はかなりの距離になっているので

里山農園ではこれまで以上に足元に気を付けなければ ならないのではないでしょうか。





#### 長靴で足を防御

#### ●9月6日 第29回里山講演会の講師は小林慧 人氏に決まりました。

小林さんは同志社大学に在学中仲間の皆さんと ともに里山の会を度々訪れ天井川や木津川での取 り組みに積極的に参加されました。そして木津川 レンジャー学生部として魚採りではその腕前を発 揮して指導にあたっていただきました。卒業後は 京都大学の院生となって京都だけではなく日本中 を駆け回りアジアなど海外にも視野を広げて同志 社時代に関心を持っていた竹への研究課題に取り 組む活動を展開されています。こうした経過から 幼少の頃の数多くの経験が大切と強調されていま す。今回はこうしたところを深めていただければ とご依頼いたしました。また近辺では高齢化があ らゆる部門で問題となっていますが、特に山林で の竹の繁茂が問題になっていますのでいいヒント を学ぶ事が出来ればと思っています。時間が許せ ば質疑応答をしっかりとれるように致しますので 多くの皆さんのご参加をお願いいたします

#### 第29回 里山護演会←

今回は里山の会で共に活動を進めてきた「小林慧人さん」を迎えて、タイトル「子どもと生き の」、サプタイトル「竹の関心が育んだ自然とのつながり」としてお話をお願いしています。小林 慧人さんは大阪池田市出身で建築家のお父さんの影響を受け、同志社大学に進み木津川河川レン ジャーとして、仲間の学生たちと天井川など地元の地理や歴史を訪ねて学び、幼児たちと木津川 での魚とりを取り組み、そこで池田小学校の水野先生たちから学び取った川の面白さを活かした 指導で腕を発揮されました。大学を卒業して京都大学院農学部研究科に進み、竹類の研究に興味 を深め日本国内はもちろんアジア諸国や世界各国の視察を通して識見を深められました。そして 現在森林研究所の職員として日夜広く活躍をされています。今回はこうした成長の道に進んだ幼少 の頃の経験の大切さなどを子育て中の保護者の皆さんとともに語り合う事が出来ればと多忙な 中、時間を取っていただきました。ぜひ多くの保護者の方々のご参加をお願いいたします。

#### 9月6日(土)13:00~15:30~

京田辺市中央公民館↩

講師 小林慧人 森林研究所職員〈30歳〉←

演題 「子どもと生きもの」↩

竹への関心が育んだ自然とのつながり

幼少期の自然体験が、どのように人生の方向性を形づくるのか。 子育て世代の皆さんとともに、自然との関わりの大切さを考える時間です。

中学生の活動発表 中沢洋斗(三年生) 吉村開(三年生) チョウや生き物について←

参加申し込み 受付人数

参加費 主催

メール fddbw257@yahoo.co.jp. 氏名 住所. 電話 ↔ 50 人 先着順に受け付け↔

無料 先着順 参加可否はメールで通知します↔ 特定非営利活動法人やましろ里山の会々 事務所 京田辺市田辺深田 15 〒610-0331↔

後援

京田辺市教育委員会 京都府山城教育局↔ この事業は京都府地域交響プロジェクト交付金事業です↔

#### ●第二回理事会の開催 8月29日 里山の会事務所 13:00~16:30

2025 年度は新理事長に長らく特別代表として発展に尽力を頂いてきた岩佐英夫さんにご多忙の中、ご無理を申してご就任していただきましての理事会ですので理事諸氏のご出席をぜひよろしくお願いいたします。議題としては2025 年度の前半の事業の振り返り、年度後半事業の企画と結成30周年事業についての議論を予定しております。よろしくお願いします

## ●国交省淀川河川事務所から「川の指導者講習」の案内がくる 河川協力団体に

今年の夏は異常な高温が続きました。そして川や海などでの水難事故が多発し連日報道されています。里山の会は国交省の河川協力団体の一員として心を痛めています。魚とりや川辺でのイベントを数多く実施している団体として水難事故防止のための基本的な指導者講習会開催の連絡通知が届きましたのでご紹介をさせて頂きました。10月1日(水)9時30分から16時30分で午前中は座学で午後は現地での実習

#### 第2回理事会

2025年度もあわただしくもう半年も過ぎ去りました。いよいよ新しい理事長のもとで後半の取組が始まってまいります。

課題であった後継者育成には少し良い兆しが見えていますが、日常業務 は超高齢者が活動の中心を担うことが続き、高温の夏日の連続で河原など での夏休みに実施してきた魚とり体験などを避けなければならないことに なりました。それに代わって夏の事業では昆虫などの山や林での調査観察 がにぎやかに取り組まれます。前年度後半に参加した「タナクロ」や、京 都水族館との新しい協力関係が年度後半に引き継がれてさらに充実される 見通しです。また京都府南山城広域振興局主催の「やましろの御馳走フェ ス」への初参加が予定されています。これまで以上に「生き物フェス、城 陽市緑花フェス、近畿「子どもの水辺」in 京都など」広く協力し合う場面 が計画されるようになりました。特に滋賀県立琵琶湖博物館から贈呈を受 けた冊子に竹蛇篭や蛇篭が特集され、木津川に設置した現物の写真が掲載 されて全国に紹介されるようになりました。組織内部の多くの課題を抱え つつ広く多くの活動団体との連携などが拡大される新しい役割を果たして いく段階を迎えています。こうした状況のもとでの2025年度第2回理事 会は前半を振り返り、さらに新年度を展望した改善事業への提案を見つけ 合い、30周年前年の有意義な理事会への準備をお願いいたします

#### 8月29日(金) 午後1時~4時30分 会場 単山の会事務所

議題 1 事業の振り返り

農園部会、植物観察、 魚部会、ミツバチとメダカ観察 竹サインペン 、昆虫部会、木津川希少種保全部会 イタセンパラの復活を目指す、ヤマトサンショウウオ調査観察 その他

- 2 後半時のイベントについて 各イベントの開催目的の再確認
- 3 その他

が八幡市のさくらであい館で行われます。ぜひ多くの皆さんのご参加をお願いいたします。特に午後の実習では ウエットスーツ着用(主催者無料貸し出しされるのでサイズ登録)が必要ですと言わせください。

または要綱をメールで送りますので連絡をください。 → fddbw257@yahoo.co.jp

#### ●集塵機が入荷しました

竹サインペンの制作では竹の四面の手触りをよくするために研磨作業を行う必要がありますが、その折に粉末粉が飛散するのでそれを防止するための集塵機を探し求めてきました。このたび、大阪の淀川電機製作所で手ごろな製品(値段や性能・修理)が見つかりましたので購入をいたしました。これまでは家庭用の掃除機で代用してきましたがそれに比べると粉末の収集には格段の能力が発揮されましたが、完全に飛散を防止できるには少し吸引力が弱いように見られました。能力アップを求めれば騒音もおおきくなりますのでこの辺りでと思われます。

#### ●木津川出張所西田所長との話し合い 8月14日(木)

淀川事務所環境課長・松本氏、淀川事務所正木氏の出席で 環境課長の参加は予想外でした。里山の会は、有田、太田= 理事、竹門康弘・顧問、山村常務理事の4人でした。

毎年定期的に里山の会の要望を出して、木津川出張所長との話し合いをおこなってきました。木津川出張所からの返答では予算は昨年と同額が計上されていますが、物価高騰や人件費の上昇などで実質事業の縮小がやむなしというのが現状だとの苦しい胸の内が語られました。借用物品の貸し出しは例年通りで実行できる。木津川漁協への申し入れは実情を伝えるところが精いっぱいだと説明されました。竹蛇籠製作については昨年通り協力が可能になるよう努力するとのことでした。

竹門先生から 2015 年から取り組んできた木津川本川での竹 蛇籠や中聖牛設置の効果について詳しく解説がされまし た。環境課長も何度もうなずいていただく場面がありまし





た。今後京都大学院生の藤井さんの研究成果などを里山の会の諸メンバーと共に学習会を開催することに意見が一致し、新年1月に開催することとなりました。これまで里山の会は5群16基の中聖牛を設置してきました。この取り組みで製作した竹蛇籠は200本を超えています。そして竹門先生のお話だと設置場所から上流200m、下流300mに影響が及び、水の流れと流れる土砂に変化を与えているとのことで、上空からの写真での説明がありました。里山の会も長年の取組で年を重ね技術の伝承に懸念が生じて、今後継続出来ていけるのだろうかというのが現状で、これまで通り完全ボランティアでは考えられないでしょう。これまで5群16基の中聖牛の組み立てと設置、200本余の竹蛇籠を製作した実績及び研究成果を、国土交通省淀川河川事務所はどのように評価をしているのでしょうか、これから河川管理にどのような利活用を考えておられるのかを、強く求めました。頑張ってきたものとして是非お聞きしておきたいものです。毎年連続して行ってきた木津川出張所への協力依頼をこれからも繰り返さなければならないのであれば、この辺りが身の引き時期ではないのかと考えさせられました。私たち京都大学の研究に役立つならと身を粉にして協力を行ってきましたが、国交省の協力と理解があって取り組む事が出来ましたが、この取り組みへの評価は全くないのが現状です。私たち里山の会は、この貴重な経験と技術を伝承してゆきたいと強く願っていると強調しておきました。

#### ●第29回 里山講演会のお知らせ

テーマ:子どもと生きもの 一竹への関心が育んだ自然とのつながり-

-幼少期の自然体験が人生に与える影響について、保護者の皆さんと語り合います-

今回の講演会では、長年ともに活動を続けてきた小林慧人さん(森林研究所職員)をお迎えし、幼少期の自然体験が人生にどのような影響を与えるのかについて語っていただきます。

竹への関心をきっかけに、木津川での活動や国内外での研究へと広がった小林さんの歩みは、子育て世代の皆さんにとっても大きなヒントとなるはずです。忙しい中、時間を割いてくださった小林さんとともに、自然との関わりの大切さを考えるひとときを過ごしましょう。

(前号で会場を中央公民館としたのは、中央住民センターのまちがいです。)

日 時:9月6日(土)13:00~15:30 会 場:京田辺市中部住民センター「せせらぎ」

参加費:無料(先着順・定員50名)

申込方法:メールにて以下の情報をご記入のうえ、お申し込みください

氏名 住所 電話番号 出来れば年齢 宛先:fddbw257@yahoo.co.jp

講師紹介:**小林慧人**さん(森林研究所職員・32 歳)

大阪府池田市出身。造園家の父の影響を受け、同志社大学へ進学 木津川河川レンジャーとして地域の自然や歴史を学び、幼児との魚とり活動に参加 京都大学大学院農学研究科にて竹類の研究に取り組み、国内外で視察・研究を重ねる 現在は森林研究所にて、竹をはじめとする森林資源の研究に従事

中学生による活動発表-若い世代の視点から自然への関心を語っていただきます 中沢洋斗さん(中学3年生)「ナガサキアゲハ」(チョウ)の観察発表 吉村開さん(中学3年生)「オオムラサキ」(チョウ)について 自然とのふれあいが、子どもたちの未来を育む力になります。ぜひご家族でご参加ください。 皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

#### ●里山農園では今が草刈りの最中に成って来ます

この暑さが何時まで続くのやらと予報を見ますと9月初旬も30度近くなってしまうようです。あっという間に春が過ぎてしまい梅雨もわずかな期間でした。テレビでは熱中症対策としてエアコンの連続運転を継続しなさいと言い続けています。異常な暑さで雑草たちはこの時とばかり成長を図っています。木津川堤防の除草作業でハンマーモアが順調に働いていましたがエンジンの連続使用で温度が上がって出力が低下し、思っていたように能力を発揮できなくなってしまいました。里山農園の雑草たちも成長を続け異常な高さや茎の太さになっていますので、肩掛け機の使用には今まで以上に横に振る力が必要に成って、ここでも思うように作業ができません。それでも刈取らなければと、やる気と力をふり絞って頑張っていただいています。木津川の除草は少なくともあと2~3日のところまで到達していただいています。

#### ●木下さん親子が事務所で竹割作業をおこなってくださいました。8月18日(月)

これまでだとお盆を過ぎると少しは暑さも和らぐものでしたが、体温を超える気温が連続する中で竹割作業を行うことは考えられないものでしたが午後5時まで熱心に頑張っていただきました。また続いて有田さんも来所されて11月に予定している一泊の幹部研修会の下準備の打ち合わせと、翌日の事務局会議の資料作りに汗をかいていただきました。続いて翌日の19日には里山農園の作業日では森島さん、播川さん、太田さん、金田さんに加えて中学生の吉村君も参加してくれました。

#### ●先日の昆虫観察時に結成30周年事業として会誌「里山の自然」の総目録の編集が提案されました。

また京都府の交響プロジェクトの交付金申請の最終修正の連絡が届きました。このお盆は何かと事務作業が重なり休憩の時間が無く17日にやっとメールでの送信ができて肩の荷が下りました。しかし総目録の編集は20日の事務局会議を目標に10号までを読み上げて資料を完成させなければと意気込みましたが9号までが精一杯でした。というのも終日机に向かい読みとった資料を打ち続けるのですが、現在は肩が凝りもみもみを繰り返し、親父が使っていた肩叩きを就寝前に200回はしないと翌日は腕が上がらなく作業に支障が出ることになってしまう体になってしまいました。それでも9号まで進める事が出来ました。あともう少しですのでがんばります。

#### NPO やましろ里山の会 週刊ニュース 1100 号 2025-8-28

#### ●第31回通常総会第2回理事会開催 8月29日(金) 里山の会事務所にて開催

来年 2026 年に特定非営利活動法人やましろ里山の会が、1996 年に発足して結成 30 周年を迎えます。その前の年で前半が過ぎました。通常の活動の展開は順調にすすめられ順調に進められています。懸念の木津川希少植物調査管理業務も木津川市加茂地域(1~2 日程度の作業)になりました。財政も赤字とはならずに前進し、事業参加者も昨年並みの水準です。こうした中で第 2 回理事会を開き、記念集会や会員減少からの脱却などについて深め合いたいと思いますので、理事諸氏は万難を排してご出席をお願いいたします。

#### ●昆虫標本製作会開かれる 8月21日(木)

この30年余りに木津川の生育植物が917種であることなどを明らかにしてきました。その中で実現できなかったのが京田辺市普賢寺の昆虫観察の標本に取組めなかったことです。その取組を8月21日に金田さんと中学生の中沢君と吉村君が実施し、里山農園で開催した夜の昆虫観察会(7月26日)で採取した昆虫を標本箱に綺麗に収める事が出来ました。これまでその必要性が昆虫観察会のたびに強調されて、オオムラサキやホソオチョウ、クワガタムシや蛍を採取してきましたが標本製作までは到達できなったのです。今回中沢君と吉村君の熱心な取り組みで素晴らしい成果が上げられました。木津川の植物標本917種と共に大きな調査証拠物として輝いていくことでしょう。両君の健闘を支えてゆきましょう。





#### ●RAC アシスタントリーダー講習会の連絡あり 河川協力団体として参加を

この夏も多くの水難事故が発生しています。川や海、それにプールなどでも発生しております。施設管理者がおられても事故が起きています。経験豊かで十分な指導者が不足しているのではないでしょうか。そこで国交省からアシスタントリーダー講習会の開催をすると連絡をいただきました。これは事故防止の初めの一歩として、基本中の基本を学ぶ機会でありますので、子どもたちと共に川での取り組みを計画していくために理解しておくことなどの基礎を理解できるチャンスです。こうした専門から教えを乞う機会は今まで行われ来なかったので、9月28日(日)と10月1日(水)の予定ですが、9月末は「いきものフェス」があるので、里山の会としては10月1日の参加を考えています。このチャンスにぜひご参加をいただきたいと思います。

#### ●第28回里山講演会開催近づく 9月6日(土) 京田辺市中部住民センター(せせらぎ 草内)

講師で会員の小林氏は同志社大学の京田辺市のキャンパスで学んでいた頃、里山の会の仲間たちと自然観察や地域の歴史などの興味ある活動に取組みながら校内の竹や地域の竹藪に関心をもち、卒業後はさらに京都大学院で東南アジアを訪ね、卒業後は日本全国の竹林をより多くの活動団体と一緒に研究を重ねておられます。ここに到達するまでの小学生頃には恩師の指導が大きな影響を受けられたとお聞きしております。この頃に得た自然環境からの体験などが今の段階ですごく生かされているのではないでしょうか。この辺りを学びあえればと思います。現在の子どもさんたちの生活は電子機器にとっぷり使ったもので多くの知識を得ていますが、絵や写真を見たり読んだりの単純な視覚での知識だと思います。自然を訪ね見たり触ったりした中から学ぶことが大切ではないでしょうか。この辺りをお話されると思います。ぜひ子育て中の保護者の方々に

学んでいただければと考えております。9月になっても暑い気温が続くようですがぜひお越しになってください。ご来場をお待ちしています。

#### ●里山農園 ゴマダラチョウの幼虫発見 8月26日(火)

農園 10 号地のハンノキの脇にある小さなエノキでゴマダラチョウの幼虫が見つかり、以前オオムラサキの幼虫も見せたポーズを撮影できました。4 匹がいたのですが5 令と2 令だったようです。また万願寺トウガラシの葉っぱでヤママユが静かに動いているのを発見しました。網で捕獲を試みましたが一瞬の素早い動きを見せて逃げられてしまいました。農園の豊かな自然の姿を示してくれた農園の作業日でした。中学生の吉村君と太田さん、金田さん、森島さん、播川さん達が立ち会いました。



#### ●木津川での魚とり 総参加者は50人の予想です。



城陽市教育委員会から「キッズスポーツ☆チャレンジ(で遊ぼう!学ぼう!)」の講師依頼があり 9月13日玉水浜で実施します。昨年は増水の時期と重なり心配しましたが、水位が下がり無事に 実施できました。通路の草刈りにも手間がかかりましたが、当日はオイカワやカワヨシノボリな ど、そしてブルーギルなどの外来魚もたくさん獲れました。後半には川流れを体験できました。

お父さんやお母さんが進んで協力してくださいましたので、すごく楽しい取組になりました。



## ●子どもカヌー体験開催します。案内は8月中にホームページに載せますが、募集は9月1日からです。

こんな感想文をいただきました。

はじめてカヌーに乗りました。小 4 の娘は一人乗りだったのでできるのか心配しましたが、転覆もせず一人でどんどん漕いでいく姿に頼もしさを感じました。景色も美しく、貴重な体験ができました。途中で酔ってしまい、早めに帰岸しましたが皆様、やさしく気をかけていただき嬉しかったです。ありがとうございました。(母 45)

## <mark>参加者募集</mark> 初心者歓迎

#### 子どもカヌー体験

参加者の感想文ではほとんどの方はうまく進む事が出来た。うまく教えてくれたので安心しましなどと感想を述べおられます。来年も参加したいとかまた来ますという子供たが圧倒的です。わずかな時間の体験ですが、素晴らしい観劇や感動を与えてくれる取り組みで、短時間の募集制間で資料になってしまいます。前の社長とんの進さんはとことん木神川を受し、カヌーは難でも操動できるものに、そして軽く持ら遠で出来て普及することを願って签置で京都大学の高木公三部教授と改良に改良を重ね手こられました。そして木津川の笠置を遊びカヌーの英律の地とされ、松本旅館の魅力を得て実施直音然か遠のそばに記念碑を2013年に建立されました。藤田浩さんは川面から眺める景色は平和で心が移ら着きよろしいですよといつも語っておられました。参加した子供たちもきっと同じ感覚を味わってくれていると思います。用意できる最大のご協力を藤田カヌーさんにお願いして取り組みますが風山の会一番の人気のイベントですので週刊ニュースをご覧になって申し込みをお願いいたします。

#### 9月15日(月)祝日 9:30~12:30

募集人数 一人乗りカヌー 23 紙=23 人(子ども優先) 二人乗りカヌー 3 紙=6 人 参加協力金 子ども(洋楽4 年生以上)3000 円 大人=3500 円 当日受付で支払の事 集合時間 厳守の事 打合せ・諸注意・操船指導など教習を受けられない場合は乗船招名







特定非営利活動法人 やましろ里山 事務所 京都府京田辺市田辺深田 1 電話 0774-64-4183 メール <u>fddbw257@yahoo.co.jp</u>

●第 31 回通常総会第 2 回理事会開催 8 月 29 日 里山の会事務所にて開催 高温が連日続く中での理事会となり出席理事は 6 名となりぎりぎり成

高温が連日続く中での埋事会となり出席埋事は6名となりきりきり 立する本当に厳しい理事会となりました。

2025年度前半の事業報告では里山農園からは子ども食堂へジャガイモなどの提供を実行できたこと、夜の生き物調べの参加者が後日来所されて農園の環境が素晴らしいと評価されたことが報告されました。しかし年度当初中心を担った方が退会されて飛躍できる活動が困難になったこと、そして異常な高温と降雨の少なさなど自然の厳しい変化でしたが、獣害被害は網の設置が効果が見られたとのことでし





た。続いてヤマトサンショウウオでは非常な乾燥で2つの生育池も乾燥し、わずかに3月8日前後の降雨によって二対の卵嚢が産み付けられ、一対を京都水族館に譲渡して、後日成体の92匹と未成体の3匹を元に戻す事が出来、水族館との新しい関係が深まりました。次に昆虫観察では、中学生がこれまで数年確認できていなかったオオムラサキの飛翔の確認と幼虫の発見をされたことは素晴らしい成果でした。そして生駒山山上では参加者が全員が飛翔を見られ感激されたと報告されました。各種会員名簿の作成については140名で会費未納入者が50名となっていることが明確になりました。今後の対策として事務局会議に克服の進捗状況の資料で状況を共有しましょうと決定されました。木津川堤防の希少種植生調査管理業務の除草作業は加茂町地域の一部(1日分の作業)のところまで到達できているとの事でした。この夏は高温の中での厳しい作業を本当にご苦労様でした。こうした振り返りを行うとともに後半のイベント日程を予定通りの実行するこ

とを決めました。特に結成30周年記念事業を2026年11月14日(土)にそして2025年度の幹部研修会を岐阜県各務原市竹林救援隊(NPO)その他(国宝犬山城・岐阜羽島市の農園)を1泊で実行しようとも決定しました。

#### ●第 28 回里山講演会参加者募集 9月6日(土) 京田辺市中部住民センター(せせらぎ 草内)

今回講師にお願いている小林慧人さんは学生時代に里山の会員として魚とりや里山農園・木津川での取り組みの企画にも参加していただき、学生河川レンジャーとして役割を発揮していただき、山城地域を今も訪ねて頂いてます。何よりも幼いころの自然とのふれあいの大切さを学びあえるのではないでしょうか。多くの方々のご参加くださることをお願いたします。南方では台風15号が発生し前日の5日には本土近畿地方を通過して、6日は台風一過となるような見通しです。お越しをお待ちしています。

#### 第28回里山講演会

今回も里山の会で共に活動を進めてきた(小林穂人さん)を迎えて「子どもと生きもの」と題して サプタイトル私の体験(竹の関心へ)とのお話をお願いしています。小林穂人さんは大阪池田市出 身、遠闡家のお欠さんの元同市五社大学に進み未津川河川レンジャーとして仲間の学生たちと天 井川なと地元自治区制度や歴史を訪れて学び、幼児たちと不押いでの魚とりを取植、そこで池田 小学校の懇問から学び取った川の面白さを活かした指導で腕を発揮されました。大学を卒業して 以後京都大学院農学に進み木津川で竹類の研究に興味を深め日本国内はもちろんアジア諸国や世 界各国の複繁や研究に周り歳見を深められました。そして現在森林研究所の職員として日夜広く 活躍をされています。今回はこうした成長の道に進んだ幼少の頃の経験の大切さなどを子育で中 の保護者の皆さんとともに語り合う事が出来ればと多忙な中時間を取っていただきました。 せびらくの保護者の方々のご参加をお願いいたします。

#### 9月6日(土)13:00~15:30

京田辺市中部住民センター せせらぎ

#### 譜師

#### 小林慧人 森林研究所職員 (32歳)

◆講師紹介:小林慧人さん(森林研究所職員・30歳) - 大阪府池田市出身。造園家の父の影響を受け、同志社に進学。

- 不敢小で山中国の。 森園町からかか者により、門心にに返す。 - 木津川河川レンジャーとして地域の歴史や自然を学び、幼児との魚とり活動に参加。 - 京都大学大学院農学研究科で竹類の研究に取り組み、

- 京都入学入学院展学研究科で門類の研究に取り組み、 国内外で視察・研究を重ねる- 現在は森林研究所で活躍中。

#### 演題 子どもと生きもの

#### 竹への関心が育んだ自然とのつながり

幼少期の自然体験が、どのように人生の方向性を形づくるのか。 育て世代の皆さんとともに、自然との関わりの大切さを考える時間です

中学生の活動発表 中沢洋斗(3 年生) 吉村開(3 年生) チョウや生き物について

 参加申し込み
 メール
 fddbw257@yahoo.co.jp.
 氏名 住所. 電話

 受付人数
 50人
 先着順に受け付け

参加費 無料 先着順 参加可否はメールで通知します

主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会 事務所 京田辺市田辺深田 15 〒610-0331 後援 京田辺市 京都府山城教育局(申請中) この事業は京都府地域交響プロジェクト交付金事業です

#### **●里山の会から河川レンジャーに挑戦 8月31日(日) プレゼンテーションでカー杯の発表 中西アサ子さん**

里山の会の出身で河川レンジャーとなっていただきましたのは、福井波恵さん、山田信人さん、田中秀行さん、田中美知世さん、山村秀夫さん、村上ゆいさん、中西カヨさん、南良靖男さん、そして中尾博さんとそうそうたるメンバーです。しかしここ数年京田辺市出身のレンジャーの誕生がみられなかったのですが、中西アサ子さんが自主的に淀川発見講座を受講してレンジャー養成座も完璧に終了され、8月31日のプレゼンテーションも終えられました。後は発表を待つのみ

のところまで奮闘されました。本当に素晴らしい頑張りだったと思います。私もレンジャーの一期生として、心からレンジャー誕生を期待しております。

#### ●子どもカヌー体験参加者募集中

毎年多くの参加者をお迎えして親子カヌー体験を実施していますが今年は2日(火)現在、4家族15人の申込が届いています。申し込み開始2日での段階です。これからだと思いますが人気があり安価でもあります。指導も充実していますので、初心者でも安心して参加できます。大いにこのチャンスを生かしてご参加ください。これまでだと季節をよく考えなければなりませんでしたが、温暖化の影響で随分とやりやすくなってきました。先着順で自動受付となっていますので申し込みをよろしくお願いいたします。

#### ●山城ごちそうフェスタ 9月21日(木) 城陽市五里五里の丘



山城の特産品が販売されます。またパンやお寿司、ケーキ、そして野菜等楽しい催しが計画されました。里山の会では松かさツリー作りや竹サインペンつくり、そしてコマまわしなど楽しく面白く愉快な工作で参加いたします。9時30分から15時で終了です。

#### ●クビアカツヤカミキリが京田辺市に出現

梅や桜が枯れさせる被害が発生しています。京都 府で118本で発見されて、京田辺市では47本(府 下の発生本数の4割)の大きな被害が発生していま す。一度定着してしまうと根絶は大変難しいとさ

れています。これはクビアカツヤカミキリが桜などの中で卵を産み、木を枯らしてしまうのです。いったん広がると防御出来る手段はないので伐採して根も掘り起こして焼却ということでしか対応がないそうです。活躍するのは5~8月で木くずが排出されるそうです。発見したら市役所に連絡をお願いします。

●竹蛇籠製作の竹切始まる 竹の選別作業9月4日(木)15時 草内倉庫前に集合 その後現地に移動 50本の竹にマーク付け〈約30分) 終了すると木津川堤防のハンマーモアで除草作業(約80分)







#### ●いきものフェスタ 展示や発表の準備が進められる 9月27-28日

### 第3回いきものフェスタ 9月27日

※差財団法人 利益財団 独立行政法人規模等生任金機構 (水質用のまときをラスナートロー 年第11の日シ頭をデるネットワーク MPIR人あおつ環境フォーラム ビオトーブプロ 何恋地小学校 演都自然が富久自然工作たみたみ MPIR人自然概算和課長及初度概念(nol-kyoto) 









- ●竹蛇籠製作講習会(4 組をくみ上げる)
- ❷松かさツリー作り
- ❸竹鉛筆つくり
- の中学生の活動発表
- ●会活動紹介ポスター掲示

9:3 開園です お手伝いを募集中です













京都植物園で開催される「いき ものフェス」は今年で3回目に なります。里山の会では正面玄 関温室前の広場で竹蛇籠製作講 習会を開催いたします。これま で来園者の人びとに製作を呼び 掛けてきて、外国人や子どもた ちも参加していただくなどして 長さ3m、直径45cmの大きな蛇 籠を6本から10本を製作して きました。今年は同じ大きさを 8本は作り上げたいを計画をし ております。大阪の芥川や福井 の九頭竜川から参加したいとの 連絡がありました。また開催本 部からも近くの方々や学生の皆 さんに参加を呼び掛けていただ きたいとお願いをしています。 2 日間で持ち帰れないほどの製 作が出来ればと期待していま す。また活動紹介ではA1フレ ームを 10 枚以上使って紹介ポ スターを展示いたします。そし て子どもも大人も楽しい思い出 となる「松かさツリー工作」と 海ゴミ対策の一つ「竹エンピツ つくり工作」「コマまわし木工 工作」を提供しようと準備を進



めています。出来れば皆さんのお手伝いをお願いいたします。

中学生の中沢君と吉村君が27日の15:00からこの日の締めくくりの活動発表 を行います。どうぞ応援に駆けつけてください。2人にはこの夏休みも毎日ほ ど自転車で里山農園に出かけて観察活動を展開していただきました。発表をご 期待ください。

京都いきものフェス 掲載ホームページ

https://www.pref.kyoto.jp/biodic/news/250401ikimonofes.html

#### ●会誌「里山の自然」記念号作成にご協力をください。

先ほどの理事会で結成 30 周年記念事業は 2026 年 11 月 14 日と決定されました。これまで多くの 講師にお願いして里山の会の方向付けを学ばせて頂いてきて、この日を迎えることが目前に迫っ ています。会誌 59 号と 60 号で会員の皆さんに登場いただきたいと考えています。ぜひこの機会 に一度ご寄稿をお願い申し上げます。現在までの最高会員数は2005年19号時の268人でした

が、2025 年 59 号では 140 人となっていますのでお寄せいただいた原稿はすべて掲載が可能と計算しております。えんぴつ等手書きで送ってくださっても結構ですのでご協力のほどよろしくお願いいたします。48 号までを読み通しますと苦労した歩みが懐かしくよみがえるものです。ぜひご協力をお願いいたします。

## 自然を大切にする仲間の輪を大きくする

非営利活動法人 やましろ里山

事務所 京都府京田辺市田辺深田 15

電話 0774-64-4183

メール fddbw257@yahoo.co.jp

## 結成 30 周年記念事業

## 会誌 59 号原稿募集

#### 発行予定日 10月 30日

59号・60号に全会員 140名の顔写真を掲載を目指します

里山の会の事業は6か月で少なくとも30回程度の取組の展開を進めています。そして定期開催を含むと50回には到達してくるのではないでしょうか。それぞれの皆さんが得意の分野を活かして進めましょうと一昨年の総会で確認をいたしましたが、依然として旧態どおりから脱却できずにスタッフは力を振り絞って活動に力を注いでいます。その出来栄えを多くの会員に届けるとして発行を継続してきました。多くの会員の方々は参加はしたいが都合があって出席が難しいという都合もあるので、できる限り内容をお伝えしていくことを目標にして発行を継続してきました。とうとう30年を目前にするところに到達しています。

結成30年を記念して会員各位が一度は寄稿をいただき、みんなで作り上げている機関誌として位置付けるために、仲間の広場への投稿をお願いいたします。具体的には顕写真をお寄せください、市町村名を添えて掲載したいと思います。ご都合が無理な場合はスタッフがお伺いをする時間を合わせて、全会員様が掲載されるように取り組みたいと思いますのでよろしくご協力をお願いいたします。事務局会で理事の播川さんと会計の事務処理を頂いている小川様のお骨折りで2025年度の会員名簿140名が確定いたしました。これを活かして初めての取組を開始しますのでよろしくお願いいたします。また出来ればお便りをお寄せくださるようお願いいたします。

## 自然を大切にする仲間の輪を大きくする

非営利活動法人 やましろ里山 電話 0774-64-4183

事務所 京都府京田辺市田辺深田 15

メール fddbw257@yahoo.co.jp